

Clavinova®

取扱説明書

CLP-785

CLP-775

CLP-745

CLP-735

このたびは、ヤマハクラビノーバをお買い上げいただき、誠にありがとうございます。
この楽器は、高品位な音とタッチで演奏をお楽しみいただける電子ピアノです。
この楽器に搭載された機能を十分に活かし、演奏をお楽しみいただくため、
本書をよくお読みになってからご使用ください。また、お読みになったあとも、
いつでもご覧になれるところに大切に保管いただきますようお願いいたします。

この楽器のお取り扱いについては、ご使用前に必ず4～7ページの
「安全上のご注意」をお読みください。

組み立て説明については巻末をご参照ください。

付属品(お確かめください)

- 取扱説明書(本書) × 1
- 楽譜集「クラシック名曲50選」 × 1
- 保証書 × 1
- 製品登録のご案内 × 1
- 電源コード/電源アダプター × 1
- ヘッドホン × 1
- イス(高さ調節可) × 1

ハンドルを時計回りに回すと高くなります(ご購入時には、ハンドルは固めに締められています)。

取扱説明書について

この楽器には、以下の説明書が用意されています。

冊子マニュアル



取扱説明書(本書)

この楽器の機能や使い方を説明しています。

● 準備編

ご使用前の準備について説明しています。簡単な準備だけでピアノ演奏を楽しめます。さっそく音を出してみましょう。

● 本編

内蔵曲を再生したり、演奏を録音するなど、練習に役立つ機能について説明しています。

● 詳細設定編

この楽器をさらに便利に使いこなすための細かい設定について説明しています。

● 資料

メッセージ一覧やボイス一覧などの資料を掲載しています。

本書の見方

例 **785** 775 745 735

特定のモデルにだけ搭載された機能であることを示します。ここで説明している機能はCLP-785にはありますが、CLP-775、CLP-745、CLP-735にはありません。

電子マニュアル(PDF)



データリスト(CLP-785)

XGボイス一覧、XGドラムキック一覧のリストが掲載されています。



スマートデバイス接続マニュアル

この楽器をスマートフォンやタブレット端末などのスマートデバイスと接続する方法を説明しています。



コンピューターとつなぐ

この楽器とコンピューターを接続する方法や、データを送受信する方法などを説明しています。



MIDIリファレンス

この楽器のMIDIに関する資料を掲載しています。

これらのマニュアルは、下記ウェブサイトの「取扱説明書」のページからご覧いただけます。

サポート・お問い合わせ

<https://jp.yamaha.com/support/>

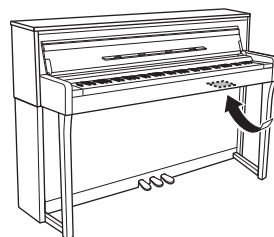
スマートデバイスアプリ「スマートピアニスト」

お使いのスマートデバイスに「スマートピアニスト」(無料)をインストールすると、スマートデバイスで音色選択やメトロノームなどを直感的に操作したり、譜面を表示したりできます。詳しくは77ページの「スマートデバイスアプリを使う」をご覧ください。

機種名(品番)、製造番号(シリアルナンバー)、電源条件などの情報は、製品の底面にある銘板または銘板付近に表示されています。製品を紛失した場合などでもご自身のものを特定していただけるよう、機種名と製造番号については以下の欄にご記入のうえ、大切に保管していただくことをお勧めします。

機種名

製造番号



銘板は、製品の底面にあります。

(bottom_ja_02)

目次

付属品(お確かめください)	2
取扱説明書について	2
安全上のご注意	4
注記(ご使用上の注意)	8
お知らせ	8
Bluetoothに関するお知らせ	9
特長	10

準備編 12

各部の名前と機能	12
音を出してみましょう	14
電源を入れる/切る	14
譜面立てを使う	17
音量を調節する[MASTER VOLUME](マスターボリューム)	19
ヘッドホンを使う	19
ペダルを使う	21
基本操作	22

本編 24

ピアノ演奏を楽しむ	24
2種類のグランドピアノを選ぶ	24
ピアノの響きやタッチ感度を変えて楽しむ(ピアノルーム)	25
いろいろな楽器音(ボイス)で演奏する	28
ボイスを選んで弾く	28
ボイスの特徴がわかるデモ曲を聞く	30
音に効果をかける	31
2つのボイスを重ねて鳴らす(デュアル)	33
鍵域を左右に分けて別々の2つのボイスで弾く(スプリット)	34
スプリットとデュアルを同時に使う	35
二人で一緒に弾く(デュオ)	36
メトロノームを使う	38
リズムに合わせて弾く	40
曲(ソング)を再生する、練習する	41
ソングを再生する	42
右手または左手パートだけを再生する(MIDIソング)	46
繰り返し再生する	47
音量バランスを調節する	50
再生に関するその他の機能	51
演奏を録音する	52
録音の方法	52
簡単にMIDI録音する	53
トラックを指定してMIDI録音する	55
USBフラッシュメモリーにMIDI録音する	57
USBフラッシュメモリーにオーディオ録音する	58
そのほかの録音方法とテクニック	59

ソングファイル进行操作する	63
ソングの種類とファイル操作の制限	63
ソングファイルの基本操作	64
ソングを削除する	65
ソングをコピーする	66
ソングを移動する	66
MIDIソングを再生しながらオーディオソングに変換する	67
ソング名を変更する	67

他の機器と接続する	68
端子について	68
オーディオ再生機器を接続する([AUX IN]端子)	69
楽器の音を外部スピーカーから鳴らす (AUX OUT [L/L+R]/[R]端子)	70
USB機器を接続する(USB [TO DEVICE]端子)	71
外部MIDI機器と接続する(MIDI端子)	72
コンピューターと接続する	73
スマートデバイスと接続する	74
スマートデバイスアプリを使う	77

詳細設定編(メニュー画面) 83

メニュー画面の共通操作	83
ボイスメニュー	84
ソングメニュー	88
メトロノーム/リズムメニュー	91
録音メニュー	92
システムメニュー	93

資料 102

ボイス一覧	102
ソング一覧	106
リズム一覧	107
メッセージ一覧	108
困ったときは	111
クラビノーバを組み立てる	113
仕様	124
別売ミュージックデータ紹介	127
索引	128

安全上のご注意

ご使用の前に、必ずこの「安全上のご注意」をよくお読みください。

ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、お客様やほかの方々への危害や財産への損害を未然に防止するためのものです。必ずお守りください。

お子様がご使用になる場合は、保護者の方が以下の内容をお子様にご徹底くださいますようお願いいたします。お読みになったあとは、使用される方がいつでも見られる所に必ず保管してください。

■ 記号表示について

この製品や取扱説明書に表示されている記号には、次のような意味があります。



注意喚起を示す記号



禁止を示す記号



行為を指示する記号

■ 「警告」「注意」「注記」について

誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を、危害や損害の大きさと切迫の程度を区分して掲載しています。



警告

「死亡する可能性または重傷を負う可能性が想定される」内容です。



注意

「傷害を負う可能性が想定される」内容です。

注記

「故障、損傷や誤動作、データの損失の発生が想定される」内容です。

電源アダプターについて



警告



禁止

ヤマハ製電子楽器以外に使用しない。
電源アダプターは、ヤマハ製電子楽器専用です。他の用途には、ご使用にならないでください。故障、発熱、火災などの原因になります。



禁止

電源アダプターは、室内専用のため屋外および水滴のかかる環境では、使用しない。また、水のいった物、花瓶などを機器の上に置かない。
内部に水などの液体が入ると、感電や火災、または故障の原因になります。



注意



必ず実行

製品は電源コンセントの近くに設置する。
電源プラグに容易に手が届く位置に設置し、異常を感じた場合にはすぐに製品の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。また、電源スイッチを切った状態でも微電流が流れています。この製品を長時間使用しないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。

楽器本体について

警告

電源 / 電源アダプター



禁止

電源コードをストーブなどの熱器具に近づけたり、無理に曲げたり、傷つけたりしない。また、電源コードに重いものをのせない。

電源コードが破損し、感電や火災の原因になります。



必ず実行

電源は必ず交流100Vを使用する。

エアコンの電源など交流200Vのものがあります。誤って接続すると、感電や火災のおそれがあります。



必ず実行

電源アダプターは、必ず指定のもの(126ページ)を使用する。

異なった電源アダプターを使用すると、故障、発熱、火災などの原因になります。



必ず実行

電源コード / プラグは、必ず付属のものを使用する。また、付属の電源コードをほかの製品に使用しない。

故障、発熱、火災などの原因になります。



必ず実行

電源プラグにほこりが付着している場合は、ほこりをきれいに拭き取る。

感電やショートのおそれがあります。

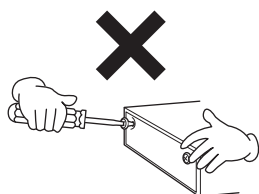
分解禁止



禁止

この製品の内部を開けたり、内部の部品を分解したり改造したりしない。

感電や火災、けが、または故障の原因になります。



水に注意



禁止

本体の上に花瓶や薬品など液体の入ったものを置かない。また、浴室や雨天時の屋外など湿気の多いところで使用しない。

内部に水などの液体が入ると、感電や火災、または故障の原因になります。入った場合は、すぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いた上で、お買い上げの販売店または巻末のヤマハ修理ご相談センターに点検をご依頼ください。



禁止

ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない。

感電のおそれがあります。

火に注意



禁止

本体の上にろうそくなど火気のあるものを置かない。

ろうそくなどが倒れたりして、火災の原因になります。

医療用電気機器への影響 (CLP-735を除く)



禁止

医療機器の近くなど電波の使用が制限された区域で使用しない。

心臓ペースメーカーや除細動器の装着部分から15cm以内で使用しない。

本体が発する電波により、動作に影響を与えるおそれがあります。

イス



禁止

不安定な場所に置かない。

イスが転倒して、お客様やほかの方々けがをする原因になります。



禁止

イスで遊んだり、イスを踏み台にしたりしない。

イスが転倒したりこわれたりして、お客様けがをする原因になります。



禁止

イスには二人以上ですわらない。

イスが転倒したりこわれたりして、お客様がけがをする原因になります。



必ず実行

イスのネジを定期的に締め直す。

イスを長期間使用すると、イスのネジがゆるみ、お客様がけがをする原因になります。ネジがゆるんだ場合は、工具で締め直してください。



必ず実行

小さなお子様の後方への転倒に注意する。

背もたれがないため、後方へ転倒してけがをするおそれがあります。

異常に気づいたら



電源プラグを抜く

下記のような異常が発生した場合、すぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜く。

- ・電源コード/プラグがいたんだ場合
- ・製品から異常なおいや煙が出た場合
- ・製品の内部に異物が入った場合
- ・使用中に音が出なくなった場合
- ・製品に亀裂、破損がある場合

そのまま使用を続けると、感電や火災、または故障のおそれがあります。至急、お買い上げの販売店または巻末のヤマハ修理ご相談センターに点検や修理をご依頼ください。



注意

電源 / 電源アダプター



禁止

たこ足配線をしない。

音質が劣化したり、コンセント部が異常発熱して火災の原因になることがあります。



必ず実行

電源プラグを抜くときは、電源コードを持たずに、必ず電源プラグを持って引き抜く。

電源コードが破損して、感電や火災の原因になることがあります。



設置



禁止

不安定な場所に置かない。

本体が転倒して故障したり、お客様やほかの方々がけがをしったりする原因になります。



必ず実行

地震のときは、本体から離れる。

地震による強い揺れで本体が動いたり転倒したりして、けがをするおそれがあります。



必ず実行

この製品を持ち運びする場合は、必ず2人以上で行なう。

この製品を1人で無理に持ち上げると、腰を痛めたり、この製品が落下して破損したり、お客様やほかの方々がけがをしったりする原因になります。



電源プラグを抜く

長期間使用しないときや落雷のおそれがあるときは、必ずコンセントから電源プラグを抜く。

感電や火災、故障の原因になることがあります。



必ず実行

本体を移動するときは、必ず電源コードなどの接続ケーブルをすべて外した上で行なう。

コードをいためたり、お客様やほかの方々が転倒したりするおそれがあります。

組み立て



必ず実行

本書の組み立て方の説明をよく読み、手順どおりに組み立てる。また、定期的なネジを締め直す。

楽器が破損したりお客様がけがをしったりする原因になります。



必ず実行

この製品を電源コンセントの近くに設置する。

電源プラグに容易に手が届く位置に設置し、異常を感じた場合にはすぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。また、電源スイッチを切った状態でも微電流が流れています。この製品を長時間使用しないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。

接続



必ず実行

すべての機器の電源を切った上で、ほかの機器と接続する。また、電源を入れたり切ったりする前に、機器のボリュームを最小にする。

感電、聴覚障害または機器の損傷の原因になります。



必ず実行

演奏を始める前に機器のボリュームを最小にし、演奏しながら徐々にボリュームを上げて、適切な音量にする。

聴覚障害または機器の損傷の原因になります。

取り扱い



禁止

キーカバーや本体のすき間に手や指を入れない。また、キーカバーで指などを挟まないように注意する。

お客様がけがをするおそれがあります。



禁止

キーカバーやパネル、鍵盤のすき間から金属や紙片などの異物を入れない。

感電、ショート、火災、故障や動作不良の原因になることがあります。



禁止

(CLP-785) キーカバーを閉めるときは無理な力を加えない。

キーカバーには「ソフトランディング」機構が付いており、キーカバーがゆっくり閉まるようになっています。閉めるときにキーカバーに無理な力を加えると「ソフトランディング」機構が破損し、手指をはさんでけがをするおそれがあります。



禁止

本体の上にとったり重いものをのせたりしない。また、ボタンやスイッチ、入出力端子などに無理な力を加えない。

本体が破損したり、お客様やほかの方々けがをしたりする原因になります。



禁止

小さな部品は、乳幼児の手の届くところに置かない。

お子様が誤って飲み込むおそれがあります。



禁止

大きな音量で長時間使用しない。

聴覚障害の原因になります。特にヘッドホンを使用する場合はご注意ください。万一、聴力低下や耳障りを感じた場合は、専門の医師にご相談ください。



イス



禁止

イスにすわったままでイスの高さを調節しない。

高低調節機構に無理な力が加わり、高低調節機構がこわれたりお客様がけがをしたりする原因になります。



禁止

可動部のすき間に手を入れない。

手をはさんでけがをすることがあります。

- データが破損したり失われたりした場合の補償はいたしかねますので、ご了承ください。
- 不適切な使用や改造により故障した場合の保証はいたしかねます。

使用後は、必ず電源を切りましょう。

[⏻](スタンバイ/オン)スイッチを切った状態(電源ランプが消えている)でも微電流が流れています。[⏻](スタンバイ/オン)スイッチが切れているときの消費電力は、最小限の値で設計されています。この製品を長時間使用しないときは必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。

高調波電流規格 JIS C 61000-3-2 適合品

注記(ご使用上の注意)

製品の故障、損傷や誤動作、データの損失を防ぐため、以下の内容をお守りください。

■ 製品の取り扱いに関する注意

- 本製品をインターネットに接続する場合は、セキュリティを保つため必ずルーターなどを経由し接続してください。経由するルーターなどには適切なパスワードを設定してください。電気通信事業者(移動通信会社、固定通信会社、インターネットプロバイダーなど)の通信回線(公衆回線LANを含む)には直接接続しないでください。
- テレビやラジオ、ステレオ、携帯電話などの電気製品の近くで使用しないでください。楽器本体またはテレビやラジオなどに雑音が生じる場合があります。
- スマートフォンやタブレット端末などのスマートデバイスのアプリと一緒に使用する場合は、通信によるノイズを避けるためスマートデバイスの機内モードをオンにしてからWi-FiまたはBluetoothをオンにしてお使いいただくことをおすすめします。
- 直射日光のあたる場所(日中の車内など)やストーブの近くなど極端に温度が高くなると、逆に温度が極端に低いところ、また、ほこりや振動の多いところで使用しないでください。本体のパネルが変形したり、内部の部品が故障したり、動作が不安定になったりする原因になります(5℃～40℃の範囲で動作することを確認しています)。
- 本体上にビニール製品やプラスチック製品、ゴム製品などを置かないでください。本体のパネルや鍵盤が変色/変質の原因になります。
- つや出し仕上げのモデルの場合、本体の表面に金属、陶器、その他硬い物を当てないでください。表面にひびが入ったり、はがれたりする原因になります。
- イスの脚で床やたたみを傷つけないよう注意してご使用ください。イスの下にマットを敷くなどして、床やたたみを保護することをおすすめします。

■ 製品のお手入れに関する注意

- お手入れの際は、乾いた柔らかい布、または水を含ませた柔らかい布を固くしぼってご使用ください。鍵盤の頑固な汚れには「ヤマハ鍵盤クリーナー」をお使いください。ベンジンやシンナー、アルコール、洗剤、化学ぞうきんなどを使用すると、変色/変質する原因になりますので、使用しないでください。
- つや出し仕上げのモデルの場合、本体のほこりや汚れは、柔らかい布で軽く拭き取ってください。強く拭くと、ほこりの粒子で本体の表面に傷がつく場合があります。つやを保つためには、ユニコンをピアノクロスに含ませてムラなく拭き、別の布で伸ばすように磨き上げます。ユニコンは楽器店などで買い求めいただき、使用上の注意をよくご確認のうえご使用ください。
- 極端に湿度が変化すると、本体表面に水滴がつく(結露)することがあります。水滴をそのまま放置すると、木部が水分を吸収して変形する原因になります。水滴がついた場合は、柔らかい布ですぐに拭きとってください。
- ペダルは一般的なアコースティックピアノ同様経年変化によって変色することがあります。その際はピアノ用コンパウンドを楽器店などで買い求めいただき、使用上の注意をよくご確認のうえご使用ください。

■ データの保存に関する注意

- この楽器の一部のデータ(100ページ)や本体に録音して保存したソングデータ(52ページ)は、電源を切っても消えません。ただし保存されたデータは故障や誤操作などのために失われることがあります。大切なデータは、USBフラッシュメモリー

に保存してください(66ページ、100ページ)。USBフラッシュメモリーを使う前には、必ず71ページをお読みください。

- 保存したUSBフラッシュメモリーの万一の事故に備えて、大切なデータは予備のUSBフラッシュメモリー/コンピューターなどの外部機器にバックアップとして保存されることをおすすめします。

お知らせ

■ データの著作権に関するお願い

- ヤマハ(株)および第三者から販売もしくは提供されている音楽/サウンドデータは、私的使用のための複製など著作権法上問題にならない場合を除いて、権利者に無断で複製または転用することを禁じられています。ご使用時には、著作権の専門家に相談されるなどのご配慮をお願いします。
- この製品に内蔵または同梱されたコンテンツは、ヤマハ(株)が著作権を有する、またはヤマハ(株)が第三者から使用許諾を受けている著作物です。製品に内蔵または同梱されたコンテンツそのものを取り出し、もしくは酷似した形態で記録/録音して配布することについては、著作権法等に基づき、許されていません。
※上記コンテンツとは、コンピュータープログラム、伴奏スタイルデータ、MIDIデータ、WAVEデータ、音声記録データ、楽譜や楽譜データなどを含みます。
※上記コンテンツを使用して音楽制作や演奏を行ない、それらを録音や配布することについては、ヤマハ(株)の許諾は必要ありません。

■ 製品に搭載されている機能/データに関するお知らせ

- 内蔵曲は、曲の長さやイメージが原曲と異なる場合があります。
- この製品には、XGフォーマット以外の音楽/サウンドデータを扱う機能があります。その際、元のデータをこの楽器に最適化して動作させるため、オリジナルデータ(音楽/サウンドデータ)制作者の意図どおりには再生されない場合があります。ご了承のうえ、ご使用ください。
- 本製品には株式会社リコーのBitmap Fontが使われています。

■ 取扱説明書の記載内容に関するお知らせ

- この取扱説明書に掲載されているイラストや画面は、すべて操作説明のためのものです。したがって、実際の仕様と異なる場合があります。
- 本製品の品番末尾のアルファベット(「B」「WA」など)は、外装の色や仕上げの情報を表わしています。この取扱説明書では、品番末尾のアルファベットを省略しています。
- Windowsは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。
- iPhone、iPadは、米国および他の国々で登録されたApple Inc.の商標です。
- Bluetooth® ワードマークおよびロゴは登録商標であり、Bluetooth SIG, Inc. が所有権を有します。ヤマハ株式会社は使用許諾の下でこれらのマークおよびロゴを使用しています。



- MIDIは社団法人音楽電子事業協会(AMEI)の登録商標です。
- その他、本書に記載されている会社名および商品名等は、各社の登録商標または商標です。

■ 調律について

- 調律の必要はありません。

Bluetoothに関するお知らせ

785 775 745 735

- Bluetoothとは、2.4 GHz帯の電波を利用して、対応する機器と無線で通信を行なうことができる技術です。

Bluetooth通信の取り扱いについて

- Bluetooth対応機器が使用する2.4 GHz帯は、さまざまな機器が共有する周波数帯です。Bluetooth対応機器は、同じ周波数帯を使用する機器からの影響を最小限に抑えるための技術を採用していますが、他の機器の影響によって通信速度や通信距離が低下することや、通信が切断されることがあります。
- 通信機器間の距離や障害物、電波状況、機器の種類により、通信速度や通信距離は異なります。
- 本機はすべてのBluetooth機能対応機器とのワイヤレス接続を保証するものではありません。

製品の取り扱いに関する注意

- 本製品は、日本国内でのみ使用できます。
- 本製品は、日本電波法に基づく認証を受けた無線機器を内蔵しております。従って、本製品を使用するときに無線局の免許は不要です。ただし、本製品に以下の行為を行なうと法律で罰せられることがあります。
 - 本製品を分解/改造する
 - 本体底面の銘板をはがしたり、消したりする

無線に関するご注意

この製品の使用周波数帯では、電子レンジなどの産業・科学・医療用機器のほか、工場の製造ライン等で使用されている移動体識別用の構内無線局(免許を要する無線局)および特定小電力無線局(免許を要しない無線局)並びにアマチュア無線局(免許を要する無線局)が運用されています。

- この機器を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局および特定小電力無線局並びにアマチュア無線局が運用されていないことを確認してください。
- 万一、この機器から移動体識別用の構内無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合には、速やかに使用場所を変えるか、又は機器の運用を停止(電波の発射を停止)してください。

特長

本格的なピアノ演奏を楽しみましょう



想いのままに奏でられる「グランドタッチ鍵盤」「グランドタッチ-エス鍵盤」

グランドピアノの弾き応えを再現した鍵盤を搭載、ピアノニッシモからフォルティッシモまで多彩に表現できます。さらに、グランドタッチ鍵盤(CLP-785, CLP-775)では、鍵盤の支点距離(鍵盤先端から支点までの距離)が長く、鍵盤の奥側も、より自然なタッチで演奏できます。



曲のイメージにあわせて選べる 2つのコンサートグランドピアノの音

▶▶ 24ページ

ヤマハ最上位コンサートグランドピアノCFX と、ウィーンナートーンで有名なベーゼンドルファー社のインペリアルからサンプリングした音色(ボイス)を収録しています。力強くきらびやかな音、豊かな低音の響きが特長のCFXと、柔らかく深みのある中音・低音の響き、美しいピアノニッシモが特長のベーゼンドルファーのボイスを、曲想にあわせてお選びいただけます。

*ベーゼンドルファー社はヤマハのグループ会社です。



ピアノの音の響きやタッチを調節できる「ピアノルーム」

▶▶ 25ページ

「ピアノルーム」では、ピアノの音に関するさまざまな機能の設定ができます。グランドピアノの共鳴音を再現する機能「VRM」と、タッチによる音色の微妙な変化を再現する技術「グランド・エクスプレッション・モデリング」のデモを聞くこともできます。

• グランドピアノの豊かな共鳴音を再現する「VRM」

グランドピアノでは弾いた鍵盤の弦の振動が他の弦や響板へ伝わり、それぞれが複雑に影響しあって豊かでふくよかな共鳴音が広がります。このような弦と響板の複雑な相互作用を、仮想的な楽器(物理モデル)の上で忠実に再現する機能「VRM(バーチャル・レゾナンス・モデリング)」が搭載されています。この機能により、鍵盤を押さえるタイミングやペダルを踏むタイミングと深さに応じた、多彩な演奏表現が可能です。

• 弾き手が思い描く細やかなニュアンスまで表現できる 「グランド・エクスプレッション・モデリング」

グランドピアノでは、鍵盤を押してから離すまでのタッチを変えることにより、音を微妙に変化させることができますが、その微妙な音の変化を再現する技術が「グランド・エクスプレッション・モデリング」です。強めのタッチでアクセントを付けたり、やわらかなタッチで輝かしい響きを付けたりと多彩な音色を奏でることができます。



ヘッドホンから流れる、包み込まれるような響き

▶▶ 20ページ

ヘッドホンを接続すると、CFXとベーゼンドルファーのボイスでは、ヘッドホン専用にサンプリング(バイノーラルサンプリング)された音に切り替わり、ピアノ本体から音が響いてくるような臨場感が楽しめます。また、その他のピアノのボイスではステレオフォニックオブティマイザーの機能(エフェクト)により、自然な音の広がりが再現されます。

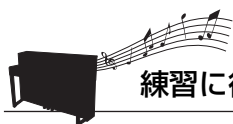
便利な機能を使ってみましょう



シンプルナリズムとベース音で演奏を華やかに演出

▶▶ 40ページ

この楽器には、よく使われるシンプルナリズムが20種類搭載されています。ご自分の演奏に打楽器音とベース音の自動演奏をつけられるので、演奏が華やかになります。お好みのリズムを鳴らしながら、一緒に鍵盤演奏をお楽しみください。



練習に役立つ内蔵曲

▶▶ 41ページ

この楽器には有名なクラシック曲を含むクラシック50選と、練習に役立つレッスン用の303曲が内蔵されています。聞いて楽しむのはもちろん、右手パートをオフ(消音)にして、左手パートだけをオン(再生)にし、オフにしたパートをご自分で弾いて練習することも可能です*。レッスン用の303曲には、ピアノの代表的な教則本であるバイエルやハノンなどを収録しています。ぜひ活用ください。

*この機能は、右手パート、左パートに分かれているMIDIソングを選んだ場合にのみ使えます。



目的に応じて使い分けできる2つの録音方式

▶▶ 52ページ

ご自分の演奏を楽器本体やUSBフラッシュメモリー (別売)に保存できます。録音はMIDI録音とオーディオ録音の2通りの方式がありますので、それぞれ用途に応じて使い分けましょう。たとえばMIDI録音はトラックごとの録音にも対応していますので、両手で弾くのが難しい曲は、右手の演奏を録音してから、左手の演奏を重ねて録音することで、1つの曲に仕上げる ことができます。オーディオ録音の場合、データは一般的なCD音質でUSBフラッシュメモリーに保存されますので、コンピューターを使ってお手持ちの携帯音楽プレーヤーに転送して、演奏を聞くこともできます。



スマートデバイスと接続して広がる楽しみ方

▶▶ 74ページ

スマートフォンやタブレット端末などのスマートデバイスと接続して楽器に対応のアプリを楽しめます。また、Bluetooth対応のスマートデバイス内のオーディオデータを、この楽器のスピーカーで再生できます*。

*CLP-735を除く

クラシックの名曲が作られた当時の響き —フォルテピアノのボイス

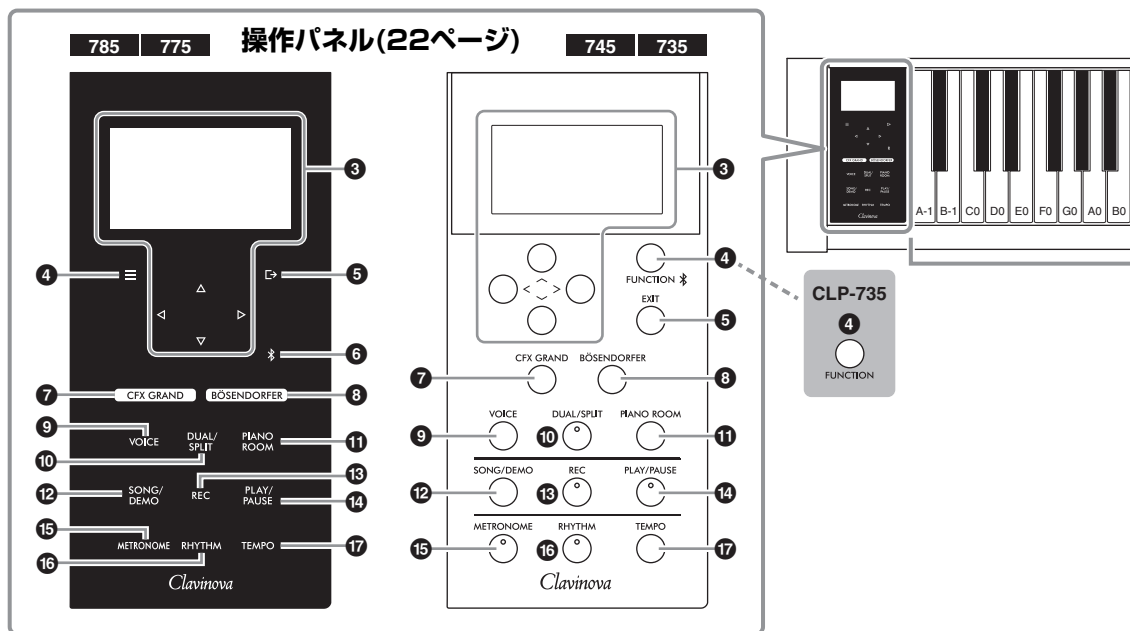
モーツァルトやベートーヴェン、ショパンが活躍していた時代のピアノ (フォルテピアノ)からサンプリングした音を収録しています。個性あふれるフォルテピアノのボイスで、作曲当時の雰囲気をお楽しみください。ボイスの選び方は28ページをご覧ください。

*写真のフォルテピアノは浜松市楽器博物館の所蔵楽器です。



各部の名前と機能

CLP-785/775の操作パネルは表示のある部分を指で押して操作します。電源を入れると操作パネルに表示が現れます。
14ページの「電源を入れる/切る」をお読みいただき、電源を入れてからご確認ください。



① [☺] (スタンバイ/オン) スイッチ (16ページ)

電源のスタンバイ/オンを切り替えます。

② [MASTER VOLUME] スライダー (19ページ)

楽器全体の音量を調節します。

③ [△]/[▽]/[<]/[>] ボタン、画面 (22ページ)

画面内の項目を選んだり、選んだ項目の値を変更するときに使います。画面を指で押して操作することはできません。

④ [≡]/[FUNCTION] ボタン (83ページ)

押すたびにボイスメニュー、ソングメニュー、メトロノーム/リズムメニュー、録音メニュー、システムメニューの5つの画面が切り替わります。各画面で、関連する機能の詳細な設定ができます。CLP-745では、Bluetooth対応のスマートデバイスなどと接続するときにも使います (75ページ)。

⑤ [C→]/[EXIT] ボタン (23ページ)

現在の画面から抜けて、ボイス画面やソング画面に戻りたいときに使います。

本書では以降、[≡]を[FUNCTION]ボタン、[C→]を[EXIT]ボタンと表記します。

⑥ [✱] (Bluetooth) ボタン (CLP-785, CLP-775) (75ページ)

Bluetooth対応のスマートデバイスなどと接続するときに使います。

⑦ [CFX GRAND] ボタン (24ページ)

ボイスを「CFX グランド」に切り替えます。

⑧ [BÖSENDORFER] ボタン (24ページ)

ボイスを「ペーゼンドルファー」に切り替えます。

⑨ [VOICE] ボタン (28ページ)

ボイスグループリストを表示します。

⑩ [DUAL/SPLIT] ボタン (33、34、35ページ)

ボイスを重ねたり、鍵盤の左右で違う音を鳴らしたいときに使います。

⑪ [PIANO ROOM] ボタン (25ページ)

ピアノの響きやタッチ感度を変更するピアノルーム画面を表示します。

⑫ [SONG/DEMO] ボタン (41ページ)

ソングリストを表示します。デモ曲や再生/編集する曲を選ぶときに使います。

⑬ [REC] ボタン (52ページ)

ご自身の演奏を録音します。

⑭ [PLAY/PAUSE] ボタン (42ページ)

楽器本体に入っている曲や録音した演奏などを、再生したり、一時停止したりします。

⑮ [METRONOME] ボタン (38ページ)

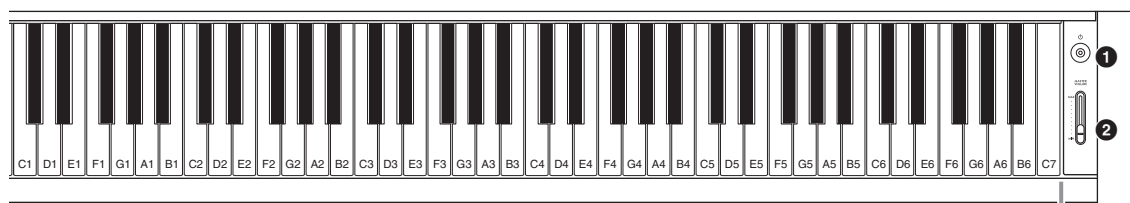
メトロノームを鳴らします。

⑯ [RHYTHM] ボタン (40ページ)

リズムを鳴らします。

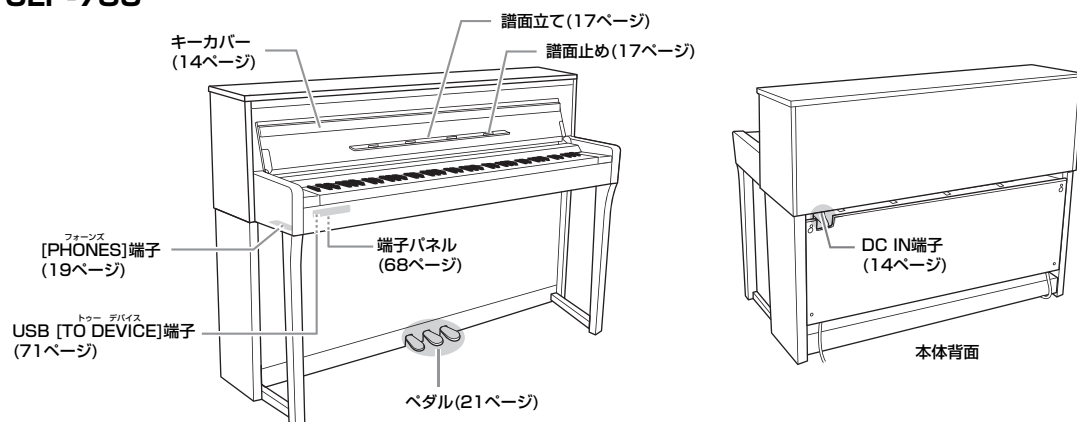
⑰ [TEMPO] ボタン (38ページ)

テンポを設定します。

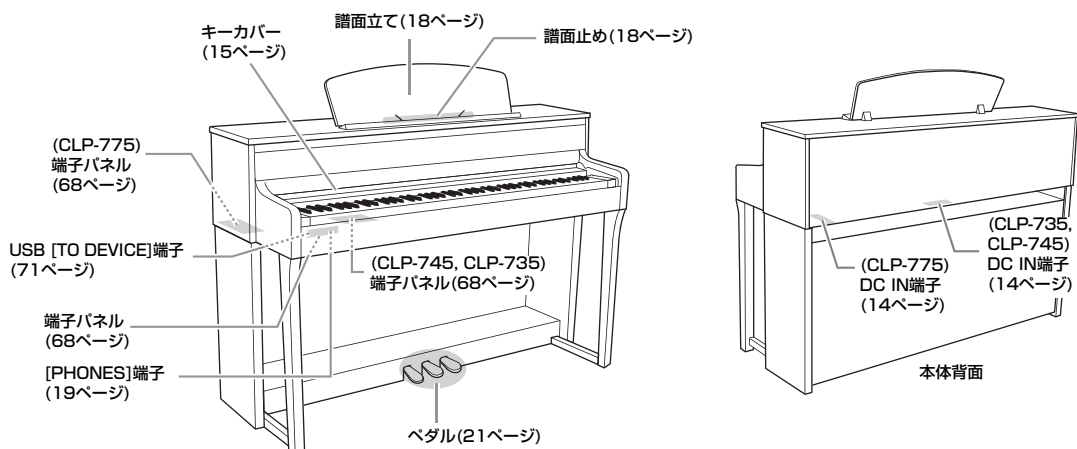


鍵盤にはそれぞれ鍵盤名が付いています。
左端の白鍵がA-1、右端の白鍵がC7となっています。

CLP-785



CLP-775, CLP-745, CLP-735



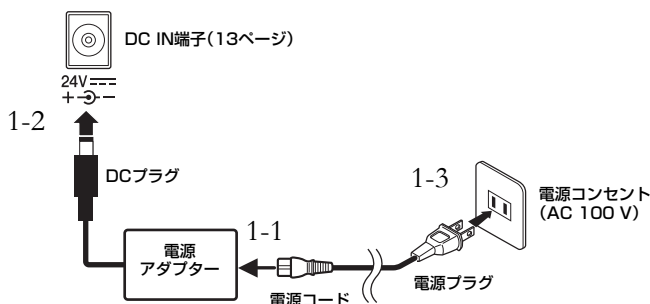
音を出してみましょう

簡単な準備だけでピアノ演奏を楽しめます。さっそく音を出してみましょう。

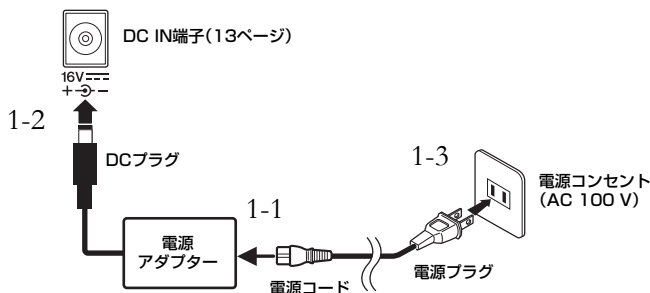
電源を入れる/切る

1. 図の順序で電源アダプターを接続します。

785 775 745 735



785 775 745 735

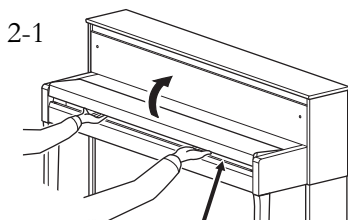


2. キーカバーを開けます。

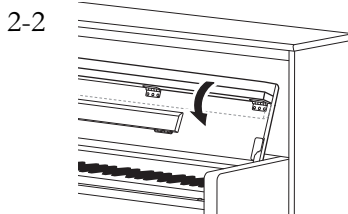
785 775 745 735

2-1. 手前のくぼみに手をかけてキーカバーを持ち上げます。

2-2. キーカバーの上部を折りたたみます。



注意
手や指をはさまないように注意



注意

本体はコンセントの近くに設置し、異常を感じた場合にはすぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。



警告

電源コード/プラグは、必ず付属のものをご使用ください。また、付属の電源コードをほかの製品に使用しないでください。故障、発熱、火災などの原因になります。



警告

電源アダプターは、必ず指定のもの(126ページ)をご使用ください。異なった電源アダプターを使用すると、故障、発熱、火災などの原因になります。このような場合は、保証期間内でも保証いたしかねることがございますので、十分にご注意ください。

NOTE

電源コード/電源アダプターを外すときは、電源を切ってから、逆の手順で行なってください。

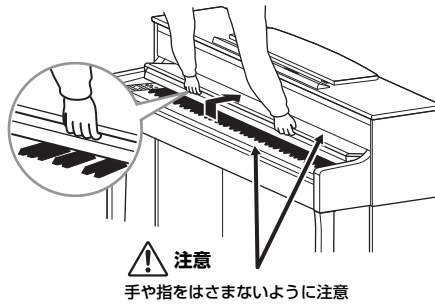


注意

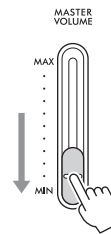
- キーカバーを開閉するときは、両手でゆっくりと行なってください。また、ご自分や周りの方、特にお子様などが、キーカバーの縁と本体の間に手や指をはさまないようにご注意ください。
- キーカバーを開けると、キーカバーの上に金属や紙片などを置かないでください。本体の内部に落ちて取り出せなくなり、感電、ショート、発火や故障などの原因になります。

785 775 745 735

少し持ち上げて奥へ押し込みます。

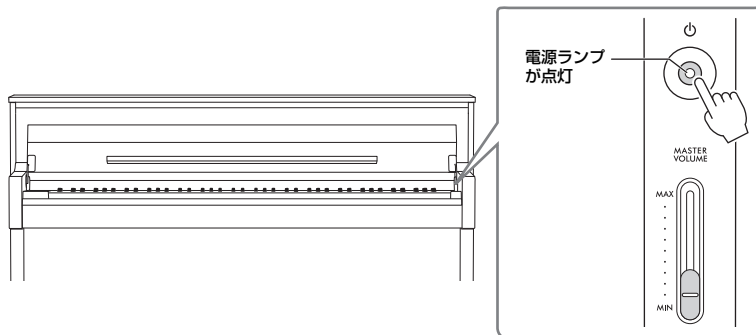


3. 鍵盤右の[MASTER VOLUME]^{マスターボリューム}スライダーで音量を最小(MIN)にします。



4. 鍵盤右の[⏻](スタンバイ/オン)スイッチを押して、電源を入れます。

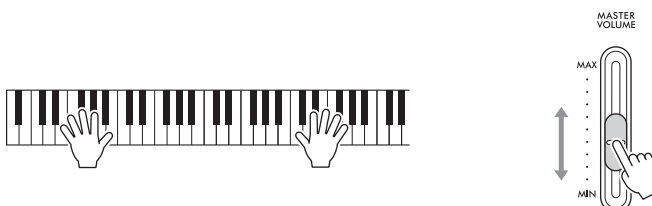
鍵盤左の画面に表示が現れ、[⏻](スタンバイ/オン)スイッチにある電源ランプが点灯します。



CLP-785/775では操作パネルにも表示が現れます。しばらく操作しないと表示は消えますが、操作パネルのどこかに触れると、再び表示が現れます。

5. 鍵盤を弾きながら音量を調節します。

鍵盤を弾いて音を出しながら[MASTER VOLUME]スライダーで音量を調節します。詳しくは、「音量を調節する[MASTER VOLUME]」(19ページ)をご参照ください。



注記

電源を入れるときは、[⏻](スタンバイ/オン)スイッチ以外は操作(鍵盤やボタンを押す、ペダルを踏むなど)しないでください。楽器が誤動作する原因になります。

NOTE

(CLP-785/775)操作パネルの表示が消えるまでの時間を変更したり、消えないようにも設定できます。詳しくは97ページの「オートバックライトオフ」をご覧ください。

6. 楽器を使い終わったら、[⏻](スタンバイ/オン)スイッチを1秒押し、電源を切ります。

[⏻](スタンバイ/オン)スイッチにある電源ランプが消灯します。

7. キーカバーを閉めます。

785

775

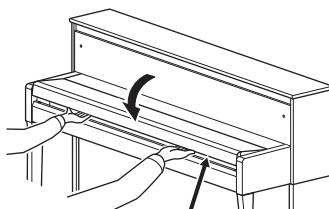
745

735

7-1. 譜面立てが開いているときは譜面立てを閉じます(鍵盤の傷防止)。

7-2. キーカバーの上部を開き、キーカバーの上部を持って手前にゆっくり倒します。

キーカバーには「ソフトランディング」機構が付いており、キーカバーがゆっくり閉まるようになっています。



注意

手や指をはさまないように注意

785

775

745

735

手前に引いて、静かに降ろします。



注意

手や指をはさまないように注意

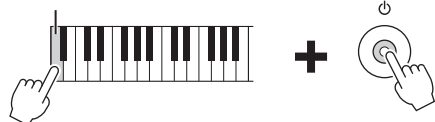
オートパワーオフ機能

この楽器は、電源の切り忘れによる無駄な電力消費を防ぐため、オートパワーオフ機能を搭載しています。これは、本体が一定時間操作されないと自動的に電源が切れる機能です。電源が切れるまでの時間は、初期設定では30分ですが、変更することもできます(96ページ)。

オートパワーオフ機能の簡単解除

左端の鍵盤を押したまま電源を入れると、オートパワーオフ解除を知らせるメッセージが表示され、オートパワーオフ機能が解除された状態で電源がオンになります。

左端の鍵盤



注意

電源を切った状態でも微電流が流れています。この楽器を長時間使用しないときや落雷のおそれがあるときは、必ずコンセントから電源プラグを抜いてください。



注意

(CLP-785)キーカバーを閉めるときは無理な力を加えないでください。閉めるときにキーカバーに無理な力を加えると「ソフトランディング」機構が破損し、手指を挟んでけがをするおそれがあります。

注記

- オートパワーオフ機能により電源が切れると、保存していないデータは失われます。ご注意ください。
- 本体の状態によっては、一定時間操作せずにオートパワーオフの設定時間が経過しても電源が切れない場合があります。使用後は、手動で本体の電源を切ってください。

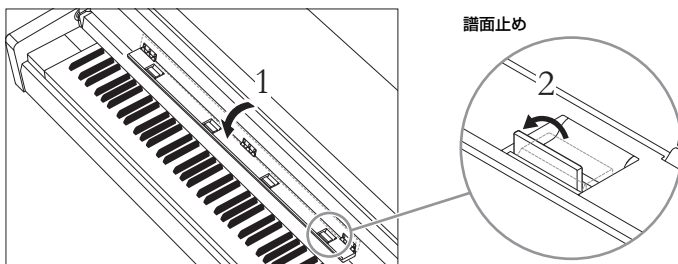
譜面立てを使う

785 775 745 735

キーカバーの内側に譜面立てが付いています。譜面立てを使うときは、キーカバー上部を折りたたんでください(14ページ手順2参照)。

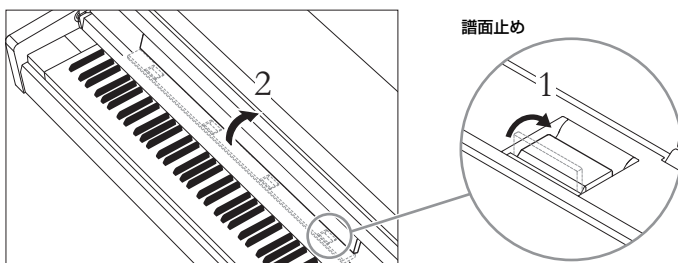
使うとき

1. キーカバーに付いている譜面立てを、手前に倒します。
2. 譜面止めを使うと、譜面立てに置いた楽譜のページを固定できます。



しまうとき

1. 譜面止めを使っている場合は、譜面止めをしまします。
2. 譜面立てを、キーカバー側へ戻します。



注記

譜面立てに重いものを長期間置かないでください。譜面立てが変形したり破損したりするおそれがあります。

785

775

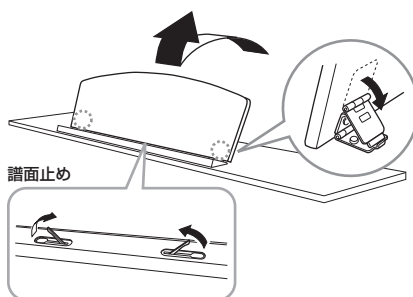
745

735

立てるとき

1. 譜面立てを、止まる位置まで手前に起こします。
2. 譜面立て裏にある左右2つの金具を下ろします。
3. 金具が固定される位置まで、譜面立てを戻します。

譜面止めを使うと、譜面立てに置いた楽譜のページを固定できます。



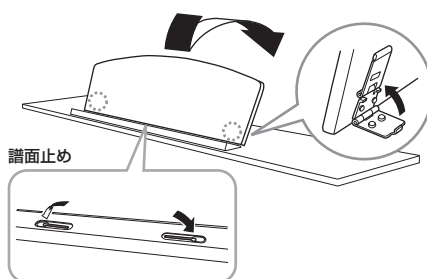
注意

金具が固定されていない位置で譜面立てを使用したり、放置したりしないでください。また、譜面立てを立てたり倒したりするときは、途中で手を離さないでください。

倒すとき

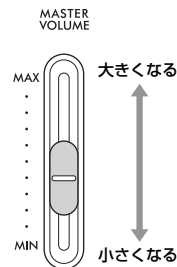
譜面止めを使っている場合は、譜面止めを下ろしてから、以下の手順で譜面立てを倒します。

1. 譜面立てを、止まる位置まで手前に起こします。
2. 譜面立て裏にある左右2つの金具を上げます。
3. 譜面立てに手を添えて、ゆっくり戻します。



音量を調節する [MASTER VOLUME](マスターボリューム)

鍵盤右端の[MASTER VOLUME]スライダーで調節します。実際に鍵盤を弾いて音を出しながら、音量を調節してください。



MASTER VOLUME=全体の音量

[MASTER VOLUME]スライダーを動かすと、[PHONES]端子やAUX OUT端子の出力レベルも変更されます。



注意

大きな音量で長時間使用しないでください。聴覚障害の原因になります。

インテリジェント・アコースティック・コントロール(IAC)

IACとは、楽器の全体音量の大小に応じて、自動的に音質を補正する機能です。楽器全体の音量を下げて演奏しても、低音や高音がしっかりと聞こえるようになります。

IACは、この楽器のスピーカーからの出力音のみに有効です。

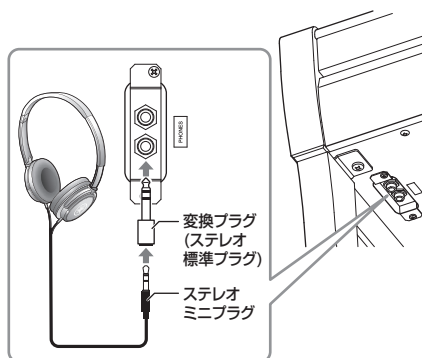
初期設定でこの機能はオンですが、オフにしたり、かかり具合を調節したりできます。詳しくは94ページ「IAC」「IACの深さ」をご覧ください。

ヘッドホンを使う

ヘッドホン^{フォーンズ}を[PHONES]端子に接続して使います。[PHONES]端子は2つありますので、ヘッドホンを2本接続して2人で演奏を楽しむこともできます。

1本だけ接続する場合は、どちらの端子をご使用いただいても構いません。

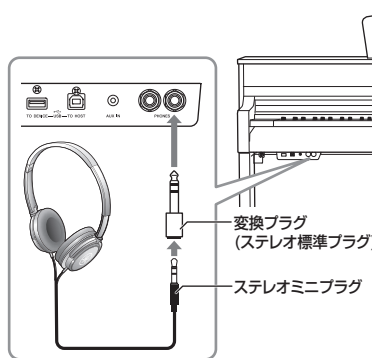
785 775 745 735



*イラストは付属のヘッドホンを使用する場合です。

付属のヘッドホンハンガーを取り付けると、本体にヘッドホンを掛けられます。取り付け方は、117ページ(CLP-785)、120ページ(CLP-775)、123ページ(CLP-745, CLP-735)をご覧ください。

785 775 745 735



注意

大きな音量で長時間ヘッドホンを使用しないでください。聴覚障害の原因になります。

NOTE

- 変換プラグを使っている場合は、ヘッドホンのプラグを抜くとき、変換プラグも抜いてください。変換プラグが端子に残ると楽器のスピーカーから音が出ません。
- ヘッドホンを接続していてもスピーカーから音を出すこともできます。詳しくは96ページの「スピーカー」をご覧ください。

注記

ヘッドホンハンガーにヘッドホン以外のものを掛けしないでください。本体またはヘッドホンハンガーが破損する場合があります。

ヘッドホンでも自然な音の広がりを再現する(バイノーラルサンプリングとステレオフィニックオプティマイザー)

この楽器では、ヘッドホン使用時に臨場感のあるピアノ音をお楽しみいただくため、以下の2つの方式を採用しています。

バイノーラルサンプリング

バイノーラルサンプリングとは、演奏者の耳と同じ位置に専用のマイクを備え付け、聞こえてくるピアノの音をそのままサンプリングする方式です。ヘッドホンを通して聞いても、あたかもピアノ本体から音が響いてくるような臨場感をお楽しみいただけます。「CFX グランド」または「ベーゼンドルファー」(24ページ)を選んでいるときにヘッドホンを接続すると、バイノーラルサンプリングの音に切り替わります。

ステレオフィニックオプティマイザー

ヘッドホン使用時に自然な音の広がりを再現するエフェクトです。「CFX グランド」と「ベーゼンドルファー」以外のピアノグループのボイスを選んでいるときにヘッドホンを接続すると、ステレオフィニックオプティマイザーがかかります。

初期設定で、この機能はオンです。ただし、「スピーカー」の設定(96ページ)がオンの場合は、この機能は常に無効となります。また、以下のような場合はこの機能をオフにすることをおすすめします。

- 外部オーディオ機器とこの楽器を接続し、外部スピーカーで楽器の音を再生しながら、本体に接続したヘッドホンで楽器の音をモニターする場合。
- ヘッドホンを使用しながらオーディオ録音(52ページ)し、その曲をこの楽器のスピーカーで再生したい場合(録音した曲をあとでスピーカーで再生したい場合は、録音前から機能をオフにしておきます)。

オン/オフの設定について詳しくは94ページ「バイノーラル」をご覧ください。

サンプリングとは

アコースティック楽器の音を録音して電子ピアノに組み込む技術のことです。

NOTE

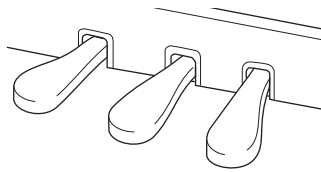
ピアノグループのボイスとは、「ボイス一覧」(102ページ)の「ボイスグループ」がピアノのボイスです。選び方は24ページをご覧ください。

NOTE

外部オーディオ機器などをこの楽器に接続する場合は、必ず「他の機器と接続する」(68ページ)をお読みいただき、機器を正しく接続してください。

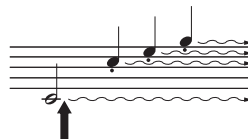
ペダルを使う

この楽器には、3本のペダルが付いています。



右のペダル(ダンパーペダル)

このペダルを踏むと、鍵盤から指を離しても音が長く響きます。また、ピアノグループのボイスを選択して踏んだ場合は、VRM (27ページ)の効果によりリアルな共鳴音(レゾナンス)を付加できます。



ここでダンパーペダルを踏むと、このとき押さえていた鍵盤とそのあと弾いた音すべてが長く響く

NOTE

ピアノグループのボイスとは、「ボイス一覧」(102ページ)の「ボイスグループ」がピアノのボイスです。選び方は24ページをご覧ください。

NOTE

ボイスメニュー画面の「ペダル割り当て」を使って、各ペダルへ別の機能を割り当てることができます(86ページ)。

ハーフペダル機能

ダンパーペダルを踏んでいない状態と、完全に踏み込んだ状態の中間の状態を「ハーフペダル」といい、グランドピアノのダンパーが弦に触れるか触れないかの微妙な状態を指します。この楽器のダンパーペダルはハーフペダルに対応しており、どの程度踏み込んだらハーフペダル効果が掛かるか(ハーフペダルポイント)を、設定できます。詳しくは94ページ「ハーフペダルの位置」をご覧ください。

GPレスポンスダンパーペダル

785 775 745 735

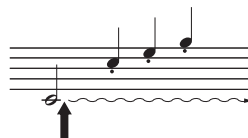
この楽器のダンパーペダルは、ペダルを踏んだときの感覚をよりグランドピアノに近づけたGPレスポンスダンパーペダルです。ハーフペダルのポイントを体感しやすく、ハーフペダル効果をかけやすいのが特長です。楽器の設置場所など状況によって、踏み心地が異なる場合があるので、必要に応じて前述のハーフペダルポイントを好みの状態に設定してください。

NOTE

ペダルには、工場出荷時にビニール袋をかぶせてあります。ご使用前に、ビニール袋を外してください。

まん中のペダル(ソステヌートペダル)

このペダルを踏んだときに押さえていた鍵盤の音だけが、鍵盤から指を離しても長く響きます。ペダルを踏んだあとに弾いた音には効果はかかりません。



ここでソステヌートペダルを踏むと、このとき押さえていた鍵盤の音だけが長く響く

NOTE

ストリングスグループやオルガングループの一部の持続音では、まん中のペダルを踏むと、音が減衰せずに持続して鳴り続けます。

まん中のペダルと左のペダルのスタート/ストップ機能切り替え

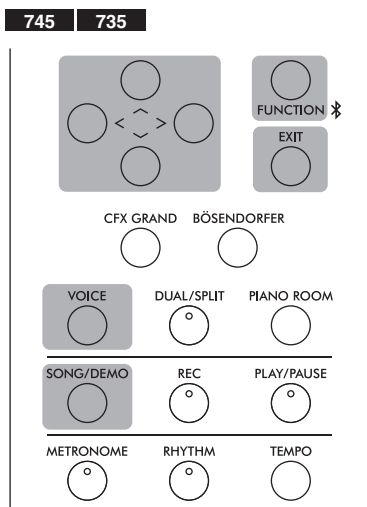
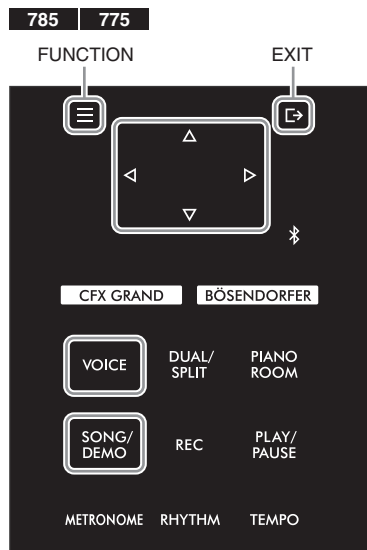
まん中のペダルか左のペダルを操作パネルの[PLAY/PAUSE]ボタンと同じ機能に切り替えられます。詳しくは94ページの「再生/一時停止」をご覧ください。

左のペダル(ソフトペダル)

このペダルを踏んでいる間、ペダルを踏んだあとに弾いた鍵盤の音量をわずかに下げ、音の響きを柔らかくします。ペダルを踏んだときに押さえていた鍵盤の音には効果はかかりませんので、効果をかけたい場合は、ペダルを踏んでから鍵盤を弾きます。ただし、「メローオルガン」ボイスを選ぶとロータリースピーカーの回転の速い/遅いの切り替え(ロータリースピード)、「ビブラフォン」ボイスを選ぶとビブラートのオン/オフ(バイブローター)機能に切り替わります(85ページ)。

基本操作

この楽器は、画面を見ながら主な操作を行ないます。ボイスやソング/デモ曲の選択といった操作はもちろん、楽器の詳細設定をして、さらに楽しく便利に楽器を使いこなすことができます。



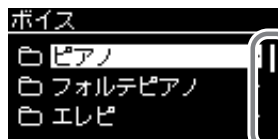
*本書ではCLP-745とCLP-735の説明のため、CLP-745操作パネルのイラストを使用します。

ボイスの選択

1. [VOICE] ボタンでボイスグループリストを表示します。



2. [△]/[▽] ボタンでボイスグループを選びます。



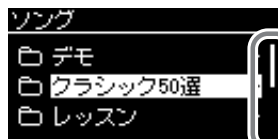
表示される場合は画面を上下に切り換えできます。

ソング / デモ曲の選択

1. [SONG/DEMO] ボタンでソングカテゴリリストを表示します。



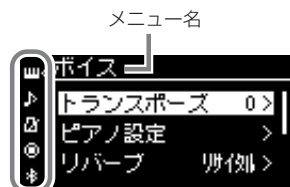
2. [△]/[▽] ボタンでソングカテゴリを選びます。



表示される場合は画面を上下に切り換えできます。

詳細設定(メニュー画面)

1. [FUNCTION] ボタンを何度か押して、設定するメニューを選びます。



メニューアイコン

操作パネルの設定を変える

785 775 745 735

操作パネルの表示が消えるまでの時間を変更したり、消えないようにも設定できます。また操作音をオフにもできます。詳しくは97ページの「オートバックライトオフ」と「タッチパネル操作音」をご覧ください。

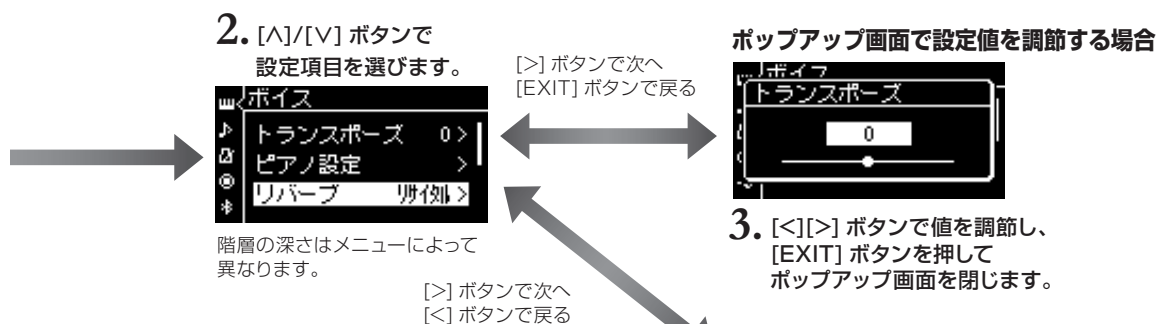
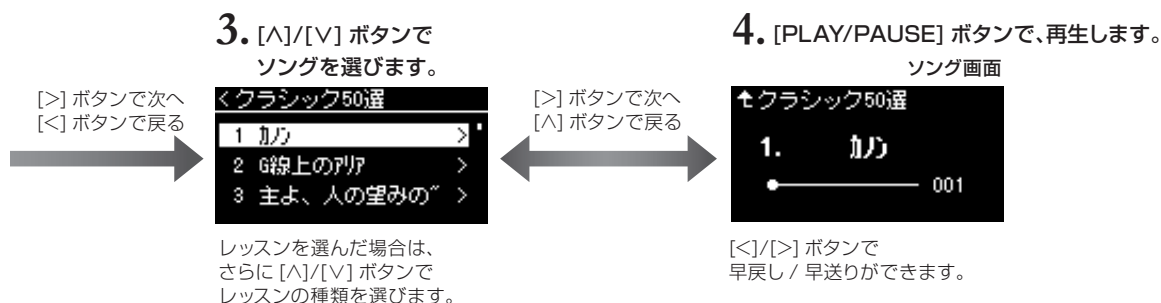
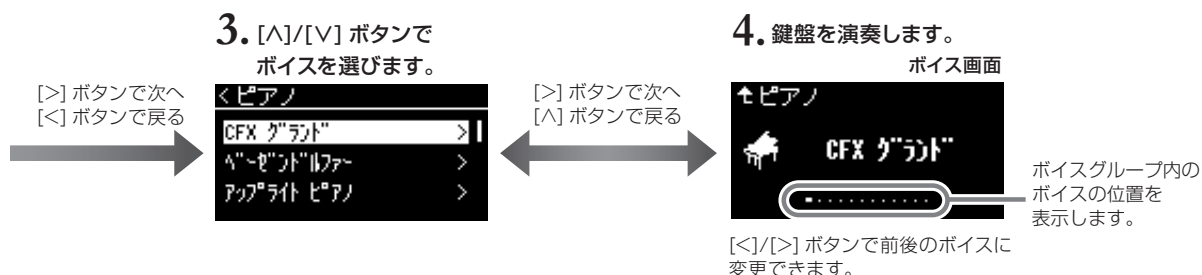
注記 先のとがったものや、爪などの硬いもので操作パネルを操作しないでください。操作パネルを傷つけるおそれがあります。

NOTE 操作パネルの2か所以上を同時に押して操作することはできません。

ボイス： 鍵盤を弾いたときに鳴る楽器音です。ピアノ以外にもさまざまな音で演奏を楽しむことができます。

ソング： 曲データのことです。聞いて楽しんだり、曲に合わせて演奏したりできます。

デモ曲： ボイスの特徴がわかるデモ(ボイスデモ)です。

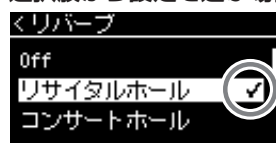


ボイス画面 / ソング画面に戻る (EXIT)



[EXIT] ボタンを押すと、直前に表示していたボイス画面またはソング画面が表示されます。
ポップアップ画面が表示されている場合は、[EXIT] ボタンを押すと1つ前の画面に戻ります。

選択肢から設定を選ぶ場合



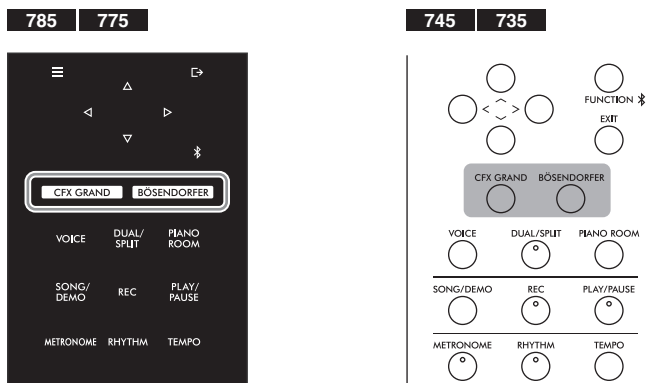
選んだ項目に
チェックマークが
表示されます。

3. [△][▽] ボタンまたは [>] ボタンで
設定を選びます。
1つ前の画面に戻るには、[<] ボタンを押します。

ピアノ演奏を楽しむ

この楽器には、2つの本格的なグランドピアノ、ヤマハ「CFX」とベーゼンドルファー「インペリアル」の音色が搭載されています。また、そのほかにもそれぞれに魅力的なピアノの音色が搭載されています。お好みや曲調に合わせて、ピアノの音色を選んで演奏してみましょう。

2種類のグランドピアノを選ぶ



1. **グランド** **ベーゼンドルファー**
[CFX GRAND]ボタンまたは[BÖSENDORFER]ボタンを押して、ピアノの種類を選びます。

ボタンに対応するピアノが選ばれ、画面に表示されます。

ボイス画面



CFX グランド

ヤマハコンサートグランドピアノCFXの音色です。弱く弾いた音から強く弾いた音までのダイナミックレンジが広く、表情豊かな演奏ができます。あらゆるジャンルの演奏に最適な音色です。

ベーゼンドルファー

ウィナートーンで有名なベーゼンドルファー社のコンサートグランドピアノ、インペリアル音色です。ピアノの大きさを感じさせる広がりある音の特徴で、曲の優しさを表現するのに最適です。

2. **鍵盤を弾いてみましょう。**

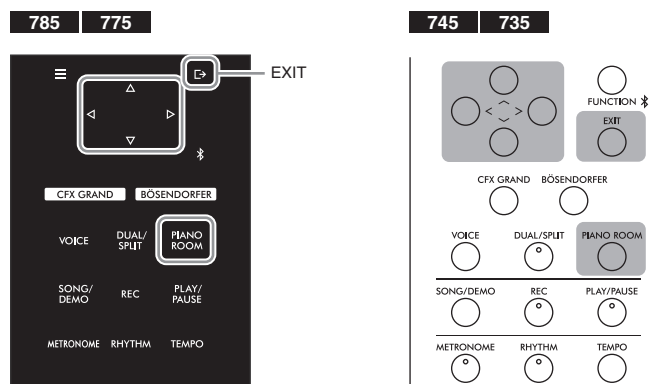
ピアノの特徴をつかむには
デモ曲を聞いてボイスの特徴を確認
できます(30ページ)。

他のピアノを選ぶには

[<]/[>]ボタンを押すと、CFXグランド/ベーゼンドルファー以外のピアノも選べます。
[VOICE]ボタンを押して選ぶこともできます(28ページ)。

ピアノの響きやタッチ感度を変えて楽しむ(ピアノルーム)

この楽器のピアノグループのボイスは、弦やペダルの共鳴音や屋根の開閉など、音の響きを調節したり、タッチ感度を調節したりできます。さまざまな要素を調節して自分の好きな音を作ってみましょう。



NOTE

ピアノグループのボイスとは、「ボイス一覧」(102ページ)の「ボイスグループ」がピアノのボイスです。

1. ^{ピアノ} ^{ルーム} [PIANO ROOM]ボタンを押して、ピアノルーム画面を表示させます。

ピアノルーム画面



NOTE

ピアノグループ以外のボイスを選んでいる場合、ピアノルーム画面を表示すると自動的に「CFX グランド」に切り替わります。

NOTE

デュアル/スプリットおよびデュオは解除されます。

2. [△]/[▽]ボタンで項目を選択します(26ページ)。
3. [<]/[>]ボタンで設定を変更します(26ページ)。
4. 設定が終わったら、^{エグジット} [EXIT]ボタンでピアノルーム画面から抜けます。

ピアノルーム画面で設定できること

項目	アイコン	説明	初期設定	設定範囲
大屋根の開閉		グランドピアノの屋根の開き具合を変えたときの音の変化を再現します。	フル(全開)	フル(全開)、 ハーフ(半開)、 クロース(閉)
ブライトネス		音の明るさを調整します。	ボイスによる	0～10
タッチ		鍵盤を弾く強さに対する音の強弱の付きかた(タッチ感度)を変更します。使うボイスや演奏する曲、好みによって使い分けてください。	ミディアム	ソフト2、ソフト1、 ミディアム、ハード1、 ハード2、固定
リバーブ		さまざまな場所で弾いているような臨場感が得られる、リバーブの種類を選びます。選んだリバーブは、鍵盤演奏、ソング再生音、外部から入力されたMIDIデータすべてにかかります。	ボイスによる	リバーブタイプリスト 参照(87ページ)
リバーブの深さ		現在選択されているリバーブの深さ(かかり具合)を調整します。「リバーブ」がオフの場合や設定値が0の場合、効果はかかりません。	ボイスによる	0～40
音の高さ (マスターチューニング)		全体の音の高さを微調整します。ほかの楽器との合奏やCDの再生に合わせて演奏するときなどに、それらのピッチ(音の高さ)と楽器本体のピッチを正確に合わせたい場合に使います。	A3=440.0Hz	A3 = 414.8Hz～ 466.8Hz (約0.2Hz単位)
VRM		VRMのオン/オフを設定します。VRMの機能については「VRMとは」(27ページ)をご覧ください。 デモを聞く この画面を開いているときに[PLAY/PAUSE]ボタンを押すと、VRMのデモ曲が再生されます。VRMがオンのとき、オフのときのデモ曲を聞いてみましょう。  以下の5項目は、「VRM」がOnのときに設定できます。	On (オン)	On (オン)、Off (オフ)
ダンパー レゾナンス		ダンパーペダルを踏んだときに加わる、VRMによる弦共鳴音のかかり具合を設定します。	5	0～10
ダンパーノイズ		VRMによるダンパーノイズのオン/オフを設定します。ダンパーノイズについて詳しくは27ページをご覧ください。ダンパーレゾナンスの設定が「0」のときは、この機能は無効です。	On (オン)	On (オン)、Off (オフ)
ストリング レゾナンス		押鍵したときに加わる、VRMによる弦共鳴音のかかり具合を設定します。	5	0～10
アリコート レゾナンス		VRMによるアリコートの響きを調節します。詳しくは「アリコートとは」(27ページ)をご覧ください。	5	0～10
ボディ レゾナンス		VRMによるピアノ本体(響板や側板、フレームなど)の響きを調節します。	5	0～10

項目	アイコン	説明	初期設定	設定範囲
グランド・エクスプレッション		<p>グランド・エクスプレッション・モデリングのタイプを選びます。「ダイナミック」では、鍵盤を弾く強さやタッチに応じて、アコースティックピアノのように音が微妙に変化します。「スタティク」では弾き方を変えても、音はさほど変化しません。グランド・エクスプレッション・モデリングについて詳しくは、下記をご覧ください。</p> <p>NOTE グランド・エクスプレッション・モデリングは「CFXグランド」と「ベーゼンドルファー」のボイスのみに効果がかかります。</p> <p>デモを聞く この画面を開いているときに[PLAY/PAUSE]ボタンを押すと、この機能のデモ曲が再生されます。「ダイナミック」のときのデモ曲を聞いてみましょう。</p>	ダイナミック	ダイナミック、スタティク
ハーフペダルの位置		右ペダルを踏み込むほど音が長く伸びる「サステイン連続」の効果が、ペダルをどのくらい踏み込めば効き始めるのかを設定します。右ペダルに「サステイン連続」が割り当てられている場合(86ページ)のみ有効です。	0	-2 (浅い位置で効く)~0~+4 (深い位置で効く)

NOTE

- ピアノルームでの設定を、電源が切れても保持したい場合は、バックアップ設定の「ボイス」と「その他」をオンにしてください。詳しくは100ページをご覧ください。
- これらの項目は、ボイスメニュー (84ページ) やシステムメニュー (93ページ) でも設定できます。ピアノルーム画面でこれらの設定を変更すると、メニュー画面での設定も変更されます。逆に、メニュー画面で設定を変更すると、ピアノルーム画面での設定も変更されます。

VRM (Virtual Resonance Modeling/バーチャル・レゾナンス・モデリング)とは

アコースティックピアノでは、ダンパーペダルを踏んで演奏すると、弾いた鍵盤の音が伸びるだけでなく、その鍵盤の弦の振動が他の弦や響板へ伝わっていき、それぞれが影響しあって豊かで華やかな共鳴音が広がります。この楽器に搭載されたVRMは、そのような弦と響板の複雑な相互作用を、仮想的な楽器(物理モデル)の上で忠実に再現することで、よりアコースティックピアノに近い響きを作り出します。鍵盤やペダルの状態に合わせて、瞬間瞬間の共鳴音を作り出しているの、鍵盤を押さえるタイミングや、ペダルを踏むタイミングと深さを変えることで、多彩な響きが得られます。

アリコートとは

他の弦と共振する、共鳴専用の弦をアリコートといいます。他の弦と共振することで、倍音を響かせるので、豊かな響きが得られます。アリコートにはダンパーがなく消音されないの、鍵盤から手を離しても、アリコートの響きが残ります。

ダンパーノイズとは

アコースティックピアノでダンパーペダルを踏んだ時に生じるノイズ音です。ダンパーノイズは、ダンパーペダルを踏む速さによって、音色や音量が異なります。ダンパーペダルをゆっくり踏むと、ダンパーヘッドが弦から離れた際のノイズ音が小さく鳴ります。ダンパーペダルを勢いよく踏むと、その振動が弦に伝わり、低い大きなノイズ音が混じります。

グランド・エクスプレッション・モデリングとは

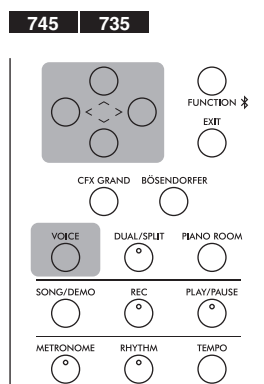
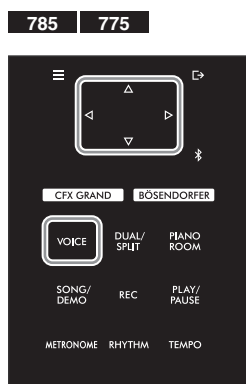
アコースティックピアノでは、鍵盤を押してから離すまでのタッチを変えることにより、音を微妙に変化させることができます。たとえば、鍵盤を底までしっかり押せば、鍵盤が棚板(鍵盤下の板)に当たってコツンと鳴り、その衝撃が弦に伝わって音がわずかに変化します。また、音が消える寸前(ダンパーが弦に触れる瞬間)の音も、鍵盤から指を離す速さにより微妙に変化します。このようなタッチによる音の微妙な違いを再現する技術がグランド・エクスプレッション・モデリングです。強めのタッチでアクセントを付けたり、やわらかなタッチで輝かしい響きを付けたり、と多彩な音色を奏でることができます。また、スタッカートで弾いたときには歯切れのいい音を、ゆっくり指を離れたときには長く余韻を残す音を表現できます。

いろいろな楽器音(ボイス)で演奏する

ピアノのほかに、オルガンや弦楽器などの楽器音(ボイス)を選んで弾くことができます。また、18世紀から19世紀に製作されたフォルテピアノのボイスを選んで演奏することもできます。

ボイスを選んで弾く

この楽器に内蔵されたたくさんのボイスは、楽器の種類ごとにグループ分けされています。ボイスを選んで演奏してみましょう。
CLP-785では、XGボイスも選べます(29ページ)。



ボイスの特徴をつかむには

ボイスごとのデモ曲を聞いたり(30ページ)、「ボイス一覧」(102ページ)を参照したりして、各ボイスの特徴を確認してください。

NOTE

ボイスによっては、鍵盤を弾く強さに応じた音の強弱が付かないものもあります。どのボイスにタッチ感度が付くかは、「ボイス一覧」(102ページ)の「タッチ感度」欄を確認してください。

XG (エックスジー) ボイスとは

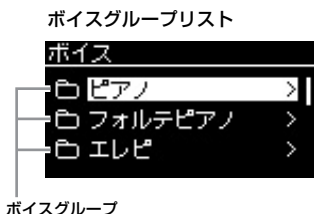
「GMシステムレベル1」をさらに拡張し、豊かな表現力とデータの連続性を可能にしたヤマハの音源フォーマットの音色配列です。

NOTE

この楽器で演奏できるボイスについては、「ボイス一覧」(102ページ)をご覧ください。

1. [VOICE] ボタンを押して、ボイスグループリストを表示させます。

ボイスグループのリストが表示されます。現在選ばれているボイスグループが反転表示されています。



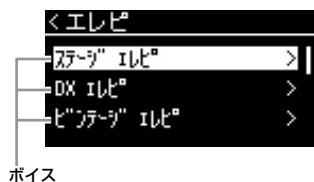
ボイスグループ

2. [△]/[▽] ボタンでボイスグループを選びます。

選びたいボイスグループを反転表示させます。

3. [>] ボタンを押します。

選んだグループ内のボイスが表示されます。



ボイス

NOTE

ボイスグループの選択に戻るには、[<] ボタンを押します。

4. [H]/[V]ボタンでボイスを選び、[>]ボタンを押します。

ボイス画面が表示されます。

ボイス画面



ボイス画面で[<][>]ボタンを押すと、他のボイスを選ぶことができます。
[H]ボタンを押すと、ボイスリストの表示に戻せます。

5. 鍵盤を弾いてみましょう。

XGボイスを選ぶ

785 775 745 735

XGボイスを選びたいときは、手順2で「XG」を選びます。

ボイス

その他 >
XG >

[V]ボタンを使って
下までスクロールします

XGボイスは非常に多くのボイスがあるため、さらにグループ分けしています。[>]ボタンを押すと、ボイスグループのリストが表示されますので、[H]/[V]ボタンでボイスグループを選びます。あとは手順3へ進んでください。

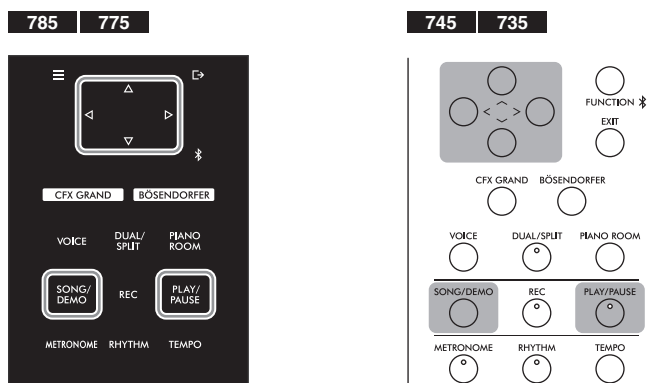
* XGボイスについてはウェブサイト(2ページ)上の「データリスト」をご覧ください。

タッチ感度を変更する

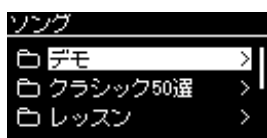
鍵盤を弾く強さに対する音の強弱の付きかた(タッチ感度)は、使うボイスや演奏する曲、好みによって変更できます。詳しくは93ページの「タッチ」をご覧ください。
ピアノグループのボイスの場合は、ピアノルーム画面(26ページ)でも設定できます。

ボイスの特徴がわかるデモ曲を聞く

ボイスの特徴がわかるデモ曲(ボイスデモ)を聞いてみましょう。デモ曲が用意されているボイス名やデモ曲名などについては、105ページの「ボイスデモ一覧」をご覧ください。



1. ^{ソング} [SONG/DEMO] ボタンを押して、ソングカテゴリーリストを表示します。



2. [△]/[▽] ボタンで「デモ」を選び、[>] ボタンを押します。
3. [△]/[▽] ボタンで再生したいボイスデモを選び、[>] ボタンを押してデモ画面を表示します。

現在選ばれているボイスデモの名前が表示されています。

デモ画面



4. ^{プレイ} ^{ポーズ} [PLAY/PAUSE] ボタンを押して、再生をスタートします。
5. もう一度[PLAY/PAUSE] ボタンを押して、再生をストップします。

1曲の再生が終了した場合は、自動的にストップします。

他のデモ曲を選ぶ

[△] ボタンを押して、ソングリストに戻り、手順3～4を繰り返します。

NOTE

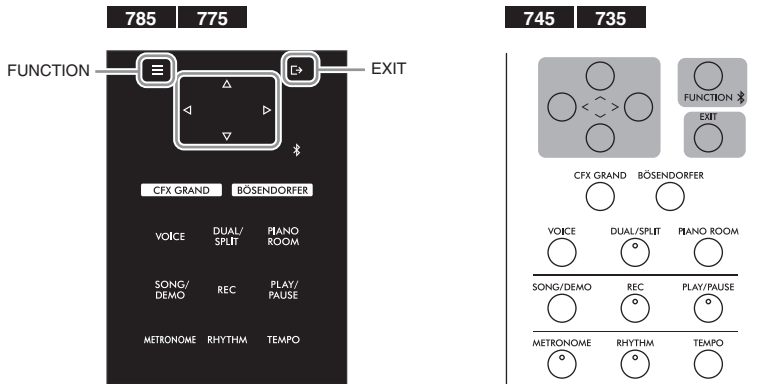
ボイスデモの再生中、録音操作はできません。

音に効果をかける

効果をかけると、演奏表現に幅を出すことができます。

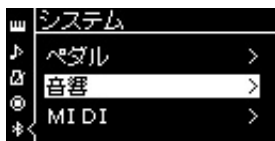
ブリリアンス

音の明るさを調節したり、オリジナルのEQを設定したりします。設定は、すべてのパート(手弾き/ソング/MIDI)に共通です。



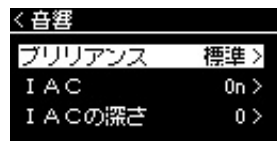
1. **ファンクション** [FUNCTION] ボタンを何度か押してシステムメニュー画面を表示させてから、以下の画面イラストで反転表示された項目を順番に選んでいきます。

システムメニュー画面



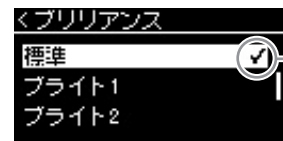
- 1-1. [△]/[▽]ボタンで「音響」を選択
- 1-2. [＞]ボタンで次へ

音響画面



- 1-3. [△]/[▽]ボタンで「ブリリアンス」を選択
- 1-4. [＞]ボタンで次へ

ブリリアンス画面



- 1-5. [△]/[▽]ボタンで音の明るさを選択

ブリリアンス画面には音の明るさのタイプが表示されますので、[△]/[▽]ボタンで選びます。初期設定に戻すには、CLP-785/775では[FUNCTION]ボタンを長押しします。CLP-745/735では[△]と[▽]ボタンを同時に押します。

メロー 1～3	柔らかくまろやかな音になります。1、2、3の順で音の柔らかさが増します。
標準	標準的な明るさです。
ブライツ1～3	明るい音になります。1、2、3の順で音の明るさが増します。
ユーザー	オリジナルのEQを設定できる「ユーザー」画面が開きます。EQ (イコライザー)とは、音を周波数帯域(バンド)に分けて、各帯域のレベル(ゲイン)を上げ下げして、本体スピーカーやヘッドホンなどに、最適な音質に補正する機能です。操作手順は32ページをご覧ください。

初期設定：標準

音がひずむ場合は

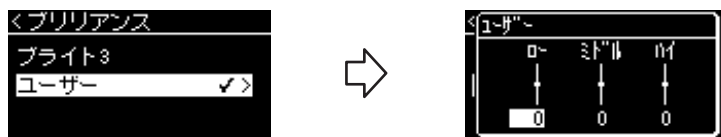
「ブライツ1～3」に設定すると、音量が少し大きくなります。音量(マスターボリューム)が大きくなっている状態では音がひずむことがありますので、音量を少し下げてください。

2. **エグジット** [EXIT] ボタンを押して、ブリリアンス画面を閉じます。

ユーザー EQの設定

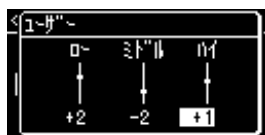
1. 31ページ手順1-5で「ユーザー」を選び、[>]ボタンを押します。

3つの周波数帯域(バンド)のゲインを設定する画面が表示されます。



2. [<]/[>]ボタンで設定する帯域を選び、[^]/[v]ボタンで各帯域のゲインを設定します。

各帯域のゲインを初期設定に戻すには、CLP-785/775 では[FUNCTION]ボタンを長押しします。CLP-745/735では[^]/[v]ボタンを同時に押します。



初期設定: 0 dB
設定範囲: -6 dB ~ 0 ~ +6 dB

3. ^{エグジット}[EXIT]ボタンを押して、「ユーザー」画面を閉じます。

リバーブ

音に残響を加えます。コンサートホールなどで演奏しているような臨場感が味わえます。ボイスを選ぶたびに、最適なリバーブタイプが自動で選ばれますが、ご自分で選ぶこともできます。

リバーブタイプをご自分で設定したい場合は、ボイスメニュー画面の「リバーブ」で設定します(84ページ)。ピアノグループのボイスの場合は、ピアノルーム画面(26ページ)でも設定できます。

リバーブタイプの設定は、すべてのパート(手弾き/ソング/MIDI)に共通です。

NOTE

リバーブのかかり具合をボイスごとに設定したい場合はボイスメニュー画面の「ボイス編集」→「リバーブの深さ」で設定します(85ページ)。

コーラス

音に広がり感を加えます。ボイスを選ぶたびに、最適なコーラスタイプが自動で選ばれますが、ご自分で選ぶこともできます。

コーラスタイプをご自分で設定したい場合は、ボイスメニュー画面の「コーラス」で設定します(84ページ)。

コーラスタイプの設定は、すべてのパート(手弾き/ソング/MIDI)に共通です。

NOTE

コーラスのかかり具合をボイスごとに設定したい場合はボイスメニュー画面の「ボイス編集」→「コーラスの深さ」で設定します(85ページ)。

NOTE

ピアノなどコーラスの初期設定がオフのボイスにコーラスをかけたい場合は、コーラスタイプにオフ以外の設定を選び、「コーラスの深さ」(85ページ)を0以外に設定してください。

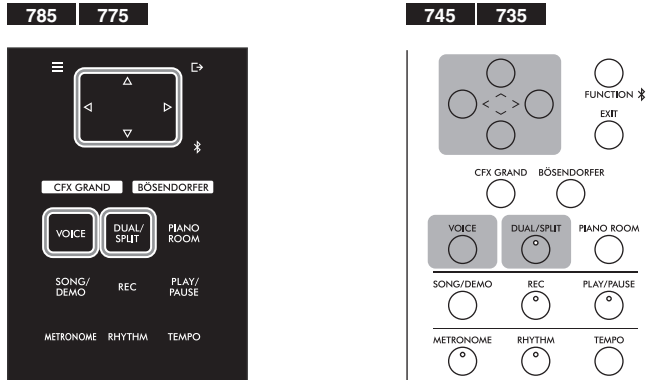
エフェクト

鍵盤演奏にエコーやトレモロなどの効果をかけられます。効果はボイスメニュー画面の「ボイス編集」→「エフェクト」(85ページ)で選べます。

2つのボイスを重ねて鳴らす(デュアル)

デュアル=2つの

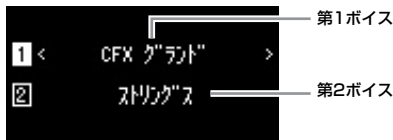
2つのボイスを重ねて鳴らします。系統の違う2つのボイス(違うボイスグループのボイスを組み合わせる)を重ねてデュエットさせたり、同じ系統の2つのボイス(同じボイスグループのボイスを組み合わせる)を重ねて厚みのあるボイスを作ったりできます。



1. デュアル スプリット [DUAL/SPLIT]ボタンを1回押して、デュアルをオンにします。

(CLP-785/775) [DUAL/SPLIT]ボタンがオレンジ色に変わります。

(CLP-745/735) [DUAL/SPLIT]ボタンのランプが点灯します。



画面の上に表示されるボイスを第1ボイス、下を第2ボイスと呼びます。

2. 重ねるボイスを選びます。

2-1. [△]/[▽]ボタンを押して、画面の **1** (第1ボイス)を反転表示させます。

2-2. [<]/[>]ボタンや[VOICE]ボタンを押してボイスを選びます。

[VOICE]ボタンを押してボイスグループリストを表示した場合は、[>]ボタンを押してボイスを決定すると元の画面に戻ります。[△]/[▽]ボタンで第2ボイス(**2**)を反転させ、同じ操作でボイスを選びます。

3. 鍵盤を弾いてみましょう。

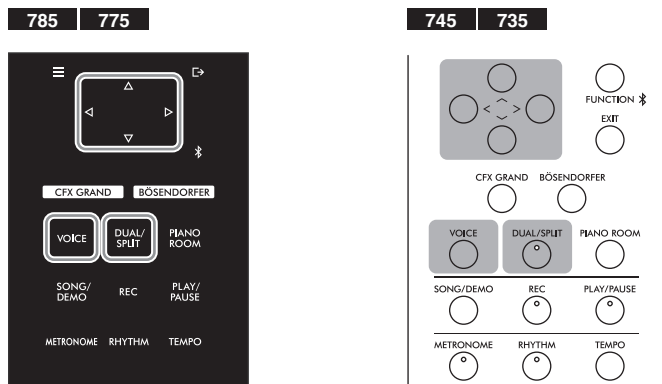
4. デュアルをオフにするには、[DUAL/SPLIT]ボタンを押します。

(CLP-785/775) [DUAL/SPLIT]ボタンが白に戻ります。

(CLP-745/735) [DUAL/SPLIT]ボタンのランプが消灯します。

鍵域を左右に分けて別々の2つのボイスで弾く(スプリット)

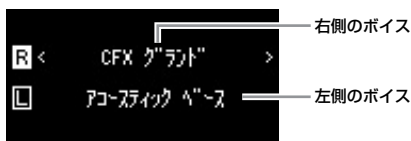
鍵盤全体を左右の領域に分け、別々のボイスで演奏できます。左側でベースパートを、右側でメロディーパートを演奏したりできます。



1. デュアル スプリット [DUAL/SPLIT] ボタンを2回押して、スプリットをオンにします。

(CLP-785/775) [DUAL/SPLIT] ボタンがオレンジ色に変わります。

(CLP-745/735) [DUAL/SPLIT] ボタンのランプが点灯します。



画面の上に表示されるボイスが右側のボイス、下が左側のボイスです。

2. 左右のボイスを選びます。

2-1. [∧]/[∨] ボタンを押して、画面の **R** (右側のボイス) を反転表示させます。

2-2. [<]/[>] ボタンや [VOICE] ボタンを押してボイスを選びます。

[VOICE] ボタンを押してボイスグループリストを表示した場合は、[>] ボタンを押してボイスを決定すると元の画面に戻ります。[∧]/[∨] ボタンで左側のボイス (**L**) を反転させ、同じ操作でボイスを選びます。

3. 鍵盤を弾いてみましょう。

スプリットポイントの変更

スプリットポイントは「F#2」が初期設定になっていますが、変更できます。

スプリットがオンの状態で、[DUAL/SPLIT] ボタンを押したままスプリットポイントにしたい鍵盤を押します。



F#2 中央の「ド」(C3)

4. スプリットをオフにするには、[DUAL/SPLIT] ボタンを押します。

(CLP-785/775) [DUAL/SPLIT] ボタンが白に戻ります。

(CLP-745/735) [DUAL/SPLIT] ボタンのランプが消灯します。

スプリット=分ける

左右の境目をスプリットポイントと呼びます。

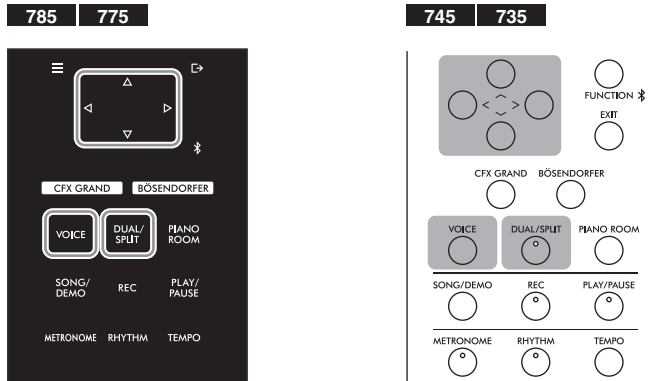
NOTE

スプリットポイントに当たる鍵盤は、左側に属します。

NOTE

スプリットポイントは、システムメニュー画面でも変更できます。[FUNCTION] ボタンを何度か押し、システムメニュー画面を選び、「鍵盤」→「スプリットポイント」(94ページ)で設定してください。

スプリットとデュアルを同時に使う



1. デュアル スプリット [DUAL/SPLIT] ボタンを3回押して、デュアルとスプリットをオンにします。

(CLP-785/775) [DUAL/SPLIT] ボタンがオレンジ色に変わります。

(CLP-745/735) [DUAL/SPLIT] ボタンのランプが点灯します。



画面の上に表示されるボイスが右側の第1ボイス、まん中が右側の第2ボイス、下が左側のボイスです。

2. 重ねるボイス、左側のボイスをそれぞれ選びます。

2-1. [△]/[▽] ボタンを押して、画面の **[R1]** (右側の第1ボイス) を反転表示させます。

2-2. [＜]/[＞] ボタンや [VOICE] ボタンを押してボイスを選びます。

[VOICE] ボタンを押してボイスグループリストを表示した場合は、[＞] ボタンを押してボイスを決定すると元の画面に戻ります。[△]/[▽] ボタンで右側の第2ボイス (**[R2]**)、左側のボイス (**[L]**) を反転させ、同じ操作でボイスを選びます。

3. 鍵盤を弾いてみましょう。

4. デュアルとスプリットをオフにするには、[DUAL/SPLIT] ボタンを押します。

(CLP-785/775) [DUAL/SPLIT] ボタンが白に戻ります。

(CLP-745/735) [DUAL/SPLIT] ボタンのランプが消灯します。

NOTE

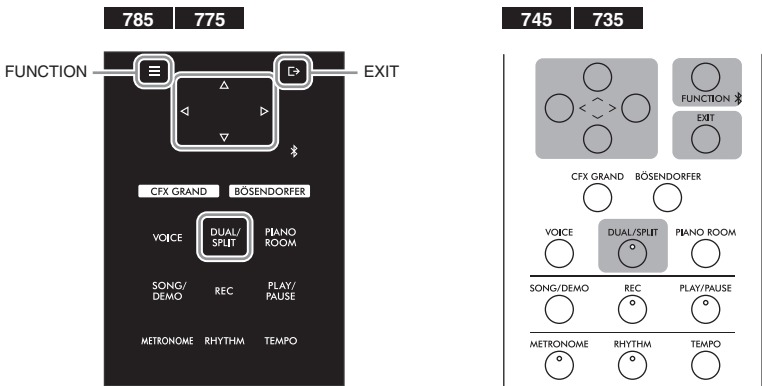
スプリットポイントに当たる鍵盤は、左側に属します。

NOTE

スプリットポイントの変更方法は、34ページをご覧ください。

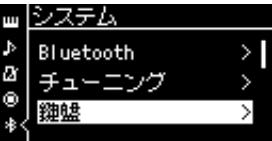
二人で一緒に弾く(デュオ)

鍵盤を左右に分けて、同時に二人が同じ音域で演奏できます。1台の楽器で二人同時に演奏したり、二人並んで座り、一人がお手本を弾き、もう一人がそれを見ながら練習する、といった使い方ができます。

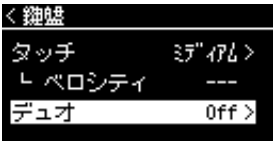


1. ^{ファンクション} [FUNCTION] ボタンを何度か押してシステムメニュー画面を表示させてから、以下の画面イラストで反転表示された項目を順番に選んでいきます。

システムメニュー画面

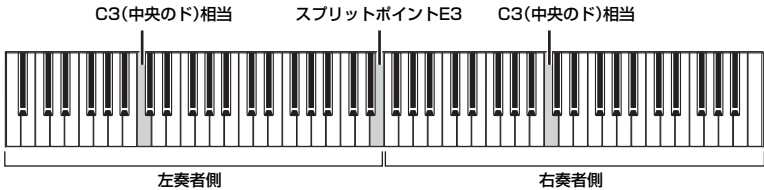


鍵盤画面



- 1-1. [上]/[下]ボタンで「鍵盤」を選択
1-2. [右]ボタンで次へ
1-3. [上]/[下]ボタンで「デュオ」を選択
1-4. [右]ボタンでOn (オン)に設定

(CLP-785/775) [DUAL/SPLIT] ボタンがオレンジ色に光ります。
(CLP-745/735) [DUAL/SPLIT] ボタンのランプが点灯します。
E3が鍵盤の境目(スプリットポイント)となり、左奏者側と右奏者側に分かります。



ペダルの機能は次のように変わります。

右のペダル	右側領域のダンパーペダル
まん中のペダル	左右領域共通のダンパーペダル
左のペダル	左側領域のダンパーペダル

NOTE
デュオをオンにすると、VRM (26ページ)は無効になります。また「デュオ - タイプ」(93ページ)がセバレートの場合は、リバーブ(32ページ)とバイノーラル(94ページ)も無効になります。

NOTE
スプリットポイントに当たる鍵盤は、左側に属します。

2. ^{エグジット} [EXIT]ボタンを押して、ボイス画面を表示させます。

デュオがオンの間はボイス画面に[Duo]と表示されます。必要に応じて、[<]/[>]ボタンや[VOICE]ボタンを押してボイスを選びます。



3. 鍵盤を弾いてみましょう。

初期設定では、左側の領域の音は左側から、右側の領域の音は右側から発音します。

4. デュオをオフにするには、^{デュアル} ^{スプリット} [DUAL/SPLIT]ボタンを押します。

次のいずれかの操作でもデュオはオフになります。

- [CFX GRAND]、[BÖSENDORFER]、[PIANO ROOM]のいずれかのボタンを押す。
- 手順1から操作してデュオを「Off (オフ)」に設定する。

NOTE

両奏者の演奏音を両方のスピーカーから自然なバランスで鳴らすこともできます。[FUNCTION]ボタンを何度か押してシステムメニュー画面を選び、「鍵盤」→「デュオ - タイプ」(93ページ)で設定します。

メトロノームを使う

この楽器は、メトロノーム(ピアノの練習でよく使われる正確なテンポを刻む道具)を備えています。ご利用ください。

1. ^{メトロノーム} [METRONOME]ボタンを押して、メトロノームを鳴らします。

テンポ画面が表示されます。テンポ画面については、次の「テンポを調節する」をご覧ください。

2. メトロノームを止めるときは、もう一度[METRONOME]ボタンを押します。

テンポ画面を抜けるには、[EXIT]ボタンを押してください。

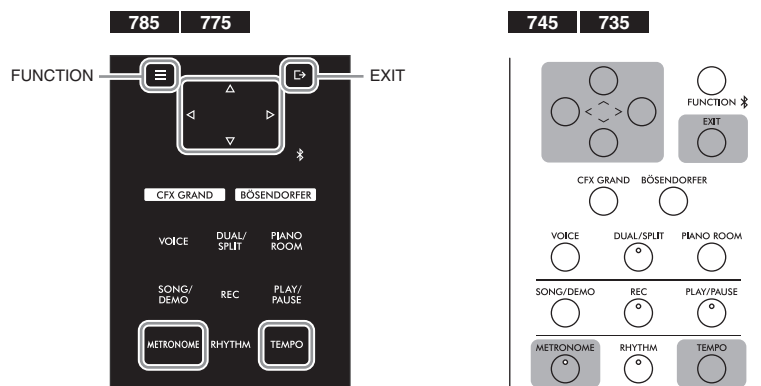
NOTE

拍子の変更方法は、39ページをご覧ください。

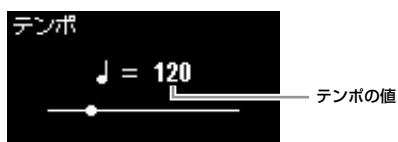
NOTE

メトロノームの音量は、メトロノーム/リズムメニュー画面(91ページ)で設定できます。また、BPM (画面上のテンポ表示の基準音価を、メトロノームの拍子設定に連動させるか、拍子設定に関係なく4分音符基準にするか)などもメトロノーム/リズムメニュー画面で設定できます(91ページ)。

テンポを調節する



1. ^{テンポ} [TEMPO]ボタンを押して、テンポ画面を表示します。



2. [<]/[>]ボタンでテンポを調節します。

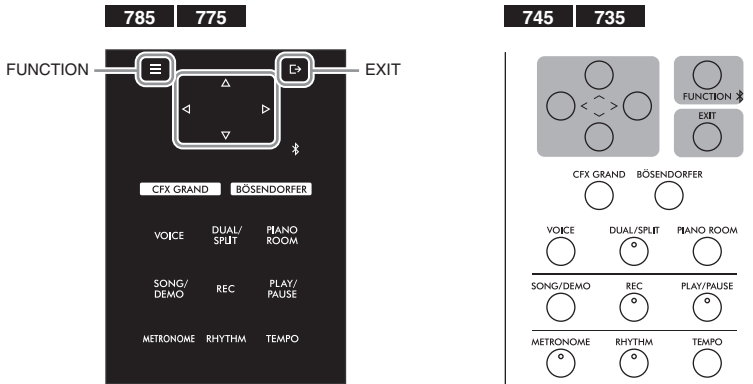
テンポを初期設定に戻す

CLP-785/775: [FUNCTION]ボタンを長押しします。

CLP-745/735: [<]と[>]ボタンを同時に押します。

3. ^{エグジット} [EXIT]ボタンを押して、テンポ画面を閉じます。

メトロノームの拍子を設定する



1. **ファンクション** [FUNCTION] ボタンを何度か押してメトロノーム/リズムメニュー画面を表示させます。
2. [△]/[▽] ボタンで「拍子」を選び、[>] ボタンを押します。

拍子画面



3. [△]/[▽] ボタンで拍子を選びます。

設定範囲：2/2、1/4、2/4、3/4、4/4、5/4、6/4、7/4、3/8、6/8、7/8、9/8、12/8

初期設定：4/4 (MIDIソング選択時は、ソングによる)

テンポ表示と設定範囲

テンポは「音価＝テンポ値」(例 ♩=120)の形式で表示されます。拍子を設定すると、音価と設定範囲は以下のように変わります。

音価	拍子	設定範囲
♪ 2分音符	2/2	3～250
♪ 4分音符	1/4、2/4、3/4、4/4、5/4、6/4、7/4	5～500
♪ 付点4分音符	6/8、9/8、12/8	4～332 (設定可能なテンポは2の倍数のみ)
♪ 8分音符	3/8、7/8	10～998 (設定可能なテンポは2の倍数のみ)と999

* MIDIソングのテンポが楽器で設定できる範囲外の場合、楽器で設定可能な範囲に変更されます。

* メトロノーム/リズムメニュー画面の「BPM」が4分音符に設定されている場合は、拍子の設定に関わらず音価は4分音符で表示されます。

4. **メトロノームのベル音をオンにします。**

詳細は、メトロノーム/リズムメニュー画面の「ベル」(91ページ)をご覧ください。

選んだ拍子に従って、1拍目でチーンと鳴り、それ以外の拍ではカチ、カチと鳴ります。

5. **エグジット** [EXIT] ボタンを押して、メトロノーム/リズムメニュー画面を閉じます。

音価

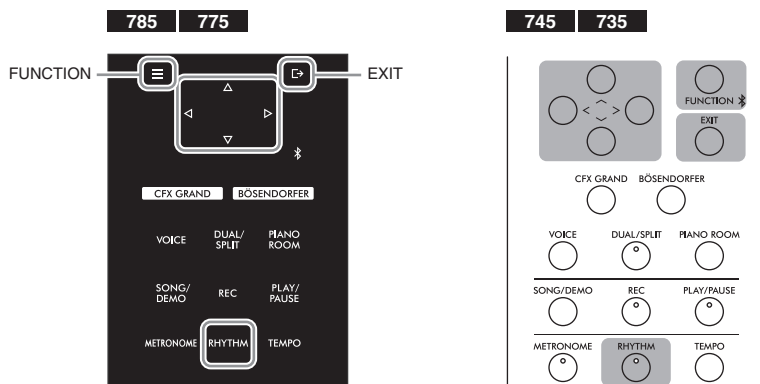
1拍の基準となる音の長さ

メトロノームの詳細設定

メトロノーム/リズムメニュー画面で、メトロノームの音量、BPM (画面上のテンポ表示の基準音価を、メトロノームの拍子設定に連動させるか、拍子設定に関係なく4分音符基準にするか)などを設定できます(91ページ)。

リズムに合わせて弾く

この楽器には、様々なリズムが内蔵されています。リズムに合わせて楽しく演奏ができます。
なお、内蔵のリズムは打楽器音とベース音で構成されています。



1. ^{リズム} [RHYTHM] ボタンを押して、リズム再生をスタートさせます。
イントロが鳴り、リズム再生がスタートします。



2. [<]/[>] ボタンを使って、使いたいリズムを選びます。
リズムの種類については、リズム一覧(107ページ)をご参照ください。

3. リズムに合わせて演奏しましょう。

演奏するだけで、楽器がその音を認識して、演奏に合ったベース音が鳴ります。
ベース音を鳴らしたくないときは、オフに設定します。[FUNCTION] ボタンを何度か
押してメトロノーム/リズムメニュー画面を表示し、「ベース」で設定します。詳しくは
91ページをご覧ください。

4. リズムを止めたいときは、[RHYTHM] ボタンを押します。
エンディングが鳴ったあと、リズムはストップします。

5. ^{エグジット} [EXIT] ボタンでリズム画面を閉じます。

リズムのテンポ

- ・リズムのテンポは、メトロノームで設定したテンポと同じになります(38ページ)。
- ・リズムのテンポ設定後にMIDIソングを選べば、リズムのテンポ設定はキャンセルされ、選択したソング固有のテンポに切り替わります。

リズムの詳細設定

メトロノーム/リズムメニュー画面(91ページ)で、リズムの音量を設定したり、鍵盤を弾くと同時にリズムをスタートさせるなどの設定ができます。

NOTE

ソングの再生中および録音中、リズム画面は表示されません。

イントロ/エンディングのオン/オフを設定するには

演奏を盛り上げるため、リズムの始まりと終わりには、イントロ/エンディングが流れます。イントロ/エンディングを鳴らす(On)/鳴らさない(Off)の設定は、メトロノーム/リズムメニュー画面(91ページ)の「イントロ」、「エンディング」の項目で設定できます。

NOTE

- ・曲のアレンジによっては、演奏に合ったベース音が鳴らない場合があります。
- ・9th、11th、13thのコードは認識されません。
- ・コードの押さえ方は、市販のコード表などをご参照ください。

曲(ソング)を再生する、練習する

この楽器では、内蔵曲や録音した曲、市販の曲データを総称して「ソング」と呼んでいます。単に再生して楽しむだけでなく、ソングを再生しながら演奏の練習ができます。

ミディ

MIDIソングとオーディオソング

この楽器で再生/録音できるソングには、MIDIソングとオーディオソングの2種類があります。MIDIソングは、鍵盤を押す/離すといった演奏の動きを記録したデータです。楽譜と同じように、どの鍵盤をどのくらいの強さでどのタイミングで弾いた、といった演奏情報が記録され、音そのものは記録されません。記録された演奏情報にもとづいて、(クラビノーバなどの)音源部が鳴ることではじめて音になります。データ容量が小さく、また、ボイスの変更などの編集がしやすいのが特長です。

オーディオソングは、演奏した音そのものを記録したデータです。ボイスレコーダーなどに録音するのと同じしくみで記録したものです。スマートフォンや携帯音楽プレーヤーなどで再生するのと同じように、WAV形式のデータをこの楽器で再生できます。

MIDIソングとオーディオソングでは、使える機能が異なります。この章では、下記のよう

例

MIDI

オーディオ

ここでの説明は、MIDIソングで使える機能です。オーディオソングでは使えません。

この楽器では、以下のソングが再生できます。

- ・楽器に内蔵されているボイスのデモ曲(ボイスデモ)
- ・楽器に内蔵されているソング(ピアノソング50曲「クラシック50選」と練習用ソング303曲「レッスン」)
- ・この楽器での演奏を録音したソング(録音方法については52ページ参照)
- ・市販のMIDIデータ：SMF (Standard MIDI File)形式
この楽器で再生可能なMIDIデータのサイズは、1曲につき約500KBまでです。
- ・市販のオーディオデータ：WAV形式(拡張子「.wav」)ファイル(サンプリング周波数44.1kHz、量子化ビット数16bit、stereo)
この楽器で再生可能なオーディオデータは、1曲につき80分までです。

785

775

745

735

CLP-785は、以下の規格に対応しています。

GMシステムレベル2

代表的な音色配列フォーマットの1つである「GMシステムレベル1*」を、さらに表現力を高める機能にまで拡張したフォーマットです。

*多くのMIDI機器がGMシステムレベル1に対応しており、市販のミュージックデータの多くがGMシステムレベル1で作られています。

XG

「GMシステムレベル1」をさらに拡張し、豊かな表現力とデータの継続性を可能にしたヤマハの音源フォーマットの音色配列です。CLP-785のXG音色(ボイス)グループ内の音色で録音した演奏データの音色配列は「XG」になります。

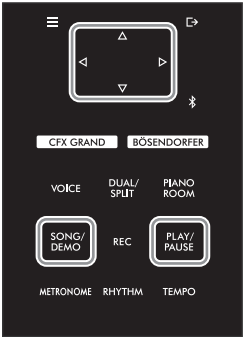
GS

ローランド株式会社の音源フォーマットです。ヤマハのXGフォーマットと同様、GMシステムレベル1の仕様に加え、音色セットやドラムセットの拡張、音色の修正、エフェクトなどの拡張機能を規定しています。

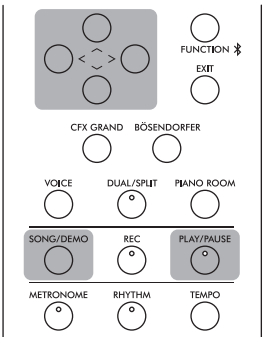
ソングを再生する

MIDI オーディオ

785 775



745 735



1. USBフラッシュメモリーに入っているソングを再生したいときは、USBフラッシュメモリーを楽器のUSB [TO DEVICE]端子に接続しておきます。

オーディオファイルを再生したい場合は、必ずUSBフラッシュメモリーに入れてください。

2. [SONG/DEMO]ボタンを押すとソングカテゴリーリストが表示されますので、[^]/[V]ボタンで目的のカテゴリー / フォルダを選びます。

ソングカテゴリーリスト



[V]ボタン

下記のカテゴリーの説明を参考に、「クラシック50選」、「レッスン」、「ユーザー」、「USB」から選びます。

デモ	ボイスの特徴がわかるデモ曲(MIDIソング)です。再生の方法は30ページをご覧ください。曲名は105ページの「ボイスデモ一覧」をご覧ください。
クラシック50選	内蔵のピアノソング50曲(MIDIソング)です。詳しくは106ページの「ソング一覧」をご覧ください。付属の「クラシック名曲50選」に楽譜が掲載されていますのでご活用ください。
レッスン	内蔵の練習曲(MIDIソング)です。チェルニーやハノンなど、ピアノ練習に適したソングが303曲入っています。106ページに一覧があります。練習曲は曲集によっていくつかのフォルダーに分けられています。
ユーザー	この楽器で録音(52ページ)し、楽器本体に保存されているMIDIソングと、USBフラッシュメモリーから楽器本体へコピー / 移動したMIDIソングです(63ページ)。
USB	この楽器での演奏をUSBフラッシュメモリーに録音したMIDIソング/オーディオソングや、録音したMIDIソングをオーディオソングに変換(67ページ)したもの、またUSBフラッシュメモリーに保存した市販のMIDIソング/オーディオソングです。

NOTE

USBフラッシュメモリーを接続したとき、USBフラッシュメモリーのルートにある(フォルダーに入っていない)ソングを自動で呼び出す機能「USB自動ロード」があります。設定方法については、96ページをご覧ください。

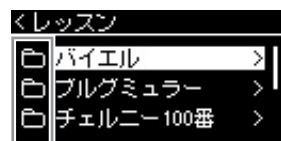
NOTE

USBフラッシュメモリーを使う前に、必ず「USB機器を接続する (USB [TO DEVICE]端子)」(71ページ)をお読みください。

3. [**>**]ボタンを押して決定すると、カテゴリーの中のソングが表示されますので、[**^**]/[**v**]ボタンで聞きたいソングを選びます。

「ユーザー」または「USB」カテゴリーを選んだ場合、ソング名の左端には、ソングの種類を示すアイコンが表示されます。

ソングリスト



アイコン

アイコン	形式
	フォルダー
	MIDIソング
	オーディオソング

「レッスン」のソングはさらにフォルダーごとに分けられています。フォルダーを選んで[>]ボタンを押してから、ソングを選んでください。

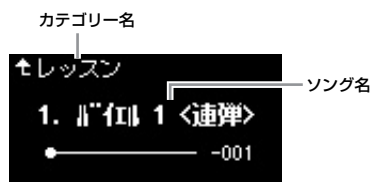
USBフラッシュメモリーに録音したソングを選ぶ

この楽器の演奏をUSBフラッシュメモリーに録音した場合、ソングはUSBフラッシュメモリー内の「USER FILES」フォルダーに保存されます。「USER FILES」フォルダー内のソングを選びたい場合は、手順2で「USB」を選び、手順3で「USER FILES」フォルダーを選びます。

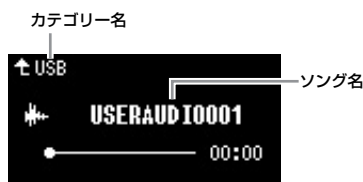
4. [**>**]ボタン押して決定します。

ソング画面が表示され、現在選ばれているソング名と、そのソングが入っているカテゴリ名が表示されます。

ソング画面: MIDIソングの場合



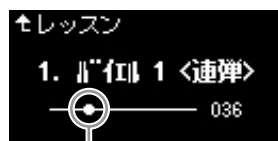
ソング画面：オーディオソングの場合



5. ^{プレイ} [PLAY/PAUSE] ボタンを押して、再生をスタートします。

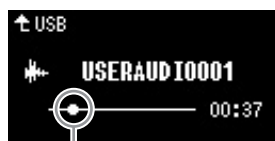
再生位置が表示されます。

ソング画面: MIDIソングの場合



再生位置

ソング画面：オーディオソングの場合



再生位置

再生しながらで自身で鍵盤を弾くこともできます。その際、手弾き音のボイスも変えられます。

手弾き音とMIDIソング再生音の音量バランスを調節したり、オーディオソングの音量を調節したいときは、それぞれソングメニュー画面の「音量」項目で調節してください(50ページ)。

NOTE

カテゴリ / フォルダーのリストに戻るには、[<] ボタンを押します。

NOTE

フォルダーの中にデータが存在しない場合は「曲なし」と表示されます。

USBフラッシュメモリー内のソングが読み込めない場合

システムメニューで、ソング名に対する言語設定(97ページ)を切り替えてみてください。

NOTE

ソングリストに戻るには、[^]ボタンを押します。

NOTE

曲名が長くて画面に表示されない場合は、[V]ボタンを押すと、曲名を最後まで確認できます。

NOTE

テンポは、自動的にそのソング特有のテンポにセットされます。「メトロノームを使う」(38ページ)での設定は無効になります。

NOTE

再生に便利な機能を46～51ページで紹介しています。ご覧ください。

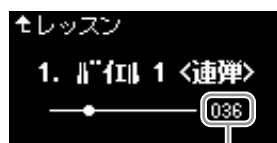
6. もう一度[PLAY/PAUSE]ボタンを押して、再生をストップします。

[PLAY/PAUSE]ボタンを押さない場合にも、1曲の再生が終了すると、自動的にストップします。

早戻し/早送り/ソングの先頭に戻す

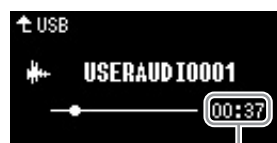
1. ソング画面の表示中に[<]/[>]ボタンを押して、小節番号もしくは経過時間の早戻し/早送りをします。

ソング画面: MIDIソングの場合



小節番号

ソング画面: オーディオソングの場合



経過時間

ボタンを長く押すと値が連続して変わります。

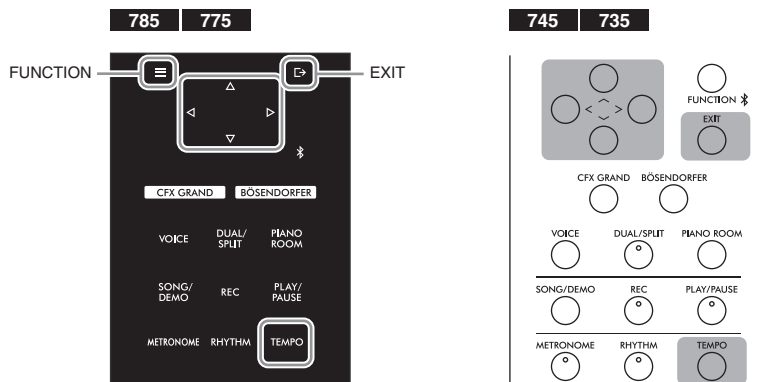
ソングの先頭に戻す

CLP-785/775では[FUNCTION]ボタンを長押しします。

CLP-745/735では[<]と[>]ボタンを同時に押します。

テンポの調節

ソングの再生速度を変えられます。



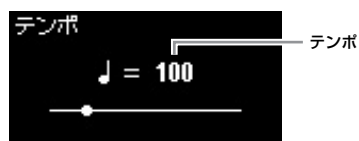
NOTE

オーディオソングのテンポを変更した場合、曲によっては音質が変わることがあります。

1. ^{テンポ} [TEMPO]ボタンを押してテンポ画面を表示します。

MIDIソングの場合は再生中またはソング画面表示中に、オーディオソングの場合は再生中に、[TEMPO]ボタンを押してください。

MIDIソングの場合



オーディオソングの場合



2. [<]/[>]ボタンを押して、テンポを変更します。

CLP-785/775では[FUNCTION]ボタンを長押しすると、CLP-745/735では[<]と[>]ボタンを同時に押すと、元のテンポ(そのソング固有のテンポ)に戻ります。

MIDIソングの場合

テンポの設定範囲は、選ばれているソングの拍子によって異なります。

オーディオソングの場合

設定範囲は75%~125%です。100%がソング固有のテンポです。値が大きいほど再生速度が速くなります。

NOTE

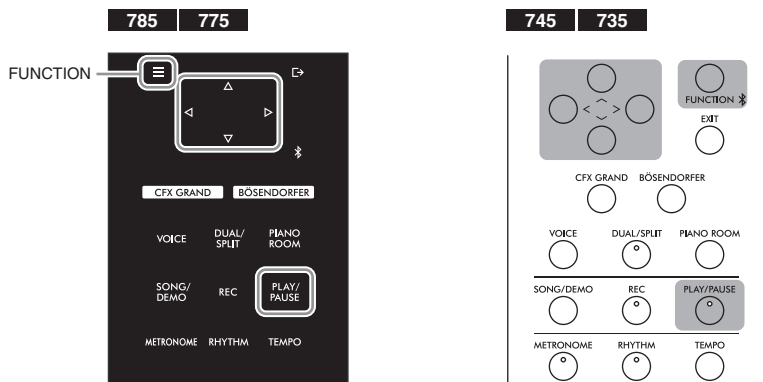
MIDIソングの場合、拍子によっては、設定できる数値が2の倍数のみになります。詳しくは39ページをご覧ください。

3. 設定が終わったら^{エグジット} [EXIT]ボタンを押してテンポ画面を抜けます。

右手または左手パートだけを再生する(MIDIソング)

MIDI オーディオ

内蔵曲などのMIDIソングには、データが右手パートと左手パートに分かれているものがあります。このようなソングデータの場合、右手パートだけをオンにして左手の練習を、左手パートだけをオンにして右手の練習ができます。



1. 練習するソングを選びます。

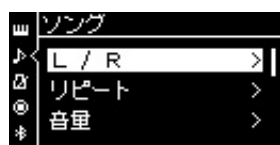
選びかたは、42ページを参照してください。内蔵の「クラシック50選」もしくは「レッスン」カテゴリから選ぶのがおすすめです。

2. 練習したいパートを選んで再生をオフにします。

[FUNCTION]ボタンを何度か押してソングメニュー画面を表示させてから、以下の画面イラストで反転表示された項目を順番に選んでいきます。

L/R画面では、再生をオフにしたい(練習したい)パート(トラック)を選びます。右手練習したい場合は「R」、左手練習したい場合は「L」を選びます。

ソングメニュー画面



L/R画面



2-1. [△]/[▽]ボタンで「L/R」を選択

2-2. [>]ボタンで次へ

2-3. [△]/[▽]ボタンでトラックを選択

3. [>]ボタンを使って、選んだパートを「Off (オフ)」に設定します。

4. [PLAY/PAUSE]ボタンを押して、再生をスタートします。

再生をオフにしたパートをご自分で弾いて練習します。

5. もう一度[PLAY/PAUSE]ボタンを押して、再生をストップします。

[PLAY/PAUSE]ボタンを押さない場合にも、1曲の再生が終了すると、自動的にストップします。

NOTE

再生中にも、パートごとの再生オン/オフは切り替えられます。

NOTE

通常、「R」にチャンネル1、「L」にチャンネル2、「その他」にチャンネル3～16が割り当てられています。ソングによっては異なる場合があります。「その他」のチャンネルは、チャンネルごとにオン/オフを設定できません。

NOTE

内蔵の「クラシック50選」「レッスン」カテゴリのソングの一部は連弾曲です。これらの連弾曲のパートの割り当てについては106ページをご覧ください。

NOTE

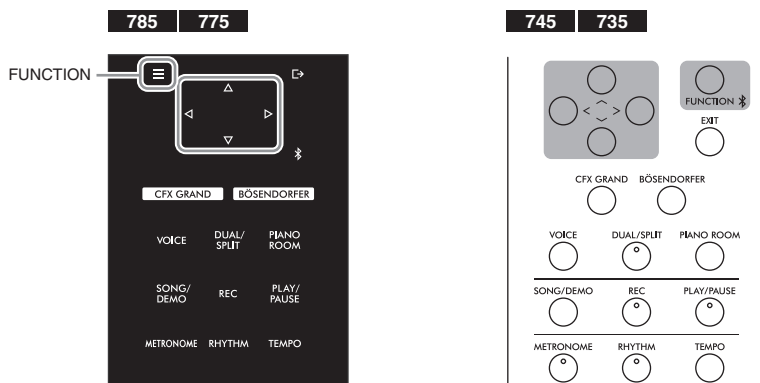
別のMIDIソングを選ぶと、両パートとも再生オンに自動的にリセットされます。

繰り返し再生する

繰り返しの項目は下記のとおり3つあります。難しいフレーズを繰り返して練習するときなどに便利です。MIDI曲の場合、「右手または左手パートだけを再生する(MIDIソング)」の機能とあわせて使うこともできます。

- **ABリピート**..... MIDI 1 曲内のある範囲を指定して繰り返し再生します。
- **フレーズリピート**..... MIDI 1 曲内のフレーズを繰り返し再生します。
- **ソングリピート**..... MIDI/オーディオの1 曲または全曲を順番/順不同(ランダム)に連続再生します。

ここではABリピートとソングリピートの設定方法を説明します。フレーズリピートの詳細については詳細設定編の88ページをご覧ください。



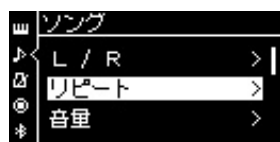
1. 再生するソングを選びます。

選びかたは、42ページを参照してください。

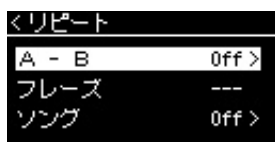
2. リピート画面を表示させます。

[FUNCTION]ボタンを何度か押してソングメニュー画面を表示させ、「リピート」を選んで[>]ボタンを押します。

ソングメニュー画面



リピート画面



3. リピート画面で設定したい項目を[△]/[▽]ボタンを使って選び、[>]ボタンを押します。

ABリピートを設定したい場合は「A - B」、ソングリピートを設定したい場合は「ソング」を選びます。

4. 設定画面で、設定をします。

- **ABリピート**..... 48ページをご覧ください。
- **ソングリピート**..... 49ページをご覧ください。

ABリピートの設定

MIDI

オーディオ

繰り返しの範囲を指定します。

4-1. ^{プレイ} [PLAY/PAUSE] ボタンを押して、ソングの再生をスタートします。

4-2. 繰り返し再生の開始位置(A点)にしたいところで、[>] ボタンを押します。

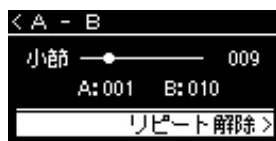
A - B画面



4-3. 繰り返し再生の終了位置(B点)にしたいところで、もう一度[>] ボタンを押します。

カウント音が入ったあと、A点からB点までが繰り返し再生されます。

5. 繰り返し再生をやめたい場合は、画面の「リピート解除」が反転表示している状態で[>] ボタンを押すか、別のソングを選びます。



ソングの先頭をA点にする

A点を指定してからソングの再生をスタートし、そのあとB点を指定します。

ソングの最後をB点にする

A点だけを指定して、ソングの最後まで再生します。ソングの最後が自動的にB点になります。

NOTE

繰り返し範囲の設定は、以下の方法でも設定できます。

- 1 [^] ボタンを押して「小節番号」を反転表示させ、[<]/[>] ボタンを使って小節番号を増減します。
- 2 [V] ボタンを押して「A点設定」を反転表示させ、[>] ボタンを押します。
A点が設定され、B点を設定する画面になります。
- 3 同様の操作でB点も設定します。

ソングリピートの設定

MIDI | オーディオ

4-1. [^]/[V]ボタンを使って、再生方法を下記から選びます。

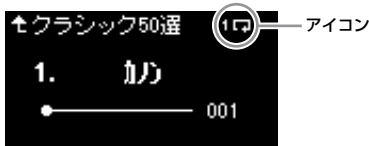
設定画面






Off (オフ)	連続再生しません。
1曲	現在選ばれているソングを繰り返し再生します。
全て	現在選ばれているソングのフォルダー内の全曲を順番に連続再生します。
ランダム	現在選ばれているソングのフォルダー内の全曲をランダム(順不同)に連続再生します。

4-2. ^{プレイ} [PLAY/PAUSE] ^{ポーズ} ボタンを押して、繰り返し再生をスタートします。

リピートの設定は、ソング画面のアイコンで確認できます。



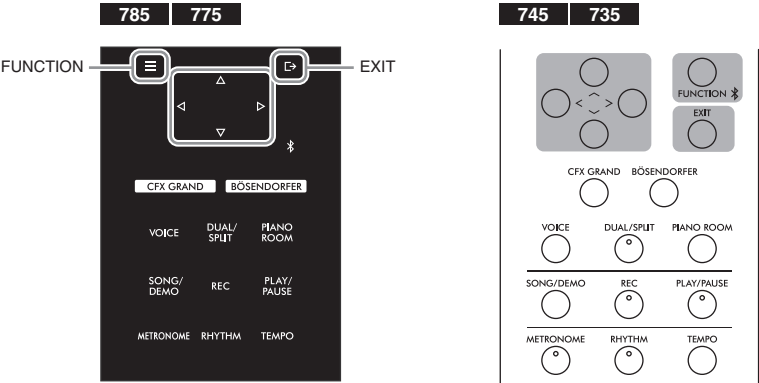
繰り返し中は、ソング画面を表示すると画面右上に  (1曲)、 (全て)、 (ランダム)が表示されます。

5. 繰り返し再生をやめたい場合は、もう一度[PLAY/PAUSE]ボタンを押してソングをストップさせてから、手順4-1の設定を「Off (オフ)」にします。

音量バランスを調節する

MIDI オーディオ

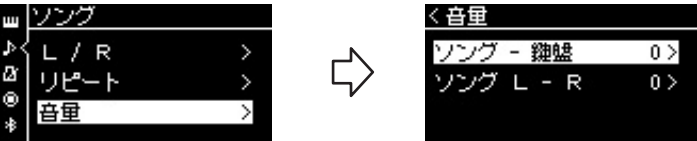
MIDIソングを選んだ場合は、再生音と手弾き音の音量バランス、ソングの右手/左手パートの音量バランスが調節できます。オーディオソングを選んだ場合は、オーディオソングの音量調節ができます。



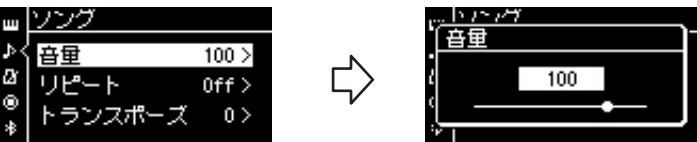
あらかじめ音量調節をしたいソングを選んでおきます(42ページ)。

1. **ファンクション** [FUNCTION]ボタンを何度か押してソングメニュー画面を表示させ、[△]/[▽]ボタンで「音量」を選び、[>]ボタンを押します。

(MIDIソング選択時)
ソングメニュー画面



(オーディオソング選択時)
ソングメニュー画面



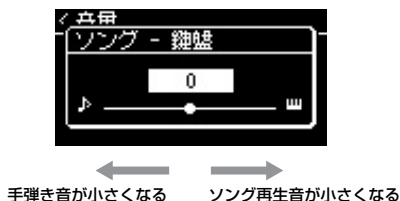
2. (MIDIソングを選んでいる場合)
「ソング - 鍵盤」または「ソング L - R」を[△]/[▽]ボタンで選んで[>]ボタンを押し、設定画面を表示させます。
(オーディオソングを選んでいる場合)
オーディオ再生音量を[<]/[>]ボタンで調節します。調節が終わったら手順4へ進んでください。

NOTE
市販のミュージックデータの中には、非常に大音量のデータがあります。そのようなデータ(MIDIソング)を使用する場合、「ソング - 鍵盤」を調節してください。

ソング - 鍵盤	MIDIソング再生音と手弾き音の音量バランスを調節します。
ソング L - R	MIDIソングの右手パート/左手パートの音量バランスを調節します。

3. [<]/[>]ボタンで設定します。

ソング - 鍵盤を選んだ場合



ソング L - Rを選んだ場合



4. ^{エグジット}[EXIT]ボタンを2回押して、ソングメニュー画面を抜けます。

別のMIDIソングを選ぶと、「ソング L - R」の設定は初期設定に戻りますが、「ソング - 鍵盤」と「オーディオ音量」の設定はそのままです。

NOTE

「ソング- 鍵盤」は、電源をオフにしても設定が記憶(バックアップ)されます。誤って音量を最小にすると、鍵盤やソングの音が鳴らなくなりますのでご注意ください。設定を記憶するか、またはしないかを変更できます。詳しくは100ページの「バックアップ設定」をご覧ください。

再生に関するその他の機能

MIDI | オーディオ

ペダルで再生/一時停止する

まん中か左のペダルの機能を、再生/一時停止(操作パネルの[PLAY/PAUSE]ボタンと同じ機能)に切り替えることができます。[FUNCTION] ボタンを何度か押してシステムメニュー画面を表示し、「ペダル」→「再生/一時停止」で設定します。詳しくは94ページをご覧ください。

ソングを移調する(トランスポーズ)

ソングは全体を半音単位で移調(トランスポーズ)して再生できます。[FUNCTION]ボタンを何度か押してソングメニュー画面を表示し、「トランスポーズ」で設定できます。詳しくは88ページをご覧ください。

演奏を録音する

この楽器では、下記2通りの方式で録音できます。用途に合った方式で演奏を録音してみましょう。

• ^{ミディ}MIDI録音 **MIDI**

録音した演奏をSMF(フォーマット0)のMIDIソングとして、楽器本体またはUSBフラッシュメモリーに保存します。オーディオソングよりデータ容量が小さく、編集しやすいのが特長です。トラックごとに録音したり、録音後に部分的に録音し直したりできます。MIDI録音で作られたソングは、あとでオーディオファイルに変換(67ページ)できるので、難しい曲をオーディオ録音したい場合などは、まずMIDI録音でパートごとに録音すると便利です。この楽器で録音できるMIDIデータのサイズは、1曲につき約500KBまでです。

• オーディオ録音 **オーディオ**

演奏をオーディオソングとしてUSBフラッシュメモリーに保存します。初期設定では、一般的なCD音質(44.1kHz/16bit)のステレオWAV形式で保存され、コンピューターを使って携帯音楽プレーヤーなどに転送して再生できます。外部機器からのオーディオ入力音*も録音されるので、オーディオ機器やパソコン、スマートフォンなどの再生音も録音できます。この楽器で録音できる時間は、1曲につき80分までです。

MIDIソングとオーディオソングの違いについては、41ページで詳しく説明しています。

*オーディオ入力音

コンピューターやスマートデバイスなどの外部機器を[AUX IN]端子、USB [TO HOST]端子、無線LAN、Bluetoothで楽器と接続したときに、外部機器から楽器に送られるオーディオデータのことで、外部機器との接続方法は、68ページからの「他の機器と接続する」をご覧ください。

録音の方法

4通りの録音方法があります。録音方法によって、録音したデータはMIDIまたはオーディオになります。

• 簡単にMIDI録音する **MIDI** 53ページ

ピアノ曲の演奏などを、楽器本体に手軽に録音します。録音したデータは楽器本体の「ユーザー」カテゴリ内に保存されます。

• トラックを指定してMIDI録音する **MIDI** 55ページ

左手/右手パートを別々に録音したり(右手パートを再生させながら左手パートを録音できます)、アンサンブルの曲を1パートずつ録音したりできます。

• USBフラッシュメモリーにMIDI録音する **MIDI** 57ページ

空のソングファイルに録音してUSBフラッシュメモリーに保存したり、USBフラッシュメモリーにある録音済みのMIDIソングに追加録音したりできます。

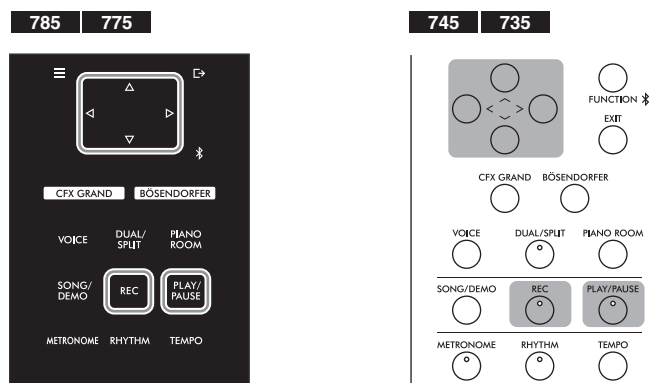
• USBフラッシュメモリーにオーディオ録音する **オーディオ** 58ページ

オーディオ録音して、USBフラッシュメモリーに保存します。

簡単にMIDI録音する

MIDI

最も簡単な録音方法です。



1. 録音に使うボイスや、拍子などの設定を選びます。

録音に使うボイスを選びます(28ページ)。デュアル/スプリット/デュオを使う場合はここでオンにします。必要に応じてメトロノーム/リズムの拍子とテンポ(38ページ)、エフェクトもここで選んでください。

2. ^{レック}[REC]ボタンを押して、録音モードに入ります。

録音のための空のソングファイルが用意され、録音画面が表示されます。

録音画面



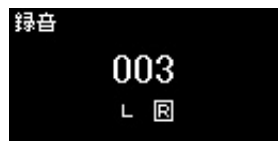
[PLAY/PAUSE]ボタンがテンポに合わせて点滅します。

録音モードから抜けたいときはもう一度[REC]ボタンを押します。

3. 鍵盤を弾くと同時に録音がスタートしますので、演奏します。

曲の始めに空白の小節を録音したいときは、[PLAY/PAUSE]ボタンを押して録音を開始させます。

録音画面(録音中)



4. 演奏が終わったら、[REC]ボタンを押して、録音を終了します。

録音モードを抜け、ソングを保存するための画面が表示されます。

NOTE

右手を録音したあと左手を録音して1曲に仕上げたい場合は、「トラックを指定してMIDI録音する」(55ページ)をご覧ください。

メトロノーム/リズムを使う

メトロノーム/リズムを鳴らしながら録音することもできます。ただし、メトロノームの音は録音されません。またリズム再生は、録音モードに入ったあとに行ってください。リズム再生中に録音モードに入ると、リズムが停止してしまいます。

NOTE

音量バランス「ソング - 鍵盤」(50ページ)は記録(録音)されません。

NOTE

MIDI録音の場合、自動的に右手パート(トラック1)が指定されますが、デュアル/スプリット/デュオ/リズムを使った録音では、指定されたトラックと実際に録音されるトラックが異なります。詳しくは「トラックの割り当て」(55ページ)をご覧ください。

モードとは

ある機能を実行できる状態を意味します。ここでは、録音できる状態のことを「録音モード」と呼んでいます。

NOTE

[REC]ボタンを長めに押すと、録音のためのソングを選ぶリストが表示されます。この画面が表示された場合は、57ページの表をご参照のうえ、「新規ソング」を選んで[>]ボタンを押してください。

NOTE

リズムが選択されている状態で[RHYTHM]ボタンを押して、リズム再生と同時に録音をスタートさせることもできます。

5. 録音した演奏を保存したい場合は、確認画面で「保存」が選ばれている状態で、[>]ボタンを押して決定します。

保存が終わると「保存が完了しました」のメッセージが表示され、ソング画面に戻ります。新規ソングの場合は自動的に「USERSONGxxx」(xxxは数字)という名前が付けられ、楽器本体の「ユーザー」カテゴリの中に保存されます。



- 録音をやり直したい場合は[△]/[V]ボタンで「やり直し」を選び、[>]ボタンを押します。手順3から再スタートできます。
- 保存したくない場合は「中止」を選び、[>]ボタンを押します。

6. ^{プレイ}[PLAY/PAUSE]^{ポーズ}ボタンを押して、録音した演奏を聞いてみましょう。

MIDI録音で記録されるデータの種類

パートごとに録音されるデータ

- ノートデータ(弾いた音)
- ボイス選択
- ペダル操作(ダンパー、ソフト、ソステナート)
- リバープのかかり具合「リバープデプス」
- コーラスのかかり具合「コーラスデプス」
- エフェクトのかかり具合「エフェクトデプス」
- 音の明るさ「ブライトネス」
- レゾナンス効果の設定「ハーモニックコンテンツ」
- ボイスのオクターブ設定
- ボイスごとの音量の設定
- ボイスごとの左右の音の位置の設定「パン」
- 2つのボイスの音の高さをずらす微調整(デュアルのみ)「デチューン」
- ボイスごとのタッチに対する音量変化度合の設定「タッチセンス」
- グランド・エクスプレッション・モデリングに関連するデータ

全パートで共通に録音されるデータ

- 音律
- テンポ
- 拍子
- リバープタイプ
- コーラスタイプ
- エフェクトタイプ

注記

録音したMIDIソングを保存せずにソングを切り替えたり電源を切ったりすると、録音したデータは失われます。ご注意ください。

ソング名を変更する

録音した曲は自動的に名前が付けられますが、ご自分で名前を付け直すことができます(67ページ)。

NOTE

ソングを削除する方法は65ページをご覧ください。

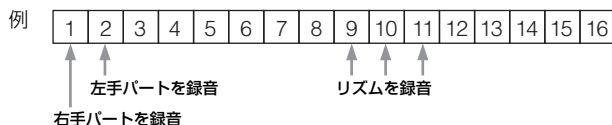
NOTE

ノートデータ、ペダル操作、オクターブ設定、および拍子は、録音後に変更できません。

トラックを指定してMIDI録音する

MIDI

MIDI録音では、全部で16トラックで構成されるMIDIソングを、1トラックずつ録音して作り上げることができます。たとえば、ピアノ曲の場合、右手パートをトラック1に録音したあと、左手パートをトラック2に録音すれば、両手で弾くのが難しいピアノ曲を録音することができます。また、リズム(打楽器音のみ)を先に録音しておき、あとでリズムを聞きながらトラック1にメロディーを録音する、ということが出来ます。このように、1回で演奏するのが難しい曲でも、パート別に重ねて録音をすることによって、1つの曲に仕上げるすることができます。



本体に録音済みのMIDIソングに追加録音したい場合:

追加録音したいMIDIソングを選びます(42ページ 手順1~4)。**[REC]**ボタンを1秒以上押すと、録音のためのソングを選ぶリストが表示されます。追加録音したいMIDIソングを選んで**[>]**ボタン押してから、手順2へ進んでください。

1. 「簡単にMIDI録音する」(53ページ)の手順1~2と同じ方法で、録音の準備をします。

2. [**<**]/**[>]**ボタンで録音トラックを指定します。

- 右手パートを録音したいときは「R」を選びます。
- 左手パートを録音したいときは「L」を選びます。
- トラック3~16のいずれかを指定したいときは**[<]/[>]**ボタンを何度か押してトラック(Extra 3~16)を指定します。最初にリズムを録音した場合は、トラック9~11のいずれか、またはすべてにリズムが録音されていますので、それ以外のトラックを指定します。



トラックのデータの有無：

：データあり

：データなし

3. 鍵盤を弾くと同時に録音がスタートしますので、演奏します。

リズムを最初に録音する場合は、**[RHYTHM]**ボタンを押して録音をスタートさせます。曲の始めに空白の小節を録音したいときは、**[PLAY/PAUSE]**ボタンを押して録音をスタートさせます。

4. 演奏が終わったら、^{レック}**[REC]**ボタンを押して、録音を終了します。

録音モードを抜け、ソングを保存するための画面が表示されます。

NOTE

USBフラッシュメモリーに録音したい場合や、USBフラッシュメモリー上のソングに追加録音したい場合は、「USBフラッシュメモリーにMIDI録音する」(57ページ)をご覧ください。

NOTE

リズムは後から追加録音できません。リズムを録音したい場合は、最初に録音してください。

NOTE

リズムのベース音は、いずれかの鍵盤を弾かないと鳴らないため、ベース音を録音したい場合は、必ず鍵盤を弾きながら録音してください。

NOTE

RとLに別々の曲を録音すると、一緒に再生されてしまいます。別々の曲を録音する場合は、改めて新規録音してください。

トラックの割り当て

- リズムを録音するときは、トラックを指定できません。トラック9~11に録音されます。
- 指定したトラックに入るのは、デュアルの第1ボイス、スプリット/デュオの右側のボイスのみです。デュアルの第2ボイスは、指定したトラックに6を足した番号のトラック、スプリットおよびデュオの左側のボイスは、指定したトラックに3を足した番号のトラックに入ります。16を超えた場合は折り返して数えます。

注記

データがあるトラックに録音すると、元のデータは上書きされてしまいますので、ご注意ください。

5. 録音した演奏を保存したい場合は、確認画面で「保存」が選ばれている状態で、[>]ボタンを押します。

保存が終わると「保存が完了しました」のメッセージが表示され、ソング画面に戻ります。新規ソングの場合は自動的に「USERSONGxxx」（xxxは数字）という名前が付けられ、楽器本体の「ユーザー」カテゴリの中に保存されます。



- 録音をやり直したい場合は「やり直し」を選び、[>]ボタンを押します。手順3から再スタートできます。
- 保存したくない場合は「中止」を選び、[>]ボタンを押します。

6. ^{プレイ} [PLAY/PAUSE] ^{ポーズ} ボタンを押して、録音した演奏を聞いてみましょう。

7. 追加録音のためにもう一度録音モードに入ります。

7-1. [REC]ボタンを1秒以上押します。

録音対象のソングがリスト表示されます。

7-2. [V]ボタンを押して、手順5で保存したMIDIソング(一番下に表示)を選び、[>]ボタンを押します。



トラックに録音済みのデータがあるかどうかは、トラック名の右上に表示されるマークで確認できます。

トラックのデータの有無：



：データあり

：データなし

8. 手順2～6の方法で、別の空トラックに演奏を追加で録音していきます。

手順2では録音していないトラックを選び、手順3では録音済みのトラックを聞きながら演奏しましょう。

注記

録音したMIDIソングを保存せずにソングを切り替えたり電源を切ったりすると、録音したデータは失われます。ご注意ください。

ソング名を変更する

録音した曲は自動的に名前が付けられますが、ご自分で名前を付け直すことができます(67ページ)。

NOTE

早送り、早戻し、ソングの先頭に戻す方法は44ページをご覧ください。

注記

データがあるトラックに録音すると、元のデータは上書きされてしまいますので、ご注意ください。

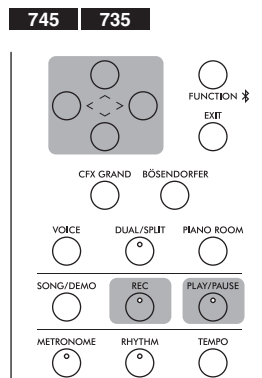
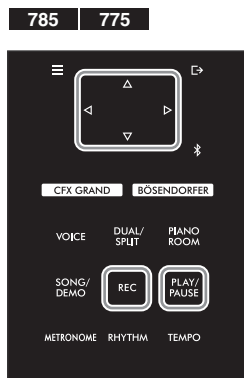
NOTE

ソングを削除する方法は65ページをご覧ください。トラックごとに削除する方法は、89ページの「トラック削除」をご覧ください。

USBフラッシュメモリーにMIDI録音する

MIDI

空のソングファイルに録音してUSBフラッシュメモリーに保存したり、USBフラッシュメモリーにある録音済みのMIDIソングに追加録音する方法です。



NOTE

USBフラッシュメモリーを使う前に、必ず「USB機器を接続する」(71ページ)をお読みください。

NOTE

録音前に、USBフラッシュメモリーの空き容量を確認しておきましょう。
システムメニュー画面：「ユーティリティ」→「USBプロパティ」(96ページ)

1. USBフラッシュメモリーを楽器のUSB [TO DEVICE]端子に接続します。

2. 録音のためのMIDIソングを選び、録音モードに入ります。

- 2-1. 録音済みのソングに追加録音したい場合は、録音済みのMIDIソングをUSBフラッシュメモリーから選びます(42ページの手順1～4)。空のソングに録音したい場合にはこの操作は不要です。
- 2-2. [REC]ボタンを1秒以上押して、録音のためのソングを選ぶリストを表示させます。



- 2-3. 録音のためのソングとして、「新規ソング (USB)」か、手順2-1で選んだMIDIソング(リストの一番下)を[△]/[▽]ボタンで選び、[>]ボタンを押します。

録音モードに入ります。

録音のためのソング	説明
新規ソング	演奏データを、本体内部に新規MIDIソングとして保存する場合に選びます。
新規ソング(USB)*	演奏データを、USBフラッシュメモリーに新規MIDIソングとして保存する場合に選びます。
新規オーディオ(USB)*	演奏データを、USBフラッシュメモリーに新規オーディオソングとして保存する場合に選びます。
xxxxxx (手順2-1で選んだMIDIソング名)**	録音済みのMIDIソングに追加録音/上書き録音する場合に選びます。

* USBフラッシュメモリー接続時のみ選べます。

** 手順2-1でMIDIソングを選んでいない場合や、内蔵曲を選んでいた場合は表示されません。

3. 録音して保存します。

録音済みのソングに追加録音したい場合/空のソングにトラック指定をして録音したい場合：

このあとの手順は、「トラックを指定してMIDI録音する」(55ページ)の手順2～8とまったく同様です。

空のソングに簡単録音したい場合：

このあとの手順は、「簡単にMIDI録音する」(53ページ)の手順3～6とまったく同様です。

USBフラッシュメモリーにオーディオ録音する

オーディオ

ここではオーディオ録音の方法を説明します。オーディオファイルはUSBフラッシュメモリーにしか保存できませんので、録音を始める前にUSBフラッシュメモリーを準備してください。

1. USBフラッシュメモリーを楽器のUSB ^{トゥー デバイス} [TO DEVICE]端子に接続します。
2. ^{レック} [REC]ボタンを1秒以上押して、録音のためのソングを選ぶリストを表示させます。
3. [^]/[V]ボタンで「新規オーディオ(USB)」を選び、[>]ボタンを押します。
4. このあとの手順は、「簡単にMIDI録音する」(53ページ)の手順3～6とまったく同様です。

録音画面には、録音の経過時間が表示されます。



注記

既存のMIDIソングを選んで、データがあるトラックに録音すると、元のデータは上書きされてしまいますので、ご注意ください。

NOTE

既存のMIDIソングに上書き/追加録音の場合は、選んだソングの拍子とテンポに自動で設定されます。

NOTE

USBフラッシュメモリーを使う前に、必ず「USB機器を接続する」(71ページ)をお読みください。

NOTE

録音前に、USBフラッシュメモリーの空き容量を確認しておきましょう。
システムメニュー画面：「ユーティリティ」→「USBプロパティ」(96ページ)

NOTE

オーディオ形式での録音の場合、ボイスパートの音量(85ページ)が初期設定よりも大きいと、音がひずむことがあります。ボイスパートの音量を変更してある場合は、録音をスタートする前に初期設定の値以下にしてください。

NOTE

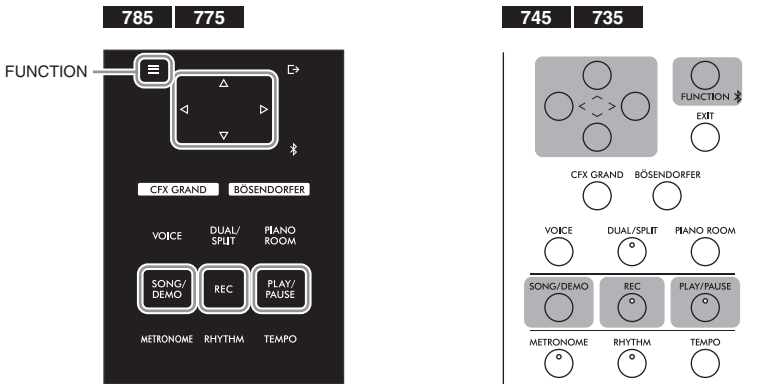
オーディオ録音の場合、[AUX IN]端子など外部からの入力音も録音されます。

その他の録音方法とテクニック

部分的に録音し直す

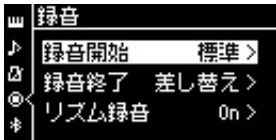
MIDI

MIDIソングは部分的に録音し直すことができます。ご自分で録音したMIDIソングの編集などにお使いください。



1. 録音開始/終了方法を選びます。

- 1-1. 録音メニュー画面が表示されるまで、[FUNCTION]ボタンを何度か押します。



- 1-2. [△]/[▽]ボタンを押して、「録音開始」を選び、[>]ボタンで実際に書き録音が始まるタイミングを選びます。

標準	録音開始以降のデータを消します。
押鍵	録音開始しても最初に鍵盤を弾くまでのデータは消しません。

- 1-3. [△]/[▽]ボタンで「録音終了」を選び、[>]ボタンで設定を選びます。

差し替え	録音終了以降にあった元のデータを消します。
パンチアウト	録音終了以降にある元のデータは消しません。

2. [SONG/DEMO]ボタンを押して、ソングカテゴリーリストを表示させます。

3. 録音し直すMIDIソングを選びます。

選びかたは、42ページを参照してください。

4. 録音開始をしたい場所を指定します。

[<]/[>]ボタンを押して再生位置を移動するか、[PLAY/PAUSE]ボタンを押して演奏を再生して、録音し直したい場所の手前でもう一度[PLAY/PAUSE]ボタンを押します。

必要に応じて、変更したい内容(ボイスやその他の設定)を選び直します。

先に録音したときと設定を変えたい場合に行なってください。

5. ^{レック}[REC]ボタンを1秒以上押したあと、手順3で選んだソングを選び、[>]ボタンを押します。

NOTE

部分的に録音し直す場合、拍子は変更できません。

6. [<]/[>]ボタンで書き換えをしたいトラックを選びます。

7. 演奏を始める、または^{プレイ}[PLAY/PAUSE]ボタンを押して、録音を開始します。^{ポーズ}

8. [REC]ボタンを押して、録音を終了します。

9. 56ページの手順5に従って、録音した演奏を上書き保存します。

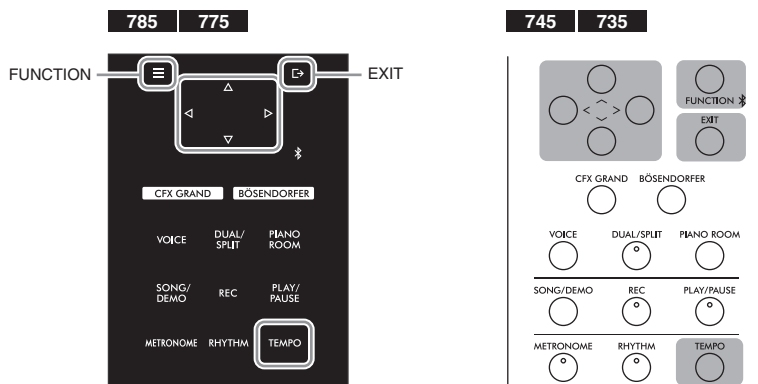
10. [PLAY/PAUSE]ボタンを押して、録音した演奏を再生します。

録音後にボイスやテンポなどを変更する

MIDI

MIDIソングは、録音を終えたあとでも、演奏データの設定を変更できます。たとえば、録音したあとでボイスを変更して違った雰囲気曲にしたり、適切なテンポに調節したりできます。曲の途中からの変更もできます。

テンポの変更



1. 変更するソングを選びます。

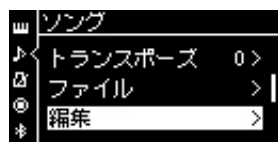
選びかたは、42ページを参照してください。

2. [TEMPO]ボタンを押してテンポ画面を表示させ、テンポを設定します。

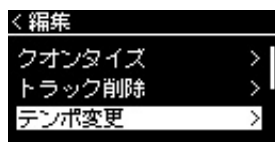
設定方法は38ページをご覧ください。

3. [FUNCTION]ボタンを何度か押してソングメニュー画面を表示させてから、以下の画面イラストで反転表示された項目を順番に選んでいきます。

ソングメニュー画面



編集画面



テンポ変更画面



3-1. [↑]/[↓]ボタンで「編集」を選択

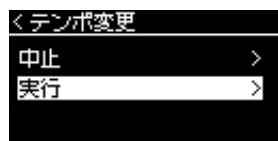
3-2. [→]ボタンで次へ

3-3. [↑]/[↓]ボタンで「テンポ変更」を選択

3-4. [→]ボタンで次へ

4. 選んだテンポで上書きします。

[↓]ボタンを押して画面の「実行」を反転表示させ、[→]ボタンを押します。



変更が完了すると、「操作を完了しました」と表示され、数秒後にテンポ変更画面に戻ります。

5. ^{エグジット} [EXIT] ボタンを押してソングメニュー画面から抜けます。

ボイスの変更

1. 変更するソングを選びます。

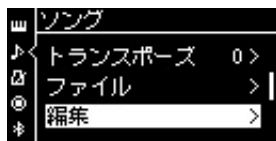
選びかたは、42ページを参照してください。

2. 変更したいボイスを選びます。

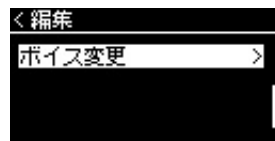
選びかたは、28ページを参照してください。

3. ^{ファンクション} [FUNCTION] ボタンを何度か押してソングメニュー画面を表示させてから、以下の画面イラストで反転表示された項目を順番に選んでいきます。

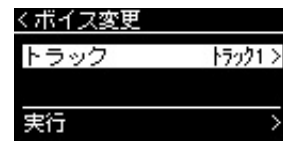
ソングメニュー画面



編集画面



ボイス変更画面



3-1. [△]/[▽]ボタンで「編集」を選択

3-2. [>]ボタンで次へ

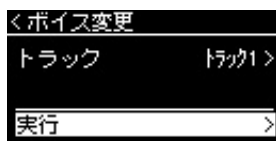
3-3. [△]/[▽]ボタンで「ボイス変更」を選択

3-4. [>]ボタンで次へ

4. [>] ボタンを押すと設定画面が表示されますので、[△]/[▽] ボタンでボイスを変更したいトラックを選びます。

5. 手順2で選んだボイスで上書きします。

[<] ボタンを押して1つ前の画面に戻ります。[▽] ボタンを押して画面の「実行」を反転表示させ、[>] ボタンを押します。



変更が完了すると、「操作を完了しました」と表示され、数秒後にボイス変更画面に戻ります。

6. ^{エグジット} [EXIT] ボタンを押してソングメニュー画面から抜けます。

ソングファイル进行操作する

ソングメニュー画面(88ページ)の「ファイル」項目を選ぶと、市販のミュージックデータ、ご自分で録音したソングなどの既存のソングファイルに関する操作ができます。

USBフラッシュメモリーをご使用になる場合は、事前に「USB機器を接続する(USB [TO DEVICE]端子)」(71ページ)をお読みください。

操作	表示	ページ
ソングを削除する	削除	64、65ページ
ソングをコピーする	* コピー	64、66ページ
ソングを移動する	* 移動	64、66ページ
MIDIソングを再生しながらオーディオソングに変換する	* オーディオ変換	64、67ページ
ソング名を変更する	名前の変更	64、67ページ

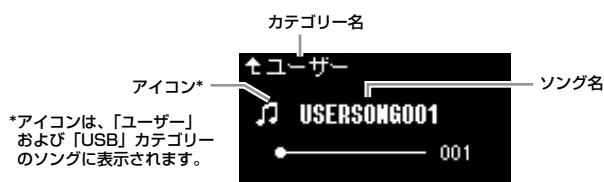
* が付いている項目は、MIDIソングが選ばれているときにのみ有効です。

ファイルとは

あるデータのまとまりを1つの単位として保存したものです。ソングデータをソング名単位でソングファイルと言います。

ソングの種類とファイル操作の制限

ソング画面には、ソングの種類を示すカテゴリ名やアイコンが表示されます。ソングの種類によって、ファイル操作に下記のとおり制限があります。

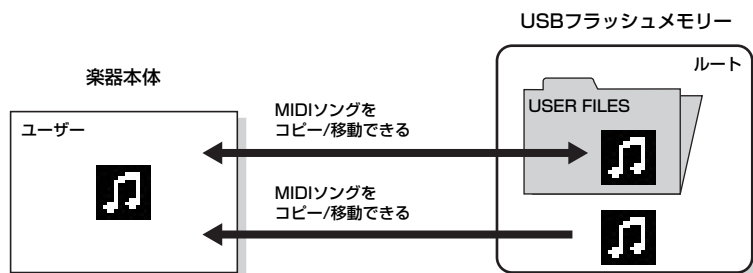


保存場所	カテゴリ	ソングの種類	ソングを削除する	ソング名を変更する	ソングをコピーする	ソングを移動する	MIDIソングを再生しながらオーディオソングに変換する
本体	デモ	本体のボイスデモ	×	×	×	×	×
	クラシック50選	本体のピアノ50曲	×	×	×	×	×
	レッスン	本体の練習曲	×	×	×	×	×
	ユーザー	録音曲(MIDI)	○	○	○	○	○
USBフラッシュメモリー	USB	MIDIソング	○	○	○	○	○
		Audioソング	○	○	×	×	×

コピー / 移動できる範囲

楽器本体の「ユーザー」にあるMIDIソングは、USBフラッシュメモリーの「USER FILES」フォルダーへのみコピー / 移動できます。この場合「USER FILES」フォルダーの指定は自動的に行なわれますので、ご自分で指定する必要はありません。

USBフラッシュメモリー内のMIDIソングは、楽器本体の「ユーザー」へコピー / 移動できます。



USER FILESフォルダー

USBフラッシュメモリーをこの楽器で初期化したり、この楽器の演奏をUSBフラッシュメモリーに録音した場合、USBフラッシュメモリーの中に自動的に「USER FILES」という名前のフォルダーが作られ、その中にデータが保存されます。

NOTE

市販のミュージックデータは著作権で保護されていますので、コピー機能は個人で楽しむ範囲でご利用ください。

NOTE

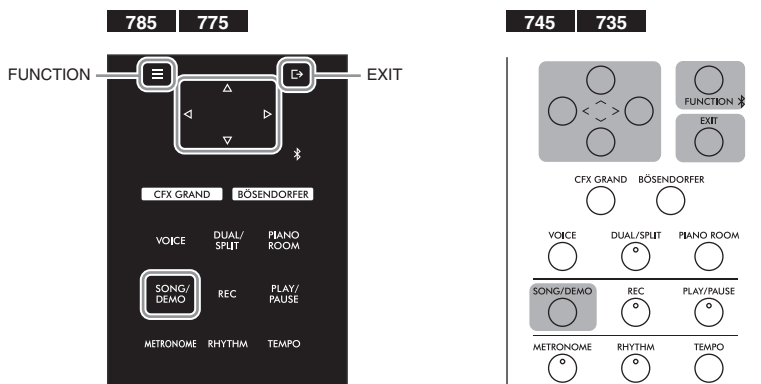
フォルダーはコピーできません。

ルートとは

階層構造のいちばん上の部分を表わします。フォルダーに入っていない領域のことです。

ソングファイルの基本操作

ソングファイルの操作は以下の手順で行ないます。



1. 必要に応じて、USBフラッシュメモリーをUSB ^{トウー デバイス} [TO DEVICE] 端子に接続してください。

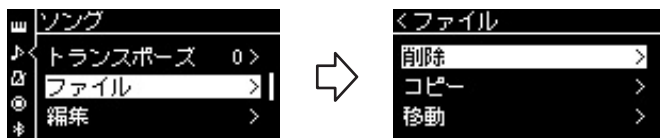
2. ファイル操作の対象となるソングを選びます。

ソングの選びかたは、「ソングを再生する」(42ページ)をご覧ください。

3. ファイル操作モードに入ります。

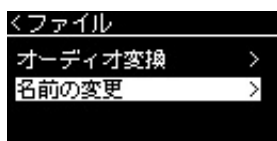
- 3-1. ^{ファンクション} [FUNCTION] ボタンを何度か押してソングメニュー画面を表示させてから、[Λ]/[V]ボタンで「ファイル」を選んで、[>]ボタンを押します。

ソングメニュー画面



- 3-2. [Λ]/[V]ボタンで設定したい項目を「削除」、「コピー」、「移動」、「オーディオ変換」、「名前の変更」のいずれかから選びます。

例 ソング名を変更する場合



これ以降、操作を中止してファイル操作モードから抜けるには[EXIT]ボタンを押します。

4. 操作を実行します。

ここでの操作は、該当する項目の手順を参照してください。

- 削除 65ページ
- コピー 66ページ
- 移動 66ページ
- オーディオ変換 67ページ
- 名前の変更 67ページ

操作中、画面にメッセージ(情報や確認など)が表示されることがあります。その意味や対処の方法については、108ページの「メッセージ一覧」をご覧ください。

5. ^{エグジット}[EXIT]ボタンを押して、ファイル操作モードを抜けます。

注記

ファイル操作中やUSBフラッシュメモリーのマウント中は、USBフラッシュメモリーを外さないでください。USBフラッシュメモリーや楽器本体のデータが壊れたりするおそれがあります。

ソングを削除する

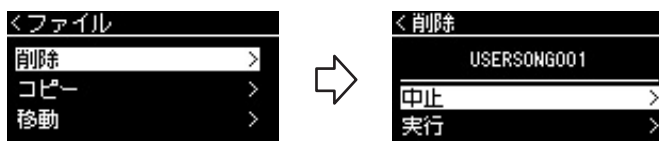
削除できるソングの種類は、63ページを確認してください。

基本操作は、64ページをご覧ください。手順4は、下記に従って操作します。

NOTE

複数のソングをまとめて削除することはできません。

4-1. 「削除」が選ばれた状態で[>]ボタンを押すと、設定画面が表示されます。



4-2. [V]ボタンを押して「実行」を反転表示させ、[>]ボタンを押して実行します。

ソング削除後、ソングのリスト画面が表示されます。

注記

「操作を実行しています」の表示中は、電源を切ったり、USBフラッシュメモリーを外さないでください。

ソングをコピーする

コピーできるソングの種類と範囲は、63ページを確認してください。

基本操作は、64ページをご覧ください。手順4は、下記に従って操作します。

4-1. 「コピー」が選ばれた状態で[>]ボタンを押すと、設定画面が表示されます。



4-2. [V]ボタンを押して「実行」を反転表示させ、[>]ボタンを押して実行します。

ソングがコピーされ、ソングのリスト画面が表示されます。コピー先のファイル名は、コピー元のファイル名と同じになります。

コピー先：

コピー先がUSBフラッシュメモリーの場合は「USBにコピーします」、楽器本体の場合は「ユーザーにコピーします」と表示されます。コピー先がUSBフラッシュメモリーの場合、ファイルはUSBフラッシュメモリー内の「USER FILES」フォルダーへコピーされます。

NOTE

コピー先にすでに同じ名前のファイルがある場合は、メッセージが表示されます。上書きする場合は「上書き」、キャンセルする場合は「中止」を[△]/[▽]ボタンで選び、[>]ボタンを押します。

注記

上書きした場合、コピー先のファイルのデータはすべて消去され、コピー元のファイルのデータで上書きされますのでご注意ください。

注記

「操作を実行しています」の表示中は、電源を切ったり、USBフラッシュメモリーを外さないでください。

ソングを移動する

移動できるソングの種類と範囲は、63ページを確認してください。

基本操作は、64ページをご覧ください。手順4は、下記に従って操作します。

4-1. 「移動」が選ばれた状態で[>]ボタンを押すと、設定画面が表示されます。



4-2. [V]ボタンを押して「実行」を反転表示させ、[>]ボタンを押して実行します。

ソングが移動され、ソングのリスト画面が表示されます。

移動先

移動先がUSBフラッシュメモリーの場合は「USBに移動します」、楽器本体の場合は「ユーザーに移動します」と表示されます。移動先がUSBフラッシュメモリーの場合、ファイルはUSBフラッシュメモリー内の「USER FILES」フォルダーへ移動されます。

NOTE

移動先にすでに同じ名前のファイルがある場合は、メッセージが表示されます。上書きする場合は「上書き」、キャンセルする場合は「中止」を[△]/[▽]ボタンで選び、[>]ボタンを押します。

注記

上書きした場合、移動先のファイルのデータはすべて消去され、移動元のファイルのデータで上書きされますのでご注意ください。

注記

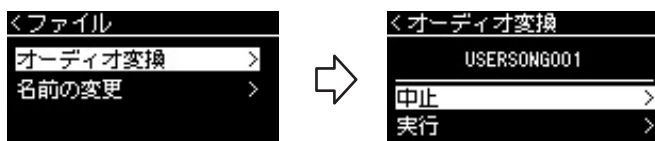
「操作を実行しています」の表示中は、電源を切ったり、USBフラッシュメモリーを外さないでください。

MIDIソングを再生しながらオーディオソングに変換する

楽器本体の「ユーザー」や、USBフラッシュメモリーの「USER FILES」フォルダー内のMIDIソングを、オーディオソングに変換してUSBフラッシュメモリーの「USER FILES」フォルダー内に保存できます。変換できるソングの種類は、63ページを確認してください。

基本操作は、64ページをご覧ください。手順4は、下記に従って操作します。

4-1. 「オーディオ変換」が選ばれた状態で[>]ボタンを押すと、設定画面が表示されます。



4-2. [V]ボタンを押して「実行」を反転表示させ、[>]ボタンを押して実行します。

オーディオ変換がスタートし、ソングが再生されます。オーディオ変換中は、オーディオ形式での録音中と同じ状態のため、鍵盤を弾いたり、[AUX IN]端子などから入力された外部の音声も、一緒に録音されます。変換が終わると「オーディオ変換しました」と表示され、数秒後に、ソングのリスト画面に戻ります。

NOTE

変換しても、MIDIソングは元の保存場所にそのまま残ります。

NOTE

Bluetoothから入力されたオーディオデータ(75ページ)も、オーディオソングとして一緒に録音できます。

注記

変換中は、電源を切ったり、USBフラッシュメモリーを外したりしないでください。変換中のデータが失われます。

NOTE

保存先と同じ名前のファイルがある場合は、上書き確認画面が表示されます。変換を続けるには[△]/[V]ボタンで「上書き」を選び、[>]ボタンを押します。

NOTE

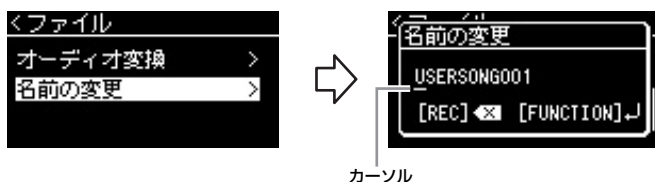
実行中に[EXIT]ボタンを押すと、変換を中止します。中止した場合、変換内容は保存されません。

ソング名を変更する

名前を変更できるソングの種類は、63ページを確認してください。

基本操作は、64ページをご覧ください。手順4は、下記に従って操作します。

4-1. 「名前の変更」が選ばれた状態で[>]ボタンを押すと、設定画面が表示されます。



4-2. ソング名を付けます。

[<]/[>]ボタンでカーソル(下線)を移動します。

[△]/[V]ボタンでカーソルの位置の文字を変更します。[REC]ボタンで文字が削除されます。

最大46文字のソング名を付けられます。画面からはみだした文字は、[<]/[>]ボタンでカーソルを移動し、順次表示させることができます。

4-3. ^{ファンクション}[FUNCTION]ボタンを押して実行します。

ソング名変更後、ソングのリスト画面が表示されます。名前を変更したソングが選ばれています。

NOTE

ソング名に使用できる文字の種類は、システムメニュー画面：「ユーザーティリティ」→「言語設定」(97ページ)でご確認ください。

注記

「操作を実行しています」の表示中は、電源を切ったり、USBフラッシュメモリーを外さないでください。

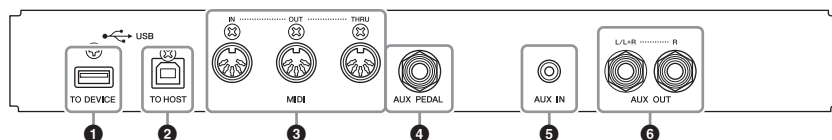
他の機器と接続する

端子について

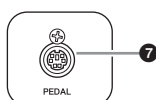
楽器の端子に他の機器を接続できます。端子の位置は「各部の名前と機能」(13ページ)でご確認ください。また内蔵のBluetooth機能(CLP-735を除く)を使ってスマートフォンなどのスマートデバイスを楽器に接続できます(74ページ)。

785 775 745 735

本体下の端子パネル

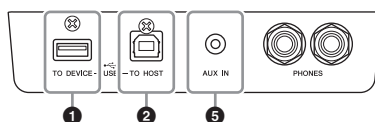


背面から見た本体底面

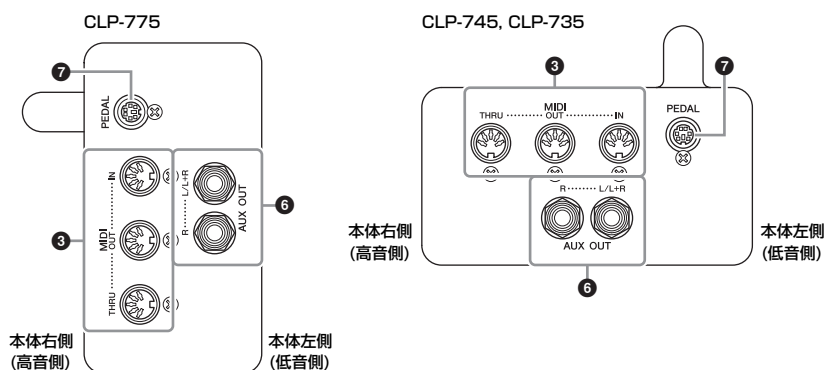


785 775 745 735

本体下の端子パネル



背面から見た本体底面



⚠ 注意

外部機器と接続するときは、すべての機器の電源を切った上で行なってください。また、電源を入れたり切ったりする前に、必ず機器のボリュームを最小(0)にしてください。感電、聴力障害または機器の損傷の原因になります。

NOTE

Bluetooth機能を使う前に、必ず9ページをご覧ください。

① USB [TO DEVICE]端子

USBフラッシュメモリーを接続したり、別売のUSB無線LANアダプター (UD-WL01) を使ってスマートフォンなどのスマートデバイスを接続したりする端子です。詳しくは、71ページの「USB機器を接続する」と、77ページの「スマートデバイスアプリを使う」をご覧ください。USB [TO DEVICE]端子を使う前に、71ページの「USB TO [DEVICE]端子ご使用上の注意」をお読みください。

② USB [TO HOST]端子

コンピュータやスマートフォンなどのスマートデバイスを接続する端子です。詳しくは、73ページの「コンピュータと接続する」または74ページの「スマートデバイスと接続する」をご覧ください。

③ MIDI [IN] [OUT] [THRU]端子

シンセサイザーやシーケンサーなどのMIDI機器を接続する端子です。詳しくは、72ページの「外部MIDI機器と接続する」をご覧ください。

④ [AUX PEDAL]端子 (CLP-785)

[AUX PEDAL]端子に別売のフットスイッチ (FC4A/FC5) やフットコントローラー FC7を接続すると、足を使ってさまざまな機能をコントロールできます。機能のオン/オフを切り替えるときにはフットスイッチを、ボリュームなどの連続した値をコントロールするときにはフットコントローラーをお使いください。機能の設定は、システムメニュー画面の「ペダル」→「Auxペダル」の機能と範囲で行ないます (94ページ)。

⑤ [AUX IN]端子

携帯音楽プレーヤーなどのオーディオ再生機器を接続する端子です。詳しくは下記の「オーディオ再生機器を接続する」をご覧ください。

⑥ AUX OUT [L/L+R] [R]端子 (CLP-785) AUX OUT [R] [L/L+R]端子 (CLP-775, CLP-745, CLP-735)

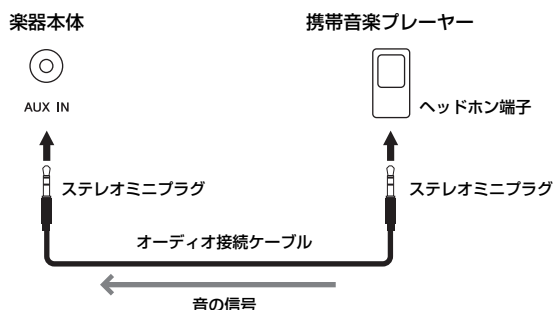
アンプ内蔵スピーカーなどを接続する端子です。詳しくは70ページをご覧ください。

⑦ [PEDAL]端子

ペダルコードを接続する端子です。 (CLP-785: 116ページ、CLP-775: 119ページ、CLP-745: 122ページ、CLP-735: 122ページ)

オーディオ再生機器を接続する ([AUX IN]端子)

オーディオ接続ケーブルを使って、[AUX IN]端子に、スマートフォンや携帯音楽プレーヤーなどのオーディオ再生機器のヘッドホン端子を接続します。接続したオーディオ再生機器で、音楽などを再生すると、この楽器のスピーカーから音が鳴ります。



NOTE

この楽器のUSB端子には、USB [TO HOST]端子とUSB [TO DEVICE]端子の2種類があります。どちらもUSB端子ですが、形状/用途が違いますので、接続するときに間違えないようご注意ください。(端子の形状に合うプラグを上下の向きに注意して差し込んでください。)

NOTE

- フットコントローラー / フットスイッチの抜き差しは、この楽器の電源を切った状態で行なってください。
- フットコントローラー / フットスイッチを踏みながら電源を入れないうでください。踏みながら電源を入れると、オン/オフが逆になります。

注記

クラビノーバのAUX INを使う場合、外部機器の損傷を防ぐため、電源を入れるときは、外部機器 → クラビノーバの順に、電源を切るときは、クラビノーバ → 外部機器の順に行なってください。

NOTE

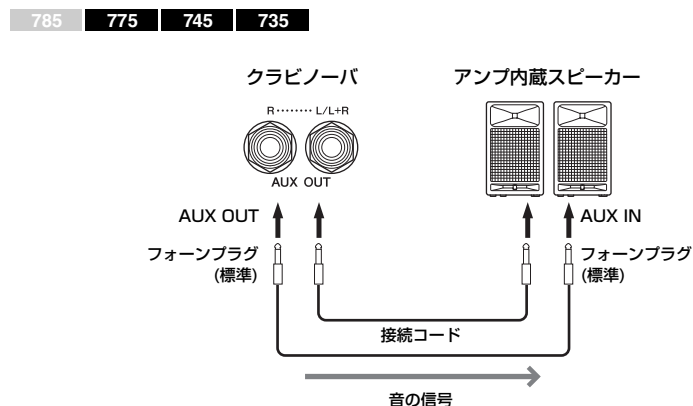
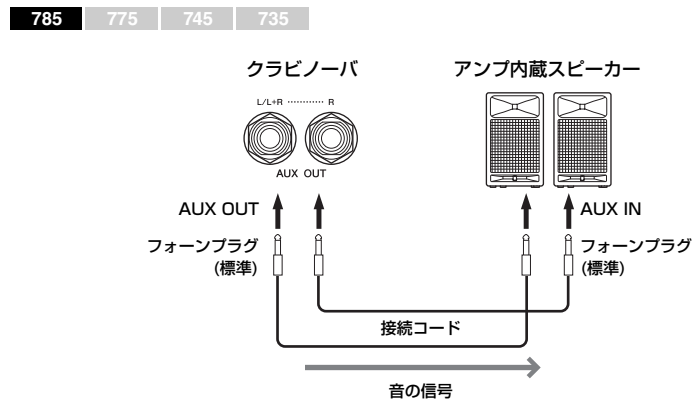
[AUX IN]端子からの入力音は、楽器の[MASTER VOLUME]スライダーで音量調節できます。

NOTE

オーディオ接続ケーブルおよび変換プラグは、抵抗のないものをお使いください。

楽器の音を外部スピーカーから鳴らす(AUX OUT [L/R]/[R]端子)

クラビノーバにアンプ内蔵スピーカーなどを接続して、より大きな音を出します。接続コードを使って図のように接続します。



AUX OUT端子に出力される音量は、楽器の[MASTER VOLUME]スライダーで調節できます。外部スピーカー使用時、本体スピーカーからの音を消したい場合は、「スピーカー」の設定をオフにしてください。設定はシステムメニュー画面：「ユーティリティ」→「スピーカー」(96ページ)で行ないます。

NOTE

モノ出力の場合(スピーカーを1台だけ使う場合)には、[L/L+R]端子をご使用ください。

注記

- クラビノーバのAUX OUT端子を使う場合、外部機器の損傷を防ぐため、電源を入れるときは、クラビノーバ → 外部機器(アンプ内蔵スピーカーなど)の順に、電源を切るときは、外部機器 → クラビノーバの順に行なってください。オートパワーオフ機能(16、96ページ)により、自動的に電源が切れることがあります。外部機器を接続した状態で、一定時間本体を操作しない場合は、この手順に従って手動で電源を切るか、オートパワーオフを解除してください。
- AUX OUT端子から出力した音を、[AUX IN]端子に戻さないでください(AUX OUT端子と外部オーディオ機器を接続した場合は、その機器の音声出力をこの楽器の[AUX IN]端子に接続しないでください)。この楽器の[AUX IN]端子から入力された音はそのままAUX OUT端子から出力されますので、オーディオ系の発振が起こり、正常な再生がなされないばかりでなく、両機器の故障の原因になります。

NOTE

オーディオ接続ケーブルおよび変換プラグは、抵抗のないものをお使いください。

NOTE

ヘッドホンを接続してAUX OUT端子の出力音をモニターする場合は、バイノーラルサンプリング/ステレオフォニックオブティマイザーをオフにすることをおすすめします。詳しくは20ページをご覧ください。

USB機器を接続する(USB [TO DEVICE]端子)

USB [TO DEVICE]端子には、USBフラッシュメモリーや別売のUSB無線LANアダプター (UD-WL01)を接続します。楽器本体とUSBフラッシュメモリーでデータをやりとりしたり(63、100ページ)、別売のUSB無線LANアダプターを使ってiPadなどと無線通信(78ページ)したりできます。

USB [TO DEVICE]端子で使用上の注意

本機にはUSB [TO DEVICE]端子があります。USB [TO DEVICE]端子にUSB機器を接続する場合は、以下のことをお守りください。

NOTE

USB機器の取り扱いについては、お使いのUSB機器の取扱説明書もご参照ください。

■ 使用できるUSB機器

- USBフラッシュメモリー
- USBハブ
- USB無線LANアダプター (UD-WL01、別売)

上記以外のUSB機器(マウス、コンピューターのキーボードなどは、接続しても使えません。

動作確認済みUSB機器については、下記ウェブサイトの「資料/データ」から確認できます。ご購入の前に確認ください。

サポート・お問い合わせ：

<https://jp.yamaha.com/support/>

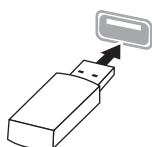
本機では、USB2.0～3.0の機器がご使用できますが、機器への保存や機器からの読み込みにかかる時間は、データの種類や本機の状態により異なりますのでご了承ください。本機ではUSB 1.1は使用できません。

注記

USB [TO DEVICE]端子の定格は、最大5V/500mAです。定格を超えるUSB機器は故障の原因になるため、接続しないでください。

■ USB機器の接続

USB [TO DEVICE]端子の形状に合うプラグを上下の向きに注意して差し込んでください。



注記

- USB機器の抜き差しは、再生や録音中、ファイル操作中(保存/コピー/削除/フォーマットなど)、およびUSB機器へのアクセス中には行なわないでください。楽器本体の機能が停止したり、USB機器やデータが壊れたりするおそれがあります。
- USB機器の抜き差しは、数秒間隔を空けて行なってください。
- USB機器の接続にケーブルは使わないでください。

NOTE

1つのUSB [TO DEVICE]端子に2台以上のUSB機器を同時に接続したい場合は、USBハブを使います。USBハブをパスワードでお使いください。USBハブは1台のみ使用可能です。USBハブの使用中にエラーメッセージが出た場合は、本機からUSBハブを抜き、本機の電源を入れ直した上で、再度USBハブを接続してください。

USBフラッシュメモリーの取り扱いについて

本機にUSBフラッシュメモリーを接続すると、楽器本体で作したデータをUSBフラッシュメモリーに保存したり、USBフラッシュメモリーのデータを楽器本体で再生したりできます。

■ 接続できるUSBフラッシュメモリーの数

同時に使用できるUSBフラッシュメモリーは、1台までです。(USBハブを使用した場合でも、同時に使用できるUSBフラッシュメモリーは1台までです。)

■ USBフラッシュメモリーのフォーマット

USBフラッシュメモリーは本機でフォーマット(96ページ)することをおすすめします。他の機器でフォーマットしたUSBフラッシュメモリーは、本機で正しく動作しない場合があります。

注記

フォーマットを実行すると、そのUSBフラッシュメモリーの中身は消去されます。必要なデータが入っていないのを確認してからフォーマットしてください。

■ 誤消去防止

USBフラッシュメモリーには、誤ってデータを消してしまわないようライトプロテクト機能のついたものがあります。大切なデータが入っている場合は、ライトプロテクトで書き込みができないようにしましょう。逆にデータを保存する場合は、ご使用前にお使いのUSBフラッシュメモリーのライトプロテクトが解除されていることをご確認ください。

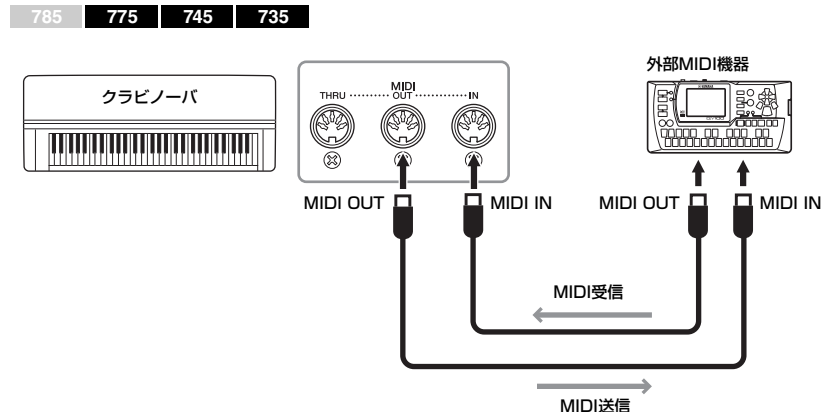
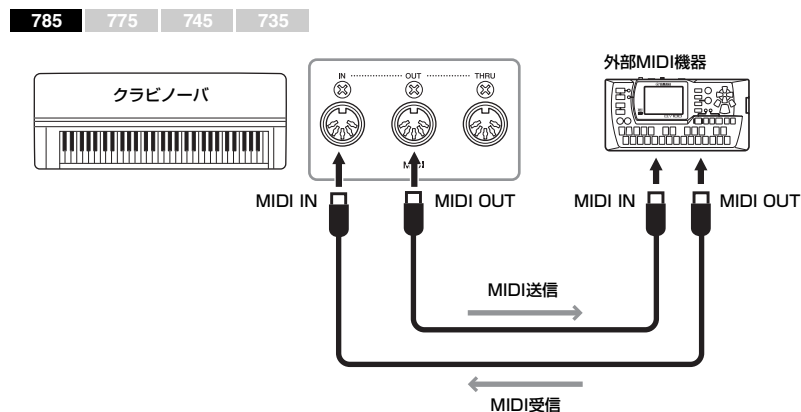
■ USBフラッシュメモリー接続時に電源を切るには

電源を切る場合は、再生/録音やファイル操作(保存/コピー/削除/フォーマットなど)によるUSBフラッシュメモリーへのアクセス中でないことを確認してください。USBフラッシュメモリーやデータが壊れたりするおそれがあります。

外部MIDI機器と接続する(MIDI端子)

MIDIケーブルを使って、クラビノーバと外部MIDI機器(キーボード、シンセサイザー、シーケンサーなど)のMIDI端子を接続すると、この楽器から外部MIDI機器をコントロールしたり、外部MIDI機器からこの楽器をコントロールしたりできます。

- **MIDI [IN]** : MIDIデータを受信する端子です。
- **MIDI [OUT]** : MIDIデータを送信する端子です。
- **MIDI [THRU]** : MIDI INから入ってきたデータをそのまま送信する端子です。複数の機器にMIDIデータを供給する場合などに使います。



注意

外部機器と接続するときは、すべての機器の電源を切った上で行ってください。

NOTE

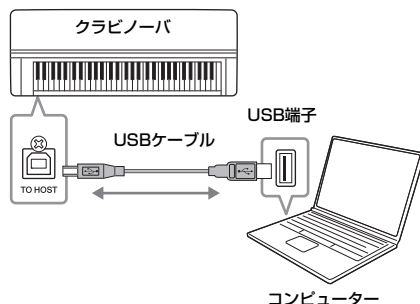
ヤマハウェブサイト(2ページ)で、MIDIについての基礎知識を説明した「MIDI入門」をご覧ください。

NOTE

- MIDI機器の中でも、機種ごとに送受信できるMIDIデータの内容が同じではないため、接続しているMIDI機器間で共通に扱えるMIDIデータだけが送受信できることになります。この楽器で扱えるMIDIデータについては、ウェブサイト(2ページ)上の「MIDIリファレンス」をご覧ください。
- この楽器から他の機器にMIDIデータを送信すると、グランド・エクスプレッション・モデリングに関連するMIDIデータにより、予期せぬ音が生じることがあります。

コンピューターと接続する

USB [TO HOST] 端子にUSBケーブルを使ってコンピューターを接続すると、楽器とコンピューター間でMIDIデータやオーディオデータを送受信できます。接続方法やデータの送受信について詳しくは、ウェブサイト(2ページ)上の「コンピューターとつなぐ」をご覧ください。



注記

- USBケーブルは、ABタイプのものをご使用ください。また、3メートル未満のケーブルをご使用ください。USB 3.0ケーブルは、ご使用できません。
- DAW (Digital Audio Workstation)などの音楽制作アプリケーションと一緒に使用する場合、設定によっては大きな音が発生することがあるため、オーディオループバックをオフにしてご使用ください(下記参照)。

オーディオデータを送受信する(USBオーディオインターフェース機能)

USBケーブルを使って、コンピューターやスマートデバイスをUSB [TO HOST]端子に接続すると、オーディオデータをデジタルで送受信できます。これをUSBオーディオインターフェース機能といい、たとえば次のようなことができます。

• オーディオデータを高音質で再生

[AUX IN]端子での接続と比べて、音質の劣化が少なくクリアな音質で楽しめます。

• 録音ソフトや音楽制作ソフトを使って、楽器の演奏をオーディオデータとして録音

録音したデータは、コンピューターやスマートデバイスで再生できます。

接続方法はウェブサイト(2ページ)上の「コンピューターとつなぐ」または「スマートデバイス接続マニュアル」をご覧ください。

オーディオループバックのオン/オフ

USBオーディオインターフェース機能による楽器へのオーディオ入力音を、楽器での演奏音とともにコンピューターやスマートデバイスに出力する(オーディオループバックする)かどうかを設定できます。出力する場合はオンに、出力しない場合はオフにします。たとえば、コンピューターやスマートデバイスを使って、楽器での演奏音だけでなく楽器へ入力したオーディオ再生音も録音したい場合はオンに、楽器での演奏音だけを録音したい場合はオフにします。

設定について詳しくは「オーディオループバック」(97ページ)をご覧ください。

NOTE

- 楽器をコンピューターとUSBケーブルで接続する場合は、ハブを経由せず直接接続してください。
- 使用するコンピューターやシーケンズソフトウェアでの必要なMIDI設定については、それぞれの取扱説明書をお読みください。
- 楽器本体は、コンピューターとの接続後しばらくしてから通信を開始します。

NOTE

グランド・エクスプレッション・モデリングに関連するMIDIデータを編集をすると予期せぬ音が生じる場合があります。

NOTE

- オーディオデータの送受信をWindows搭載のコンピューターで行なう場合は、Yamaha Steinberg USB Driverをコンピューターにインストールする必要があります。詳しくは、ウェブサイト上の「コンピューターとつなぐ」をご覧ください。
- 楽器へのオーディオデータの入力音の音量は、コンピューターまたはスマートデバイス側で調節してください。

NOTE

- Bluetoothオーディオ機能(75ページ)や無線LAN接続(78ページ)によるオーディオ入力音もオーディオループバックの対象です。また[AUX IN]端子やBluetoothで接続した機器には出力されません。
- オーディオソング(41ページ)の再生音は、この設定がオンのときは、コンピューターやスマートデバイスに出力されますが、オフのときは出力されません。
- オーディオ録音(52ページ)する、この設定がオンのときは、コンピューターやスマートデバイスからのオーディオ入力音も録音されますが、オフのときは録音されません。

スマートデバイスと接続する

スマートフォンやタブレット端末などのスマートデバイスと接続すると、次のようなことができます。スマートデバイスでのオーディオ再生音を楽器のスピーカーから聞いたり、スマートデバイスアプリを使って、楽器をもっと便利に楽しんだりできます。接続方法は目的によって異なります。

- **スマートデバイスアプリを使う**

Bluetooth (CLP-735を除く)または、その他の方法で接続します。詳しくは77ページをご覧ください。

- **スマートデバイスでのオーディオ再生音を楽器のスピーカーから聞く (Bluetoothオーディオ機能) (CLP-735を除く)**

Bluetoothで接続します。詳しくは75ページをご覧ください。

- **オーディオデータを送受信する (USBオーディオインターフェース機能)**

USB [TO HOST]端子に、USBケーブルを使って接続します。詳しくは、73ページをご覧ください。

注記

- USBケーブルは、ABタイプのものでご使用ください。また、3メートル未満のケーブルをご使用ください。USB 3.0ケーブルは、ご使用できません。
- スマートデバイスを不安定な場所に置かないでください。落下して破損するおそれがあります。
- 音楽制作用アプリと一緒に使用する場合、設定によっては大きな音が発生することがあるため、オーディオループバックをオフにしてご使用ください(73ページ)。

NOTE

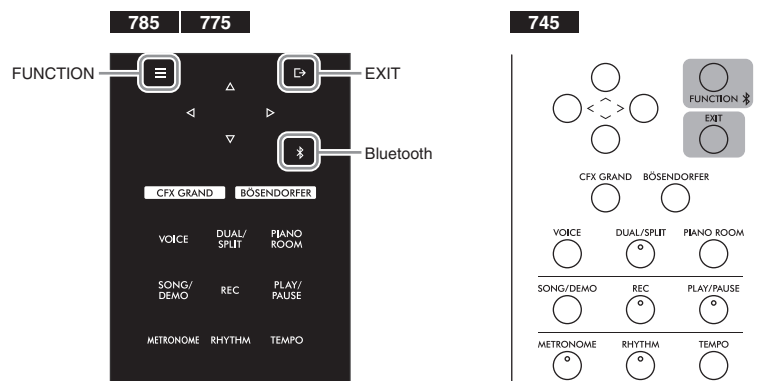
- USB [TO DEVICE]端子を使って接続する場合は、あらかじめ「USB [TO DEVICE]端子ご使用上の注意」(71ページ)をお読みください。
- スマートデバイスを楽器の近くで使用する場合は、通信によるノイズを避けるため、機内モードをオンにしてからWi-FiまたはBluetoothをオンしてお使いいただくことをおすすめします。
- 楽器は接続後しばらくしてから通信を開始します。
- 楽器とスマートデバイスをUSBケーブルで接続する場合は、ハブを経由せず直接接続してください。

スマートデバイスでのオーディオ再生音を楽器のスピーカーから聞く (Bluetoothオーディオ機能)

785 775 745 735

Bluetoothで接続する前に、必ず9ページをお読みください。

スマートフォンなどのスマートデバイスや携帯音楽プレーヤーなどのBluetooth対応機器と接続すると、その機器で再生するオーディオデータをこの楽器のスピーカーから鳴らせます。



NOTE

- ここでは、Bluetoothでオーディオデータを送信できる機器のことをBluetooth対応機器とし、その一例としてスマートデバイスを使って説明します。Bluetooth対応機器は、A2DP (Advanced Audio Distribution Profile)に対応している必要があります。
- Bluetoothで接続してMIDIデータを送受信したい場合は77ページをご覧ください。
- Bluetoothヘッドホンやスピーカーは、ペアリングできません。
- この楽器のBluetooth機能がオフのときは、接続できません。あらかじめオンに設定してください (76ページ)。

ペアリング

Bluetooth対応機器をこの楽器に登録し、無線通信できるように設定することをペアリングといいます。

NOTE

- この楽器は、最大8台のスマートデバイスとペアリング(登録)できますが、同時に接続できるのは1台のみです。9台目のスマートデバイスとのペアリングが成功すると、接続した日時がもっとも古いスマートデバイスの情報が削除されます。
- スマートデバイス側の設定は、5分以内に行なってください。
- バスキーの入力を要求された場合は、数字で「0000」を入力してください。

1. (CLP-785/775)[](Bluetooth)ボタンを3秒押し続けます。

(CLP-745)^{ファンクション}[FUNCTION]ボタンを3秒押し続けます。

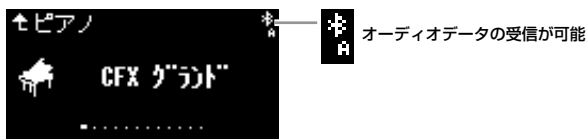
画面がペアリングの待機状態になります。



ペアリングを中止するには[EXIT]ボタンを押します。

2. スマートデバイスのBluetooth機能をオンにして、接続リストから「CLP-*** (モデル名) AUDIO」を選びます。

詳しい操作方法是スマートデバイスの取扱説明書をご覧ください。ペアリングが完了すると、画面に接続状況が表示されます。



3. スマートデバイスでオーディオデータを再生し、楽器から音が出ることを確認します。

1度ペアリングしたスマートデバイスは、再度ペアリングの必要はありません。次に楽器の電源を入れたとき、楽器とスマートデバイスのBluetooth機能がオンであれば、前回最後に接続したスマートデバイスと自動で接続します。自動で接続できない場合は、スマートデバイスの接続リストから再度モデル名を選択してください。

NOTE

スマートデバイスの入力音は、楽器の[MASTER VOLUME]スライダーで音量調節できますが、鍵盤演奏とバランスを調整したい場合、スマートデバイスの入力音の音量は、スマートデバイス側で調節してください。

Bluetooth機能のオン/オフを切り換える

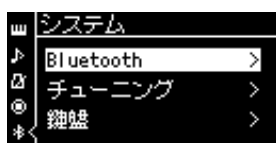
785 | 775 | 745 | 735

Bluetooth機能を使う前に、必ず9ページをお読みください。

初期設定ではBluetooth機能がオンに設定されていますが、接続を解除したいときや、もう一度接続しなおしたいときなど、楽器のBluetooth機能のオン/オフを設定できます。

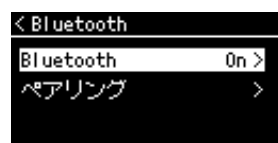
1. ^{ファンクション} [FUNCTION] ボタンを何度か押してシステムメニュー画面を表示させてから、以下の画面イラストで反転表示された項目を順番に選んでいきます。

システムメニュー画面



- 1-1. 「Bluetooth」が選ばれていることを確認
- 1-2. [>]ボタンで次へ

Bluetooth画面



- 1-3. 「Bluetooth」が選ばれていることを確認

2. [>] ボタンを押してオン/オフを切り換えます。

設定が終わったら、[EXIT] ボタンで画面を閉じてください。

スマートデバイスアプリを使う

楽器に対応したスマートデバイスアプリを使うと、楽器をもっと便利に楽しめます。特に「スマートピアニスト」(無料)を使うと、スマートデバイスでボイス選択やメトロノームなどを直感的に操作したり、内蔵曲の譜面を表示したりできます。「スマートピアニスト」などの楽器に対応のアプリや、対応のスマートデバイスに関する情報は、以下のウェブサイトにある各アプリのページでご確認ください。

<https://jp.yamaha.com/kbdapps/>

楽器とスマートデバイスはBluetoothまたはその他の方法で接続します。

Bluetoothで接続する

785 775 745 735

Bluetoothで接続する前に、必ず9ページをお読みください。

使用するアプリの設定画面で接続します。「スマートピアニスト」では接続ウィザード(下記)のガイドに沿って接続します。Bluetoothの接続先として「CLP-XXX(モデル名) MIDI」を選んでください。接続後は、MIDIデータの送受信ができます。これに加えてスマートデバイスのオーディオデータを楽器で鳴らしたい場合は、75ページをご覧ください。Bluetoothの接続が完了すると、楽器の画面には接続状態が表示されます。

ボイス画面



MIDIデータ送受信が可能



MIDIデータ送受信とオーディオデータ受信が可能

その他の方法で接続する

接続方法はウェブサイト(2ページ)上の「スマートデバイス接続マニュアル」をご覧ください。別売のUD-WL01を使って接続する場合は、「スマートデバイス接続マニュアル」に沿って操作を進めると、楽器側での設定も必要となります。詳しくは78ページをご覧ください。「スマートピアニスト」を使う場合は「スマートピアニスト」の接続ウィザード(下記)を使って接続できます。

「スマートピアニスト」接続ウィザード

「スマートピアニスト」をお使いのスマートデバイスにダウンロードした後、「スマートピアニスト」画面左上の「☰」をタップしてメニューを開き、「楽器」→「接続ウィザードを開始する」を順にタップします。

注記

楽器とスマートデバイスを接続した状態で「スマートピアニスト」を起動すると、楽器の設定が、「スマートピアニスト」での設定に自動的に変更されます。楽器での設定を失いたくない場合は、バックアップデータとしてUSBフラッシュメモリーに保存しておいてください(100ページ)。

NOTE

「スマートピアニスト」の使用中は、楽器の[EXIT]ボタン以外のボタンは使えません。「スマートピアニスト」を使って操作してください。楽器の[EXIT]ボタンを押すと、「スマートピアニスト」との接続が解除され、楽器で操作できるようになります。

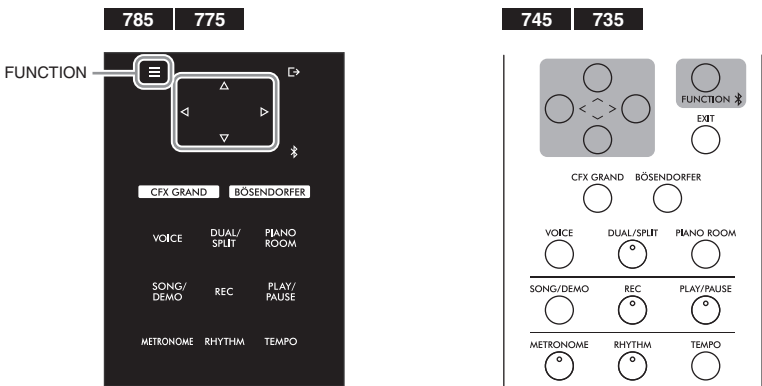
NOTE

この楽器のBluetooth機能がオフのときは、接続できません。(初期設定: オン)設定方法は76ページをご覧ください。

USB無線LANアダプター UD-WL01 (別売)を使った接続

別売のUSB無線LANアダプター UD-WL01を楽器のUSB TO DEVICE端子に接続し、スマートデバイスと接続して対応のアプリを使えます。接続方法については、ウェブサイト(2ページ)上の「スマートデバイス接続マニュアル」をご覧ください。
「スマートデバイス接続マニュアル」に沿って操作を進めると、楽器側での設定が必要になります。以下のいずれかの設定を行ってください。

- ・ ネットワーク一覧から選んで接続する 下記参照
- ・ WPSによる接続 79ページ
- ・ 手動接続 80ページ
- ・ アクセスポイントモードによる接続 81ページ

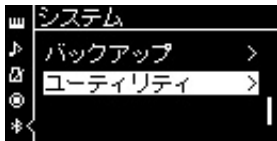


■ ネットワーク一覧から選んで接続する

必ず別売のUSB無線LANアダプターを本体のUSB [TO DEVICE]端子に接続しておいてください。接続していないと操作に必要な画面が表示されません。

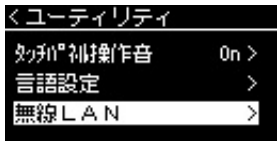
1. **ファンクション** [FUNCTION]ボタンを何度か押してシステムメニュー画面を表示させてから、以下の画面イラストで反転表示された項目を順番に選んでいきます。

システムメニュー画面



- 1-1. [∧]/[∨]ボタンで「ユーティリティ」を選択
1-2. [➤]ボタンで次へ

ユーティリティ画面



- 1-3. [∧]/[∨]ボタンで「無線LAN」を選択
1-4. [➤]ボタンで次へ

無線LAN画面



- 1-5. [∧]/[∨]ボタンで「ネットワーク選択」を選択

注記

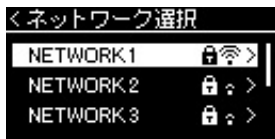
本製品をインターネットに接続する場合は、セキュリティを保つため必ずルーターなどを経由し接続してください。経由するルーターなどには適切なパスワードを設定してください。電気通信事業者(移动通信会社、固定通信会社、インターネットプロバイダーなど)の通信回線(公衆回線LANを含む)には直接接続しないでください。

NOTE

無線LAN画面での表示項目が異なる場合は、楽器がアクセスポイントモードになっています。81ページの手順1で、「インフラストラクチャーモード」に設定してください。

2. [>]ボタンを押して、楽器近くにあるネットワーク一覧を画面に表示させます。

セキュリティが設定されているネットワークには鍵アイコン(🔒)が表示されます。



NOTE

楽器に電波が届いていない場合やSSIDを非公開にしているネットワークは、一覧に表示されません。

3. 楽器本体をネットワークに接続します。

3-1. お使いになるネットワークを選択し、[>]ボタンを押します。

選んだネットワーク名全体が表示されますので、目的のネットワークであることを確認します。

3-2. [>]ボタンを押します。

- 鍵アイコンが付いていないネットワークの場合：

接続が開始されます。

- 鍵アイコンが付いているネットワークの場合：

パスワード入力画面が表示されますので、パスワードを入力してください。入力方法は、「ソング名を変更する」(67ページ)のソング名の付け方と同じです。入力が終わったら[FUNCTION]ボタンを押して確定します。すると接続が自動的に開始されます。

接続に成功すると、画面に「操作を完了しました」と表示され、数秒後に「ネットワーク選択」画面に戻ります。

4. スマートデバイスをネットワークに接続します。

スマートデバイスでの設定方法は、ウェブサイト(2ページ)上の「スマートデバイス接続マニュアル」をご覧ください。

■ WPSによる接続

お使いのアクセスポイントがWPSに対応している場合は、パスワードなどの設定をすることなく、簡単に楽器をアクセスポイントに接続できます。

必ず別売のUSB無線LANアダプターを本体のUSB [TO DEVICE]端子に接続しておいてください。接続していないと操作に必要な画面が表示されません。

WPSによる接続を開始するには、USB無線LANアダプター (UD-WL01)のWPSボタンを3秒以上押します。楽器の画面に「アクセスポイントのWPSボタンを押してください」と表示されたら、2分以内にお使いのアクセスポイント側のWPSボタンを押します。WPSによる接続が完了すると、楽器の画面に「操作を完了しました」と表示され、数秒後にボイス画面が表示されます。

そのあと、スマートデバイスをネットワークに接続します。スマートデバイスでの設定方法は、ウェブサイト(2ページ)上の「スマートデバイス接続マニュアル」をご覧ください。

NOTE

楽器が以下の状態のとき、WPSボタンによる接続はできません。

- デモモード中、ソング再生/一時停止/録音中。
- システムメニュー画面の「無線LANオプション」の「無線LANモード」がアクセスポイントモードに設定されている。

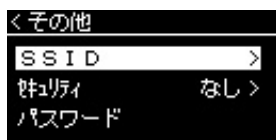
■ 手動接続

必ず別売のUSB無線LANアダプターを本体のUSB [TO DEVICE]端子に接続しておいてください。接続していないと操作に必要な画面が表示されません。

1. 「ネットワーク一覧から選んで接続する」(78ページ)の手順1、2を行ない、楽器の画面に「ネットワーク選択」を表示させます。



2. ネットワーク一覧の一番下の「その他」を選んで[>]ボタンを押します。
3. 「SSID」、「セキュリティ」、「パスワード」を順に設定します。



- 3-1. 「SSID」を選んで[>]ボタンを押すと、入力画面が表示されますので、アクセスポイントとしてのSSIDを入力します。
入力方法は、「ソング名を変更する」(67ページ)のソング名の付け方と同じです。入力が終わったら、[FUNCTION]ボタンを押して確定します。自動的に「その他」画面に戻ります。
- 3-2. 「セキュリティ」を選んで[>]ボタンを押すと、セキュリティのリストが表示されますので、[^]/[V]ボタンでセキュリティの種類を選んでから[<]ボタンでその他画面に戻ります。
- 3-3. 「パスワード」はSSIDと同様の方法で設定します。

4. 手順3の画面で、一番下の項目「接続」を選び、[>]ボタンを押すと、自動で接続を開始します。

接続が完了すると、楽器の画面に「操作を完了しました」と表示され、ネットワーク選択画面に戻ります。

5. スマートデバイスをネットワークに接続します。

スマートデバイスでの設定方法は、ウェブサイト(2ページ)上の「スマートデバイス接続マニュアル」をご覧ください。

NOTE

インターネットや他の無線機器と通信はできません。

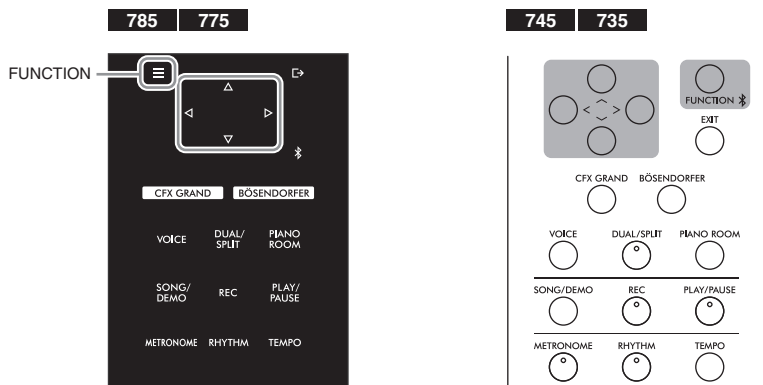
NOTE

別売のUSB無線LANアダプターを本体のUSB [TO DEVICE]端子に接続してください。接続していないと操作に必要な画面が表示されません。

NOTE

セキュリティで「なし」を選ぶと、パスワードの設定はできません。

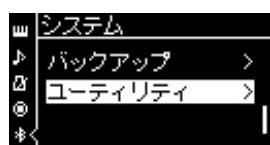
■ アクセスポイントモードによる接続



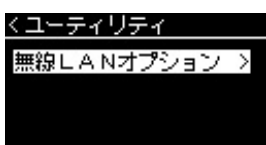
1. 楽器をアクセスポイントモードに切り替えます。

[FUNCTION]ボタンを何度か押してシステムメニュー画面を表示させてから、以下の画面イラストで反転表示された項目を順番に選んでいきます。

システムメニュー画面



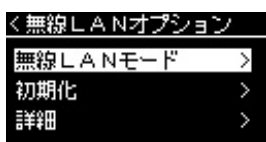
ユーティリティ画面



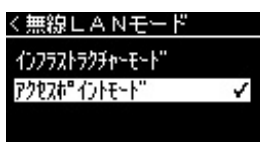
- 1-1. [△]/[▽]ボタンで「ユーティリティ」を選択
- 1-2. [➡]ボタンで次へ

- 1-3. [△]/[▽]ボタンで「無線LANオプション」を選択
- 1-4. [➡]ボタンで次へ

無線LANオプション画面



無線LANモード画面



- 1-5. [△]/[▽]ボタンで「無線LANモード」を選択
- 1-6. [➡]ボタンで次へ

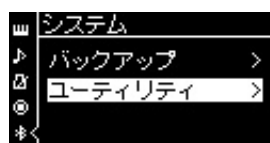
- 1-7. [△]/[▽]ボタンで「アクセスポイントモード」を選択

完了すると、画面に「操作を完了しました」と表示され、数秒後に無線LANモード画面に戻ります。

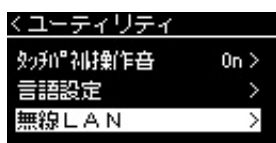
2. 無線LAN項目のSSID、セキュリティ、パスワード、チャンネルを設定します。

- 2-1. システムメニュー画面で、以下の画面イラストで反転表示された項目を順番に選んでいきます。

システムメニュー画面



ユーティリティ画面



無線LAN画面



2-2. SSID、セキュリティ、パスワード、チャンネルを設定します。

それぞれ選んで[>]ボタンを押すと入力画面や選択画面が表示されますので、入力、選択を行ないます。入力方法とセキュリティの選択方法は、手動接続の手順3と同様です。それぞれの項目の設定範囲については、98ページの「無線LAN (アクセスポイントモード時)」をご覧ください。

3. 設定を保存します。

無線LAN画面の一番下の項目「保存」を選び、[>]ボタンを押すと、設定の保存を開始します。保存が完了すると、画面に「操作を完了しました」と表示され、ユーティリティ画面に戻ります。

4. スマートデバイスと楽器(アクセスポイント)を接続します。

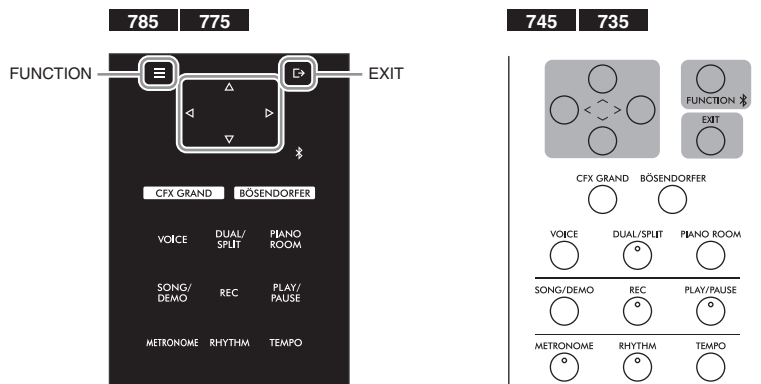
スマートデバイスでの設定方法は、ウェブサイト(2ページ)上の「スマートデバイス接続マニュアル」をご覧ください。

[FUNCTION]ボタンを押すことにより、ボイス、ソング再生、メトロノーム、録音、楽器の全体設定に関する詳細設定画面を呼び出すことができます。

メニュー画面の共通操作

ボイスやソングに関する設定をする場合は、メニュー画面を開く前に、あらかじめ必要な準備をしておきます。

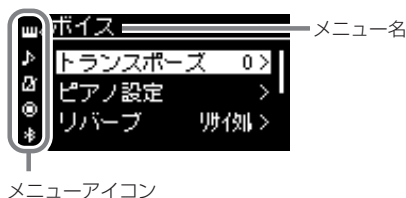
- ボイスに関する設定をしたい場合(ボイスメニューを呼び出す場合)は、あらかじめボイスを選択しておきます。R1/R2/Lボイス同士のバランスなど調整したい場合は、あらかじめデュアル/スプリット/デュオをオンにしておきます。
- 繰り返し再生などソング再生に関する設定をしたい場合は、あらかじめソングを選択しておきます。
- 録音したMIDIソングデータを編集したい場合(ソングメニューの「編集」を呼び出したい場合)、あらかじめユーザーソングを選択しておきます。



1. ^{ファンクション} [FUNCTION]ボタンを何回か押してメニューを選択します。

[FUNCTION]ボタンを繰り返し押すと表示されるメニューが切り替わります。
選んだメニューは画面上部のメニュー名と、左側のアイコンで確認できます。

- ボイスメニュー (84ページ)**
- ソングメニュー (88ページ)**
- メトロノーム/リズムメニュー (91ページ)**
- 録音メニュー (92ページ)**
- システムメニュー (93ページ)**



2. [△]/[▽]/[<]/[>]ボタンを使って項目を選択します。

選んだメニューに応じて内容は異なります。各メニューの一覧表は、縦方向を[△]/[▽]ボタンで、横方向を[<]/[>]ボタンで選択/切り換えできます。

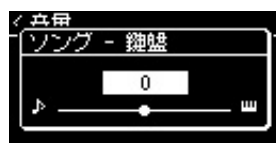
3. 手順2で呼び出した画面上で、[△]/[▽]/[<]/[>]ボタンを使って設定値を選択したり、機能を実行したりします。

ほとんどの画面では設定値を選びますが、ソングメニューの「編集」やシステムメニューの「バックアップ」「USBフォーマット」など一部の項目では処理を実行します。

ポップアップ画面が表示された場合は、設定後[EXIT]ボタンで画面を閉じてください。

また設定値が2つしかない場合は(オンとオフなど)、[>]ボタンを押すたびに、2つの値を切り替えられます。

[>] [△]		[>] [▽]	
[>]	[△]	[>]	[▽]
L/R		R, L, その他	
リピート		A - B*	(設定)
		フレーズ*	フレーマー



4. ^{エグジット} 設定が終わったら、[EXIT]ボタンでメニュー画面から抜けます。

四 ボイスメニュー

ボイスメニューでは、ボイス(音色)をはじめとして鍵盤演奏に関する詳細設定ができます。デュアル/スプリット/デュオがオンの場合は、ボイス(またはボイスの組み合わせ)ごとに個別に設定できます。鍵盤を弾いて音を聞きながら数値を変更することで、お好みのサウンドを設定しましょう。なお、デュアル/スプリット/デュオのボイスを設定するときは、デュアル/スプリット/デュオをオンにしてから、操作を始めてください。

NOTE

* が付いている項目は、デュアル/スプリット/デュオがオンの場合のみ表示されます。

各項目の呼び出し方

[FUNCTION]ボタンを何度か押して「ボイスメニュー」を選択し、[∧]/[V]/[<]/[>]ボタンで項目を選択します。

785775745735

≡

FUNCTION

[>] [<]	[>] [<]	[>] [<]	説明	初期設定	設定範囲
トランス ポーズ	(設定画面)	—	鍵盤演奏音のキーを半音単位で移調(トランスポーズ)します。ここでの設定により、弾く鍵盤を変えずに、ほかの楽器や歌う人の声の高さにキー(調)を合わせられます。たとえば、トランスポーズを「5」に設定すると、「ド」の鍵盤を弾いたときに「ファ」の音が鳴り、「ハ長調」の弾きかたで「ハ長調」の演奏ができます。 NOTE ここでの設定はソング再生音には関係ありません。ソング再生音のキー(調)を変えたいときは、ソングメニュー(88ページ)のトランスポーズで設定してください。 NOTE 鍵盤演奏の情報(ノートオン/オフ)をMIDI送信する場合、ノートナンバーは本来の値にトランスポーズ値を加えた値で送信されます。ノートオン/オフをMIDI受信した場合は、受信したままのノートナンバーで発音します(トランスポーズされません)。	0	−12 (−1オクターブ)~0 (標準音程)~+12 (+1オクターブ)
ピアノ設定	大屋根の開閉	(設定画面)	26ページの「大屋根の開閉」の「説明」「初期設定」「設定範囲」をご覧ください。		
	VRM	—	26ページの「VRM」の「説明」「初期設定」「設定範囲」をご覧ください。ただしボイスメニューのピアノ設定ではデモの再生はできません。		
	ダンパー レゾナンス	(設定画面)	NOTE VRMに対応のボイスはピアノグループのボイスのみです。		
	ダンパー ノイズ	—			
	ストリング レゾナンス	(設定画面)			
	アリコート レゾナンス	(設定画面)			
	ボディ レゾナンス	(設定画面)			
	グランドExp. (グランドエクスプレッション)	—	27ページの「グランドエクスプレッション」の「説明」「初期設定」「設定範囲」をご覧ください。ただしボイスメニューのピアノ設定ではデモの再生はできません。 NOTE グランド・エクスプレッション・モデリングは「CFXグランド」と「ベーゼンドルファー」のボイスのみに効果がかかります。		
リバーブ	(設定画面)	—	リバーブタイプを選択します。リバーブは、鍵盤演奏、ソング再生音、外部から入力されたMIDIデータすべてに共通にかかります。	ボイスまたはボイスの組み合わせによる	リバーブタイプリスト参照(87ページ)
コーラス	(設定画面)	—	コーラストイプを選択します。コーラスは、鍵盤演奏、ソング再生音、外部から入力されたMIDIデータすべてに共通にかかります。	ボイスまたはボイスの組み合わせによる	コーラストイプリスト参照(87ページ)

各項目の呼び出し方

[FUNCTION]ボタンを何度か押して「ボイスメニュー」を選択し、[^]/[v]/[<]/[>]ボタンで項目を選択します。

785

775

745

735



FUNCTION

[>] [<]	[>] [<]	[>] [<]	説明	初期設定	設定範囲
ボイス編集	ボイス名*	オクターブ	鍵盤音の高さをオクターブ単位で上下にシフトします。デュアル/スプリット/デュオがオンの場合は、ボイスごとに設定できます。	ボイスまたはボイスの組み合わせによる	-2 (2オクターブ下)~0 (シフトしない)~+2 (2オクターブ上)
		音量	ボイスの音量を調整します。デュアル/スプリット/デュオがオンの場合は、ボイスごとに設定することでバランスを調整します。	ボイスまたはボイスの組み合わせによる	0~127
		リバーブの深さ	現在選択されているリバーブの深さ(かかり具合)を調整します。デュアル/スプリット/デュオがオンの場合は、ボイスごとに設定することでバランスを調整します。設定値が0の場合、効果はかかりません。 NOTE VRMボイスが複数パートに使用されている場合、予期しない音になることがあります。優先パートの設定が、パート間共通の設定になるためです。ソング再生中はソングパートでの設定(優先順位: チャンネル1、チャンネル2...チャンネル16)、ソング停止時はボイスパートでの設定(優先順位: ボイス右1、ボイス左、ボイス右2)が使用されます。	ボイスまたはボイスの組み合わせによる	0~40
		コーラスの深さ	現在選択されているコーラスの深さ(かかり具合)を調整します。デュアル/スプリット/デュオがオンの場合は、ボイスごとに設定することでバランスを調整します。設定値が0の場合、効果はかかりません。 NOTE VRMボイスが複数パートに使用されている場合、予期しない音になることがあります。優先パートの設定が、パート間共通の設定になるためです。ソング再生中はソングパートでの設定(優先順位: チャンネル1、チャンネル2...チャンネル16)、ソング停止時はボイスパートでの設定(優先順位: ボイス右1、ボイス左、ボイス右2)が使用されます。	ボイスまたはボイスの組み合わせによる	0~127
		エフェクト	リバーブやコーラスとは別に、鍵盤演奏のボイスに対して、個別にエフェクトタイプをかけられます。最大2つのボイスにまで設定できます。	ボイスまたはボイスの組み合わせによる	エフェクトタイプリスト参照(87ページ)
		ロータリーSP	エフェクトタイプとして「ロータリー」を選んだボイスにだけ有効です。ロータリースピーカーエフェクトの回転スピードを設定します。	ボイスまたはボイスの組み合わせによる	速い、遅い
		パイプローター	エフェクトタイプとして「パイプローター」を選んだボイスにだけ有効です。パイプローター効果をかける/かけない(オン/オフ)を設定します。	ボイスまたはボイスの組み合わせによる	On (オン)、Off (オフ)
		スピード	エフェクトタイプに「パイプローター」を選んだボイスにだけ有効です。ピラフォン独特のビブラート(音揺れ)のスピードを設定します。	ボイスまたはボイスの組み合わせによる	1~10
		エフェクトの深さ	エフェクト(上記)のかかり具合を、ボイスごとに設定します。エフェクトタイプの中にはかかり具合の設定ができないものがあります。	ボイスまたはボイスの組み合わせによる	1~127
		パン	各ボイスの音が、左右のどのあたりから聞こえてくるようにするかを、個別に設定します。	ボイスまたはボイスの組み合わせによる	L64 (左寄り)~C (中央)~R63 (右寄り)

各項目の呼び出し方				785	775	745	735
[FUNCTION]ボタンを何度か押して「ボイスメニュー」を選択し、[∧]/[∨]/[<]/[>]ボタンで項目を選択します。							
[>] [<]	[>] [<]	[>] [<]	説明	初期設定	設定範囲		
ボイス編集	ボイス名*	ハーモニック コンテンツ	フィルターのレゾナンス値を上げることで、音に独特のクセを付けることができます。デュアル/スプリット/デュオがオンの場合は、ボイスごとに設定できます。 NOTE ボイスによっては、効果のかかり具合がわかりにくい、もしくは効果がからないものがあります。	ボイスまたはボイスの組み合わせによる	-64～+63		
		ブライトネス	各ボイスの明るさを個別に調整します。	ボイスまたはボイスの組み合わせによる	-64～+63		
		タッチセンス	鍵盤を弾いたときの強さに対する音量変化の幅/音量の出やすさを設定します。ハーブシコードやオルガンなどのボイスは、鍵盤を弾いたときの強さによる音量変化がない楽器なので、初期設定は127 (音量が一定音量)になっています。	ボイスまたはボイスの組み合わせによる	0 (音量が出にくい)～64 (音量変化幅が最大)～127 (音量が出やすく一定音量)		
		右ペダル	ボイスごとに、右ペダルの機能をオン/オフします。たとえばスプリットオン時に、右手演奏にはペダル効果をかけたいが左手演奏にはかけたくない場合などに活用します。	ボイスまたはボイスの組み合わせによる	On (オン)、 Off (オフ)		
		中ペダル	ボイスごとに、中ペダルの機能をオン/オフします。たとえばスプリットオン時に、右手演奏にはペダル効果をかけたいが左手演奏にはかけたくない場合などに活用します。	ボイスまたはボイスの組み合わせによる	On (オン)、 Off (オフ)		
		左ペダル	ボイスごとに、左ペダルの機能をオン/オフします。たとえばスプリットオン時に、右手演奏にはペダル効果をかけたいが左手演奏にはかけたくない場合などに活用します。	ボイスまたはボイスの組み合わせによる	On (オン)、 Off (オフ)		
ペダル割り当て	右ペダル	(設定画面)	右ペダルに、ダンパーペダル(サステイン)とは違う機能を割り当てます。	サステイン(連続)	ペダル機能リスト参照(87ページ)		
	中ペダル	(設定画面)	中ペダルに、ソステヌートペダルとは違う機能を割り当てます。	ソステヌート	ペダル機能リスト参照(87ページ)		
	左ペダル	(設定画面)	左ペダルに、ソフトペダルとは違う機能を割り当てます。	・メローオルガン選択時: ロータリースピード ・ビブラフォン選択時: バイプローター ・上記以外のボイス選択時: ソフト	ペダル機能リスト参照(87ページ)		
バランス*	音量 R2 - R1*	(設定画面)	デュアルがオンの場合は2つのボイスの音量バランスを調整します。[<]/[>]ボタンで調整後、[EXIT]ボタンでポップアップ画面を抜けます。	ボイスまたはボイスの組み合わせによる	R2+10～0～ R1+10		
	音量 L - R*	(設定画面)	スプリット/デュオがオンの場合の左手鍵域と右手鍵域の音量バランスを調整します。デュオがオンの場合は左右パートの音量バランスを調節します。[<]/[>]ボタンで調整後、[EXIT]ボタンでポップアップ画面を抜けます。	ボイスまたはボイスの組み合わせによる	L+10～0～ R+10		
	デチューン*	(設定画面)	デュアルで選択した2つのボイスのピッチ(音高)を微妙にずらすことで、音の厚みを増します。画面上でスライダーを右へ動かすほど、R1 (第1ボイス)のピッチが高く、R2 (第2ボイス)のピッチが低くなります。スライダーを左へ動かすほど、R1 (第1ボイス)のピッチが低く、R2 (第2ボイス)のピッチが高くなります。調整が終わったら、[EXIT]ボタンでポップアップ画面を抜けます。	ボイスまたはボイスの組み合わせによる	R2+20～0～ R1+20		

■ リバースタイプリスト

Off (オフ)	効果なし
リサイタルホール	ピアノリサイタル向けの中規模ホールのクリアな響き
コンサートホール	オーケストラの公演が行なわれる大きなホールの華やかな響き
サロン	室内楽に適した、宮廷内の広間の落ち着いた響き
大聖堂	天井の高い石造りの大聖堂の荘厳な響き
クラブ	ライブハウスやジャズクラブのメリハリのある響き
プレート	録音スタジオで使用される往年のリバース装置の明るい響き

■ コーラスタイプリスト

Off (オフ)	効果なし
コーラス	豊かな広がりを加える効果
セレステ	うねりと広がりを加える効果
フランジャー	ジェット機の上昇、下降音のようなうねりを加える効果

■ エフェクトタイプリスト

エフェクトタイプ	効果
Off (オフ)	効果なし
ディレイLCR	左、中央、右の3つの位置でかかるディレイ(音を遅らせる)効果
ディレイLR	左右2つの位置でかかるディレイ効果
エコー	「こだま」のようなディレイ効果
クロスディレイ	左右2つのディレイを交差してかけた効果
シンフォニック	豊かで奥行きのある響きを作る効果
ロータリー	ロータリースピーカー (回転スピーカー) を使っているようなビブラート感が得られる効果
トレモロ	音量が周期的に変化する効果
バイプローター	ビブラフォン特有のビブラート
オートパン	音が左右、前後に揺れ動くような効果
フェイザー	位相を周期的に変化させ、音にうねりを持たせる効果
オートワウ	ワウフィルターの中心周波数を周期的に変化させる効果
ディストーション	音をひずませる効果

■ ペダル機能リスト

機能	説明	割当可能なペダル ○: 可能 ×: 不可			
		左ペダル	中ペダル	右ペダル	[AUX PEDAL]端子 (CLP-785)に接続したペダル
サステイン(スイッチ)	オン/オフスイッチ式のダンパー	○	○	○	○
サステイン(連続)	踏み込むほど音が長く伸びるダンパー (21ページ)	×	×	○	×
ソステヌート	ソステヌート(21ページ)	○	○	○	○
ソフト	ソフト(21ページ)	○	○	○	○
エクスプレッション*	演奏中に音の強弱を付ける機能	×	×	×	○
ピッチベンドアップ*	音の高さを連続的に上げる機能	×	×	○	○
ピッチベンドダウン*	音の高さを連続的に下げる機能	×	×	○	○
ロータリースピード	メローオルガンのロータリースピーカーの回転数の変化 (踏むごとに速い/遅いが切り替わる)	○	○	○	○
バイプローター	ビブラフォンのビブラートのオン/オフ(踏むごとにオン/オフが切り替わる)	○	○	○	○

* マークの付いた機能を [AUX PEDAL]端子 (CLP-785)に接続したペダルに割り当てる場合は、別売のフットコントローラー (126ページ)の使用をお勧めします。それ以外の機能は、フットスイッチ(126ページ)の使用をお勧めします。

ソングメニュー

ソングメニューでは、ソング再生に関するさまざまな設定や、ソングデータを一括修正ができます。必要に応じてソングを選択してから、操作を始めてください。

NOTE

- ・* が付いている項目は、MIDIソングが選ばれているときのみ表示され、オーディオソング選択時は表示されません。
- ・** が付いている項目はオーディオソングが選ばれているときのみ表示されます。
- ・「編集」の機能を使う場合は、デモ曲、クラシック50選、レッスン以外のMIDIソングを選んでください。
- ・「実行」は、現在選択されているソングデータを修正する機能です。[>]ボタンを押すことでソングデータが書き換わるので十分ご注意ください。
- ・MIDIソングが選ばれているときと、オーディオソングが選ばれているときで、一部項目の順番や表示が異なります。

各項目の呼び出し方					
[FUNCTION]ボタンを何度か押して「ソングメニュー」を選択し、[∧]/[∨]/[<]/[>]ボタンで項目を選択します。					
				785	775
				745	735
				FUNCTION	
[>] [<]	[>] [<]	[>] [<]	説明	初期設定	設定範囲
L/R*	R、L、その他	—	ソング再生をトラックごとにもオフ(ミュート)します。詳しくは46ページをご覧ください。	On (オン)	On (オン)、 Off (オフ)
リピート	A - B*	(設定画面)	現在選択されているMIDIソングの一部(A点～B点)を、繰り返し再生する機能(ABリピート)です。詳細な手順は47ページをご参照ください。	Off (オフ)	On (オン)、 Off (オフ)
	フレーズ*	フレーズ マーク	フレーズマークが入っているMIDIソングが選ばれている場合のみ有効です。「リピート」をオンにし、フレーズマークの番号を指定することで、ソングの該当フレーズから再生したり、そのフレーズだけを繰り返し再生させたりします。「フレーズ」がオンの場合に[PLAY/PAUSE]ボタンを押すと、カウント音に続いて指定のフレーズ番号から再生が開始され、もう一度[PLAY/PAUSE]ボタンを押すまで繰り返し再生されます。	000	000～その曲の 最終フレーズ番号
		リピート		Off (オフ)	On (繰り返し再生) / Off (繰り返ししない)
	ソング	(設定画面)	特定の曲だけを順に再生したり、ランダムに再生したりします。詳細な手順は47ページをご覧ください。	Off (オフ)	Off (オフ)、1曲、 全て、ランダム
音量	ソング - 鍵盤*	(設定画面)	ソング再生音と鍵盤演奏音の音量バランスを調節します。 NOTE 設定は電源が切れても記憶されます。設定を記憶したくない場合は、バックアップ設定(100ページ)を変更してください。	0	Key+64～0～ Song+64
	ソング L - R*	(設定画面)	ソング再生音の右手パートと左手パートの音量バランスを調節します。	0	L+64～0～ R+64
	(設定画面)**		オーディオソングの音量を調節します。	100	0～127
トランス ポーズ	(設定画面)	—	鍵盤の音の高さを変えずに、再生するソングだけを、半音単位で移調(＝トランスポーズ)します。たとえば、トランスポーズ量を「5」に設定すると、「ハ長調」のソングは「ヘ長調」で再生されます。 NOTE 外部から入力されたオーディオ音声はトランスポーズされません。 NOTE MIDIソングの演奏情報(ノートオン/オフ)をMIDI送信する場合、ノートナンバーは本来の値にトランスポーズ値を加えた値で送信されます。ノートオン/オフをMIDI受信した場合は、受信したままのノートナンバーで発音します(トランスポーズされません)。 NOTE オーディオソングのトランスポーズを変更した場合、曲によっては音質が変わることがあります。	0	－12 (－1オクターブ)～0 (標準 ピッチ)～+12 (+1オクターブ)
ファイル	削除	中止	ソングを削除します。ファイル操作が可能なソングについては、63ページをご覧ください。	—	—
		実行		—	—
	コピー*	中止	MIDIソングのコピーを別の場所に保存します。ファイル操作が可能なソングについては、63ページをご覧ください。	—	—
		実行		—	—

各項目の呼び出し方				785	775	745	735
[FUNCTION]ボタンを何度か押して「ソングメニュー」を選択し、[>]/[<]/[V]/[<]/[>]ボタンで項目を選択します。				<div>≡</div> <div>○ FUNCTION</div>			
[>] [<]	[>] [<]	[>] [<]	説明	初期設定	設定範囲		
ファイル	移動*	中止	MIDIソングの保存場所を移動します。ファイル操作が可能なソングについては、63ページをご覧ください。	—	—		
		実行		—	—		
	オーディオ変換*	中止	MIDIソングをオーディオソングに変換します。ファイル操作が可能なソングについては、63ページをご覧ください。	—	—		
		実行		—	—		
	名前の変更	(設定画面)	ソング名を変更します。ファイル操作が可能なソングについては、63ページをご覧ください。	—	—		
編集*	クオンタイズ (演奏タイミングのずれを修正)	クオンタイズ	現在選択されているMIDIソングの各音符の位置を、8分音符や16分音符などのタイミングに正確に移動することでソングデータを修正する機能です。	1/16	「クオンタイズ設定範囲」参照 (90ページ)		
		強さ	1. クオンタイズでクオンタイズの分解能(修正する音符の単位)を設定します。 2. 強さでクオンタイズをかける効果の強さを設定します。 3. 「実行」にカーソルを合わせて[>]を押すことでデータ修正を実行します。	100%	0%~100% 「強さによる修正データの違い」参照(90ページ)		
		実行		—	—		
	トラック削除 (ソングトラックの削除)	トラック	現在選択されているMIDIソングのデータを、トラックごとに削除する機能です。	トラック1	トラック1~ トラック16		
		実行	1. 「トラック」で削除対象のトラックを選択します。 2. 「実行」にカーソルを合わせて[>]を押すことで、指定トラックのデータ削除を実行します。	—	—		
	テンポ変更 (ソングデータのテンポ変更)	中止	選択されているMIDIソングのテンポ値を現在のテンポ値に変更し、ソングデータとして修正する機能です。ソングメニュー画面を呼び出す前に、テンポを変更したい値に設定しておいてください。	ソングによる	—		
		実行		—	—		
	ボイス変更	トラック	現在選択されているMIDIソングのボイスを、トラックごとに現在選択されているボイスに変更し、ソングデータとして修正する機能です。	トラック1	トラック1~ トラック16		
		実行	「実行」にカーソルを合わせて[>]を押すことで、ソングデータ修正を実行します。	—	—		
その他*	クイックプレイ	—	現在選択されているMIDIソングの冒頭部に無音部分がある場合、クイックプレイをオンに設定することで、音のあるところからすぐに再生開始させることができます。アウフタクト(弱起 = 小節の途中拍から曲が始まること)のMIDIソングを再生する場合に便利な設定です。	On (オン)	On (オン)、 Off (オフ)		
	トラック試聴	トラック	トラック別の中身を確認するために、1トラックだけを選んで再生できます。実際の音が鳴るところからすぐに再生されます。トラック選択後に、「スタート」にカーソルを合わせた状態で[>]ボタンを押している間だけ、選択したトラックが再生されます。	トラック1	トラック1~ トラック16		
		スタート					
	再生トラック	—	この楽器で再生するトラックを設定できます。「1&2」では、トラック1と2だけが再生され、3から16トラックはMIDI送信されます。「全て」では、トラック1から16すべてが再生されます。	全て	全て、1&2		

NOTE

ソングの再生テンポの変更は、[TEMPO]ボタンを押して呼び出される画面で設定できます。設定方法については、45ページをご覧ください。

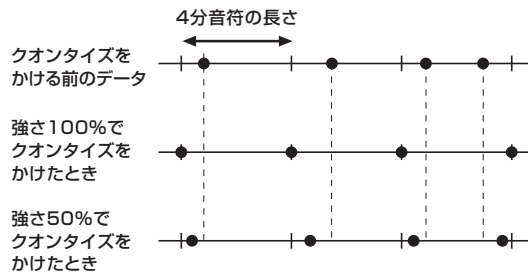
■ クオンタイズ補足説明

クオンタイズ設定範囲

1/4.....		4分音符
1/6.....		3連4分音符
1/8.....		8分音符
1/12.....		3連8分音符
1/16.....		16分音符
1/24.....		3連16分音符
1/32.....		32分音符
1/8+1/12.....		8分音符+3連8分音符*
1/16+1/12...		16分音符+3連8分音符*
1/16+1/24...		16分音符+3連16分音符*

* マークが付いた設定は、同時に異なる2つの音符のタイミングにクオンタイズできます。たとえば、8分音符と3連8分音符の両方のタイミングに録音されているトラックに「8分音符」を選択すると、そのトラックの全音符が8分音符でクオンタイズされてしまい、3連8分音符のタイミングの音がなくなってしまう。しかし、「8分音符+3連8分音符」に設定すれば、8分音符と3連符の両方のタイミングの音をクオンタイズできます。

強さによる修正データの違い



メトロノーム/リズムメニュー

メトロノーム/リズムメニューでは、メトロノーム再生時(38ページ)またはリズム再生時(40ページ)の音量/テンポ表示のしかたを設定します。また、拍子設定(39ページ)の1拍めにメトロノームのベル音を鳴らすかどうか、リズムの再生方法に関する設定もできます。

各項目の呼び出し方

[FUNCTION]ボタンを何度か押して「メトロノーム/リズムメニュー」を選択し、[^]/[V]ボタンで項目を選択します。

≡

FUNCTION

<div>></div> <div><</div>	<div>></div> <div><</div>	<div>></div> <div><</div>	説明	初期設定	設定範囲
拍子	(設定画面)	—	メトロノームの拍子を設定します。MIDIソングを選んだり、再生したりすると、選んだソングの拍子に自動的に変わります。	4/4	2/2、1/4、2/4、3/4、4/4、5/4、6/4、7/4、3/8、6/8、7/8、9/8、12/8
音量	(設定画面)	—	メトロノーム/リズムの音量を設定します。これにより、鍵盤演奏の音量とバランスをとります。	82	0～127
BPM	—	—	画面上のテンポ表示の基準音価を、メトロノームの拍子設定(39ページ)に連動させるか、拍子設定に関係なく4分音符基準にするかを設定します。「拍子に連動」を選択した場合、拍子設定の分母値が基準音価になります。(ただし、拍子が「6/8」「9/8」「12/8」に限り、符点4分音符が基準音価になります。)	拍子に連動	拍子に連動、4分音符
ベル	—	—	設定された拍子(39ページ)の1拍目で、メトロノームのベル音を鳴らすか鳴らさないかを設定します。	Off (オフ)	On (オン)、Off (オフ)
イントロ	—	—	リズム再生開始時にイントロを再生する(オン)か、しない(オフ)かを設定します。 NOTE イントロをオンに設定した場合でも、ソング再生中にリズム再生を開始した場合は、イントロは再生されません。	On (オン)	On (オン)、Off (オフ)
エンディング	—	—	リズム再生終了時にエンディングを再生する(オン)か、しない(オフ)かを設定します。	On (オン)	On (オン)、Off (オフ)
シンクロ再生	—	—	鍵盤を弾くと同時にリズムをスタートさせる(オン)か、させない(オフ)かを設定します。 この機能を使うには、以下の操作を行ってください。 1. この機能をオンにする。 2. [RHYTHM]ボタンを押してシンクロスタート待機状態に入る。 [RHYTHM]ボタンが点滅する。 3. 鍵盤を弾いて、リズムをスタートさせる。	Off (オフ)	On (オン)、Off (オフ)
ベース	—	—	リズムにベースの自動伴奏を付ける(オン)かつけないか(オフ)を設定します。	On (オン)	On (オン)、Off (オフ)

■ テンポを設定する

メトロノーム/リズムのテンポは、[TEMPO]ボタンを押して呼び出される画面で設定できます。詳しくは38ページをご覧ください。

🔊 録音メニュー

録音メニューでは、MIDI録音(52ページ)の詳細な条件を設定します。

NOTE

ここでの設定はMIDI録音に対してのみ有効で、オーディオ録音には効果しません。

各項目の呼び出し方

785775745735

[FUNCTION]ボタンを何度か押して「録音メニュー」を選択し、[^]/[V]ボタンで項目を選択します。

≡

FUNCTION

[>] [<]	[>] [<]	[>] [<]	説明	初期設定	設定範囲
録音開始	—	—	既存MIDIソングへの上書き録音時のための設定で、MIDI録音開始の操作後に実際に上書き録音が始まる(パンチイン)するタイミングを指定します。「標準」を選択した場合、録音開始の操作と同時に、実際の録音も始まります。鍵盤を弾いていなくても無音部分として録音されます。「押鍵」を選択した場合は、録音開始の操作をしたあと、鍵盤を弾いたときに初めて実際の録音が始まります。	標準	標準、押鍵
録音終了	—	—	既存MIDIソングへの上書き録音時のための設定で、MIDI録音終了の操作後に、終了したタイミング以降のソングデータを消す(差し替え)か残す(パンチアウト)かを設定します。	差し替え	差し替え、パンチアウト
リズム録音	—	—	リズム再生をMIDI録音する(オン)/しない(オフ)を設定します。オンにした場合は、トラック9～10に演奏が録音されます。	On (オン)	On (オン)、Off (オフ)

システムメニュー

システムメニューでは、楽器全体にかかわる設定を行ないます。

システムメニューのアイコンは、Bluetoothに対応しているかどうかで表示が異なります。

 : CLP-785, CLP-775, CLP-745

 : CLP-735

各項目の呼び出し方			785 775		745	735
[FUNCTION]ボタンを何度か押して「システムメニュー」を選択し、[>]/[V]/[<]/[>]ボタンで項目を選択します。						
[>] [<]	[>] [<]	[>] [<]	説明	初期設定	設定範囲	
Bluetooth (CLP-785, CLP-775, CLP-745)	Bluetooth	(設定画面)	Bluetooth機能のオン/オフを設定します(76ページ)。	On (オン)	On (オン)、 Off (オフ)	
	ペアリング	(設定画面)	Bluetooth機器の登録(ペアリング)を行ないます(75ページ)。 NOTE この項目はBluetooth(上記)がオンの場合のみ表示されます。	—	—	
チューニング	音の高さ (マスターチューニング)	(設定画面)	楽器全体の音の高さを微調整します。ほかの楽器との合奏やCDの再生に合わせて演奏するときなどに、それらのピッチ(音の高さ)と楽器本体のピッチを正確に合わせたい場合に使います。 NOTE ここでの設定は、ドラムキットやオーディオソング再生音のピッチには影響しません。また、MIDIソングには記録されません。	A3 = 440.0Hz	A3 = 414.8Hz ~466.8Hz (約0.2Hz単位)	
	音律	(設定画面)	現代のピアノはほとんどの場合、「平均律」と呼ばれる1オクターブを12等分した音律で調律(チューニング)されています。デジタルピアノでも初期設定は「平均律」ですが、16~19世紀に使われていた音律をワンタッチで呼び出し、当時の音律で演奏することも可能です。	平均律	「音律リスト」を 参照(97ページ)	
	基音	(設定画面)	上記で選択した音律の基音(演奏する曲の調の主音)を設定します。上記で「平均律」以外を選んだときは、基音の設定が必要です。 NOTE 音律で「平均律」を選んでいる場合は、「---」表示となり、値の変更はできません。	C	C、C#、D、 Eb、E、F、 F#、G、Ab、 A、Bb、B	
鍵盤	タッチ	(設定画面)	鍵盤を弾く強さに対する音の強弱の付きかた(タッチ感度)を選びます。 ・ ソフト2 : 弱いタッチで大きい音を出すことができます。 ・ ソフト1 : ソフト2とミディアムの中間です。 ・ ミディアム : 標準的なタッチです。 ・ ハード1 : ハード2とミディアムの中間です。 ・ ハード2 : 強いタッチで弾かないと大きい音が出にくい設定です。 ・ 固定 : タッチによる強弱は付かず一定のボリュームが出ます。 NOTE ここでの設定は、MIDI録音されたりMIDI出力されたりしません。	ミディアム	ソフト2、 ソフト1、 ミディアム、 ハード1、 ハード2、 固定	
	ペロシティ	(設定画面)	タッチを「固定」にした場合のペロシティー値(音量)を設定します。 NOTE ここでの設定は、MIDI録音されたりMIDI出力されたりしません。	64	1~127	
	デュオ	(設定画面)	鍵盤を2つの領域に分けて、同じ音域でデュオ演奏ができるよう設定します(36ページ)。	Off (オフ)	On (オン)、 Off (オフ)	
	デュオ - タイプ	—	デュオのとき、左右のスピーカーから鳴らす音のバランスを設定します。 ・ セバレート : 鍵盤の左側領域の音を左側のスピーカーから、右側領域の音を右側のスピーカーから鳴らします。 ・ バランス : 両奏者の演奏音を両方のスピーカーから自然なバランスで鳴らします。	セバレート	セバレート、 バランス	

各項目の呼び出し方			785	775	745	735
[FUNCTION]ボタンを何度か押して「システムメニュー」を選択し、[<]/[>]/[<]/[>]ボタンで項目を選択します。						
<div>> <</div>	<div>> <</div>	<div>> <</div>	説明	初期設定	設定範囲	
鍵盤	スプリットポイント	(設定画面)	スプリットやデュオをオンにしたときのスプリットポイント(鍵盤の右手領域と左手領域の境め)を設定します。	F#2 (スプリット)、E3 (デュオ)	A-1～C7	
ペダル	ハーフペダルの位置	(設定画面)	右ペダルをどのくらい踏み込めば「サステイン連続」(87ページ)の効果が効き始めるのかを設定します。右ペダルに「サステイン連続」が割り当てられている場合(86ページ)のみ有効です。	0	-2 (浅い位置で効く)～0～+4 (深い位置で効く)	
	ソフトペダルの深さ	(設定画面)	機能として「ソフト」(87ページ)が割り当てられたペダルにつき、そのかかり具合を設定します。	5	1～10	
	ピッチベンドの範囲	(設定画面)	機能として「ベンドアップ」または「ベンドダウン」(87ページ)が割り当てられたペダルにつき、ピッチ(音の高さ)を連続的に変化させる幅を、半音単位で設定します。 NOTE 一部のボイスでは、ピッチベンドの範囲の設定どおりに音の高さが変化しない場合があります。	2	0～+12 (ペダルを踏むと12半音<1オクターブ>上がる/下がる)	
	Auxペダル (CLP-785)	—	[AUX PEDAL]端子にペダルを接続した場合、ペダルの機種によっては、踏んだときの効果(オン/オフや強弱など)が逆になる場合があります。そのような場合に切り替えてください。	メイク	メイク、ブレイク	
	Auxペダル - 機能 (CLP-785)	(設定画面)	[AUX PEDAL]端子に接続したペダルの機能を設定します。	エクスプレッション	「ペダル機能リスト」を参照(87ページ)	
	Auxペダル - 範囲 (CLP-785)	(設定画面)	[AUX PEDAL]端子に接続したペダルの効果がかかる鍵域を設定します。	全域	全域(全鍵域)、右手(右手鍵域のみ)、左手(左手鍵域のみ)	
	再生/一時停止	(設定画面)	パネル上の[PLAY/PAUSE]ボタンの機能をいずれかのペダルに割り当てます。ここで[PLAY/PAUSE]ボタンの機能を割り当てられたペダルにつき、ボイスメニューで割り当てられた機能(86ページ)は無効になります。	Off (オフ)	Off (オフ)、左ペダル、中ペダル、Auxペダル(CLP-785)	
音響	プリリアンス	(設定画面)	楽器全体の音の明るさ(プリリアンス)を設定します。または「ユーザー」を選んでオリジナルのEQを設定します。詳しくは31ページをご覧ください。	標準	メロー 1～3、標準、ブライト 1～3、ユーザー	
	IAC	—	IACのオン/オフを設定します。IACについて詳しくは19ページをご覧ください。	On (オン)	On (オン)、Off (オフ)	
	IAC の深さ	(設定画面)	IACの効果のかかり具合を設定します。値が大きいほど、音量が小さいときの低音や高音がよりしっかりと聞こえるように補正されます。	0	-3～+3	
	バイノーラル	—	ヘッドホン接続時の動作を設定します。オンの場合は、ヘッドホン接続時にバイノーラルサンプリングおよびステレオフォニックオブティマイザーによる臨場感のある音が楽しめます(20ページ)。 NOTE 「スピーカー」の設定(96ページ)がオンのときは、ヘッドホンを接続してもこの機能は常に無効です。	On (オン)	On (オン)、Off (オフ)	
MIDI	MIDI出力	(設定画面)	楽器本体の鍵盤演奏を、USB [TO HOST]端子およびMIDI [OUT]端子から送信するときのチャンネルを設定します。デュアル/スプリットまたはデュオがオンの場合は以下チャンネルにてMIDI送信されます。 ・ 右側の第1ボイスによる演奏 = n (設定値) ・ 左側のボイスによる演奏 = n+1 ・ 右側の第2ボイスによる演奏 = n+2	チャンネル1	チャンネル1～チャンネル16、Off (送信しない)	

各項目の呼び出し方

785

775

745

735

≡

FUNCTION

[>]
[<]

[>]
[<]

[>]
[<]

説明

初期設定

設定範囲

MIDI

MIDI入力

(設定画面)

MIDI [IN]端子およびUSB [TO HOST]端子から受信したMIDIメッセージの各チャンネルにつき、楽器本体のどのパートの演奏をコントロールするかを設定します。

- ・ **ソング**：ソングパートをコントロールします。
- ・ **鍵盤**：メイン、デュアル、スプリット、デュオに関係なく、鍵盤演奏をコントロールします。
- ・ **R1**：右側の第1ボイスによる鍵盤演奏をコントロールします。
- ・ **R2**：右側の第2ボイスによる鍵盤演奏をコントロールします。
- ・ **L**：左側のボイスによる鍵盤演奏をコントロールします。
- ・ **Off (オフ)**：受信しません。

全チャンネルにつき、「ソング」

各チャンネルにつき、

- ・ ソング
- ・ 鍵盤
- ・ R1
- ・ R2
- ・ L
- ・ Off (オフ)

ローカルコントロール

—

通常、鍵盤を弾くと楽器本体の「音源部」から音が鳴ります。この状態を、ローカルコントロール=オンといいます。ローカルコントロールをオフにすると「鍵盤」と「音源」が切り離され、鍵盤を弾いても本体から音が出なくなります。ただし、鍵盤演奏の情報はMIDI送信されるので、本体では音を鳴らさずにMIDI接続した外部MIDI音源の音が鳴ります。

On (オン)

On (オン)、Off (オフ)

受信パラメーター

(設定画面)

外部から受信するMIDIメッセージにつき、その種類ごとに、受信する(オン)かしない(オフ)かを設定します。

■ MIDIメッセージの種類

ノート、コントロールチェンジ、プログラムチェンジ、ピッチベンド、システムエクスクルーシブ

全メッセージにつき「On (オン)」

各メッセージにつき、

- ・ On (オン)
- ・ Off (オフ)

送信パラメーター

(設定画面)

楽器本体での演奏で発生するMIDIメッセージの種類ごとに、外部に送信する(オン)かしない(オフ)かを設定します。

■ MIDIメッセージの種類

ノート、コントロールチェンジ、プログラムチェンジ、ピッチベンド、システムリアルタイム、システムエクスクルーシブ

全メッセージにつき「On (オン)」

各メッセージにつき、

- ・ On (オン)
- ・ Off (オフ)

初期設定送信

中止

楽器本体に接続した外部MIDI機器/コンピューターなどへ、ボイス選択などのパネル設定データを送信します。外部MIDI機器やコンピューターにMIDI録音する前にこの機能を実行しておけば、録音データの先頭にパネル設定が記録され、あとで再生するときに録音時のサウンドが正確に再現されます。

—

—

実行

■ 操作：

「実行」にカーソルを合わせ、[>]ボタンを押すと、パネル設定がMIDI送信されます。

バックアップ

バックアップ設定

—

本体設定のバックアップやリストア(復元)、初期化を行ないます。これらの説明は、100～101ページをご参照ください。

—

—

バックアップ

—

リストア

—

ファクトリーリセット

—

各項目の呼び出し方			785	775	745	735
[FUNCTION]ボタンを何度か押して「システムメニュー」を選択し、[△]/[▽]/[<]/[>]ボタンで項目を選択します。						
[>] [<]	[>] [<]	[>] [<]	説明	初期設定	設定範囲	
ユーティリティ	USBフォーマット(初期化)	中止	USB [TO DEVICE]端子に接続したUSBフラッシュメモリーをフォーマット(初期化)します。 注記 フォーマットを実行すると、USBフラッシュメモリーに保存されているデータがすべて消去されます。大切なデータはコンピューターなど、他の記憶装置に保存しておいてください。 NOTE USBフラッシュメモリーによっては、USB [TO DEVICE]接続したときに、フォーマットを促すメッセージが表示されます。その場合は、フォーマットを実行してください。 ■ 操作： 「実行」にカーソルを合わせ、[>]ボタンを押すとフォーマットが開始されます。フォーマットが完了したらメッセージが表示され、数秒後にユーティリティ画面に戻ります。 注記 「操作を実行しています」の表示中は、電源を切ったり、USBフラッシュメモリーを外したりしないでください。データの破損の原因になります。	—	—	
		実行	USB [TO DEVICE]端子に接続したときに、フォーマットを促すメッセージが表示されます。その場合は、フォーマットを実行してください。 ■ 操作： 「実行」にカーソルを合わせ、[>]ボタンを押すとフォーマットが開始されます。フォーマットが完了したらメッセージが表示され、数秒後にユーティリティ画面に戻ります。 注記 「操作を実行しています」の表示中は、電源を切ったり、USBフラッシュメモリーを外したりしないでください。データの破損の原因になります。	—	—	
	USBプロパティ	—	USB [TO DEVICE]端子に接続されているUSBフラッシュメモリーの空き容量や全体容量を表示します。 	—	—	
	USB自動ロード	—	この項目を「オン」に設定することにより、USB [TO DEVICE]端子にUSBフラッシュメモリーを接続したと同時に、USBフラッシュメモリーのルートにある(フォルダーに入っていない)ソングを自動で呼び出せます(画面に表示されます)。	Off (オフ)	On (オン)、 Off (オフ)	
	スピーカー	(設定画面)	本体スピーカーを鳴らす(オン)/鳴らさない(オフ)を切り替えます。 ・ 標準 : ヘッドホンが接続されていないときだけスピーカーが鳴ります。 ・ On (オン) : 常にスピーカーが鳴ります。 ・ Off (オフ) : スピーカーは鳴りません。 NOTE この設定がオンのとき、バイノーラル(94ページ)は常に無効です。	標準	標準、 On (オン)、 Off (オフ)	
	コントラスト	(設定画面)	画面のコントラストを調整します。	0	-5~+5	
	オートパワーオフ	(設定画面)	オートパワーオフ機能により電源が自動オフされるまでの時間を設定します。自動的に電源をオフにたくない場合は、「Off (オフ)」を選びます。 ■ オートパワーオフの簡単解除  左端の鍵盤を押したまま電源を入れると、オートパワーオフ解除を知らせるメッセージが表示され、オートパワーオフ機能が解除されます。	30 (分)	Off (オフ)、 5、10、15、 30、60、120 (分)	

各項目の呼び出し方

785

775

745

735

≡

FUNCTION

[>]
[<]

[>]
[<]

[>]
[<]

説明

初期設定

設定範囲

ユーティリティ

オーディオループバック

—

コンピューターやスマートデバイスからのオーディオ入力音を、楽器での演奏音と一緒に、コンピューターやスマートデバイスに出力する(オン)/しない(オフ)を設定します。詳しくは73ページをご覧ください。

On (オン)

On (オン)、Off (オフ)

バージョン

—

この楽器のモデル名とファームウェアのバージョンを表示します。

—

—

オートバックライトオフ (CLP-785/775)

(設定画面)

一定時間操作しないと、操作パネルと画面の表示は消えますが、表示が消えるまでの時間を設定できます。オフに設定すると、表示は消えません。

10(秒)

Off (オフ)、10(秒)、20(秒)、30(秒)、60(秒)

タッチパネル操作音 (CLP-785/775)

—

操作パネルを操作したときに音が鳴る(オン)か、鳴らないか(オフ)を設定します。

On (オン)

On (オン)、Off (オフ)

言語設定

システム

画面の表示言語(=システム)、ソング名の画面表示や入力言語 (=ソング)をそれぞれ個別に、日本語または英語に切り替えられます。

日本語

日本語、英語

無線LAN、無線LANオプション

別売の無線LANアダプター接続時に各種設定を行ないます。これらの項目については、98ページをご覧ください。

■ 文字一覧:

日本語

0~9

A~Z

a~z

ア

ン

ア

ン

ヤ

ユ

ヨ

ツ

テ

フ

。

「

」

、

・

！

#

\$

%

&

'

(

)

+

-

;

=

@

[

]

^

_

`

{

}

~

.

英語

0~9

A~Z

a~z

Ä

Ë

Ï

Ö

Ü

ä

ë

ï

ö

ü

à

è

ì

ò

ù

á

é

í

ó

ú

â

ê

î

ô

û

ñ

ñ

Ç

ç

°

¡

£

\$

%

&

'

(

)

+

-

;

=

@

[

]

^

_

`

{

}

~

.

■ 音律リスト

平均律	1オクターブを12の間隔で等分した音律。現在もっともポピュラーなピアノの調律法。
純正律「長調」/「短調」	自然倍音を基準とするため、主要3和音が美しく純粋に響くのが特徴。現在でも合唱のハーモニーなどで見られる。
ピタゴラス音律	ギリシャ時代の哲学者ピタゴラスによって考えられた5度音程だけの組み合わせからできた音律。3度はうなりが生じるが4度と5度の音程が美しく、旋律の演奏に向いている。
中全音律	ピタゴラス音律の3度のうなりをなくすために改良された音律。16世紀後半から18世紀後半までにかけて広く普及し、ヘンデルも使用した。
ヴェルクマイスター / キルンベルガー	中全音律とピタゴラス音律を組み合わせた音律で、両者はその組み合わせかたが異なる。転調により曲想が変化するのが特徴。バッハやベートーベン時代に使用され、現在でもその時代の音楽をハーブシコード (=チェンバロ)などで演奏するときにしばしば用いられる。

無線LANの設定

以下の項目は、楽器の電源を入れたあと、USB [TO DEVICE]端子に別売のUSB無線LANアダプター (UD-WL01)を接続すると表示されます。設定の手順について詳しくは78ページをご覧ください。

* 無線LANの項目は、無線LANモードの設定がインフラストラクチャーモードか、アクセスポイントモードかで表示が異なります。無線LANモードの設定は、初期設定ではインフラストラクチャーモードです。

各項目の呼び出し方

[FUNCTION]ボタンを何度か押して「システムメニュー」を選択し、[<]/[>]/[<]/[>]ボタンで項目を選択します。

785

775

745

735

≡

FUNCTION

<> <>	<> <>	<> <>	<> <>	<> <>	説明	初期設定	設定範囲
ユーティリティ	無線LAN* (インフラストラクチャーモード時)	ネットワーク選択	(ネットワーク一覧)		一覧から接続先ネットワークを選ぶことで、ネットワークへ接続します。	—	—
			その他	SSID	接続先ネットワークのSSIDを設定します。	—	最大32文字。英数字、記号
				セキュリティ	接続先ネットワークのセキュリティ種別を設定します。	なし	なし、WEP、WPA-PSK(TKIP)、WPA-PSK(AES)、WPA2-PSK(AES)、WPA/WPA2 mixed PSK
				パスワード	接続先ネットワークのパスワードを設定します。	—	最大64文字。英数字、記号
				接続	「その他」画面で設定した内容で、ネットワークへ接続します。	—	—
		詳細	DHCP		無線LANの詳細設定をします。IPアドレス、サブネットマスク、ゲートウェイ、DNSサーバー 1、DNSサーバー 2は、DHCPがオフのときは設定できません。入力画面では、</>ボタンでそれぞれのオクテットを選択し、</>ボタンで値を設定します。入力を確定するときは[FUNCTION]ボタンを押します。	On (オン)	On (オン)、Off (オフ)
			IPアドレス			0.0.0.0	0.0.0.0～255.255.255.255
			サブネットマスク			0.0.0.0	0.0.0.0～255.255.255.255
			ゲートウェイ			0.0.0.0	0.0.0.0～255.255.255.255
			DNSサーバー 1			0.0.0.0	0.0.0.0～255.255.255.255
			DNSサーバー 2			0.0.0.0	0.0.0.0～255.255.255.255
			保存		「詳細」画面で設定した内容を、保存します。画面の「保存」を反転表示させ、>ボタンを押すと保存されます。	—	—
	無線LAN* (アクセスポイントモード時)	SSID		アクセスポイントとしてのSSIDを設定します。	ap-CLP-XXX-[MACアドレス下6桁]	最大32文字。英数字、記号	
		セキュリティ		アクセスポイントとしてのセキュリティ種別を設定します。	WPA2-PSK(AES)	なし、WEP、WPA-PSK(TKIP)、WPA-PSK(AES)、WPA2-PSK(AES)、WPA/WPA2 mixed PSK	
		パスワード		アクセスポイントとしてのパスワードを設定します。	00000000	最大64文字。英数字、記号	
		チャンネル		アクセスポイントとしてのチャンネルを設定します。	11	1～13	

各項目の呼び出し方

785

775

745

735

[FUNCTION]ボタンを何度か押して「システムメニュー」を選択し、[△]/[▽]/[<]/[>]ボタンで項目を選択します。



<div>> <</div>	<div>> <</div>	<div>> <</div>	<div>> <</div>	<div>> <</div>	説明	初期設定	設定範囲
ユーティリティ	無線LAN* (アクセスポイントモード時)	DHCPサーバー		IPアドレス	IPアドレスに関連する項目を設定します。	On (オン)	On (オン)、Off (オフ)
		IPアドレス				192.168.0.1	192固定、168固定、0～255.1～254
		サブネットマスク				255.255.255.0	255.255.0.0、255.255.128.0、255.255.192.0、255.255.224.0、255.255.240.0、255.255.248.0、255.255.252.0、255.255.254.0、255.255.255.0
		保存				—	—
	無線LANオプション	無線LANモード	インフラストラクチャーモード	無線LAN接続に、アクセスポイントを使うか(インフラストラクチャーモード)使わないか(アクセスポイントモード)を設定します。	インフラストラクチャーモード	—	
アクセスポイントモード			—				
初期化		中止	無線LANの設定情報の初期化を行ないます。 画面の「実行」を反転表示させ、>ボタンを押すと実行されます。	中止	—		
		実行			—		
詳細		ホスト名	ホスト名を設定します。	CLP-XXX-[MACアドレス下6桁]	最大57文字。半角英数字に加え「-」と「_」も設定可能。		
		MACアドレス	USB無線LANアダプターのMACアドレスを表示します。	—	—		
		ステータス	ネットワーク機能のエラーコードを表示します。	—	—		

■ バックアップ設定

(電源をオフしても設定が消えない項目を選ぶ)

この機能により、バックアップ設定(下記)の一部の設定が、電源が切れても記憶されるかどうかを設定します。バックアップ設定は、「ボイス」(ボイス選択などさまざまな関連設定)と「その他」(繰り返し再生やチューニングなどの設定)の2グループに分かれており、それぞれ個別に記憶されるかどうかを設定できます。

電源をオフにしても消えないデータ/設定

- 本体内部メモリの「ユーザー」カテゴリに保存されるMIDIソング
- システムメニュー
Bluetooth On/Off
鍵盤(デュオタイプのみ)
ユーティリティ
- バックアップ設定(本項で説明)

1. [FUNCTION]ボタンを何回か押して、システムメニュー画面を選びます(83ページ)。
2. [△]/[▽]ボタンを押して「バックアップ」を選び、[>]ボタンで次の画面を呼び出したあと、[△]/[▽]ボタンで「バックアップ設定」を選びます。
3. [>]ボタンと[△]/[▽]ボタンで「ボイス」を選び、[>]ボタンで「On (オン)」または「Off (オフ)」を選びます。

「ボイス」には下記項目があります。

- R1/R2/Lボイス選択
- ボイスメニューの全項目(トランスポーズ以外)

4. [△]/[▽]ボタンで「その他」を選択し、[>]ボタンで「On (オン)」または「Off (オフ)」を選びます。

「その他」には下記項目があります。

- ソングメニュー：ソングリピート、音量(ソング-鍵盤)、オーディオ音量、クイックプレイ、再生トラック
- メトロノーム/リズムメニュー：音量、BPM、ベル、イントロ、エンディング、ベース
- システムメニュー：チューニング、鍵盤(デュオとデュオタイプを除く)、ペダル、音響、MIDI

5. [EXIT]ボタンでシステムメニュー画面を抜けます(83ページ)。

■ バックアップ

(バックアップファイルを保存する)

この機能により、本体内部に作られたデータ/設定をUSBフラッシュメモリーにバックアップファイル(ファイル名：「CLP-***.bup」)として保存できます。このバックアップファイルは、あとで楽器本体に呼び戻すことができます。

注記

- この機能の実行には1～2分の時間がかかります。
- 実行中(「操作を実行しています」が表示されている間)は電源を切らないでください。データ損失の原因になります。
- すでに同じバックアップファイル(clp-***.bup)がUSBフラッシュメモリーに保存されている場合、この機能の実行によりファイルは書き換えられます。

1. USBフラッシュメモリーをUSB [TO DEVICE]端子に接続します。
2. [FUNCTION]ボタンを何回か押して、システムメニュー画面を選びます(83ページ)。
3. [△]/[▽]ボタンを押して「バックアップ」を選び、[>]ボタンで次の画面を呼び出したあと、[△]/[▽]ボタンで「バックアップ」を選びます。
4. [>]ボタンで次の画面を呼び出したあと、[△]/[▽]ボタンで「実行」を選びます。
5. [>]ボタンでバックアップを実行します。
6. [EXIT]ボタンでシステムメニュー画面を抜けます(83ページ)。

NOTE

バックアップファイル内の設定を呼び戻したい場合は、リストア機能(101ページ)を実行します。

■ リストア

(バックアップファイルを読み込んで再起動する)

この機能により、バックアップ機能(100ページ)で保存したバックアップファイル(ファイル名:「CLP-***.bup」)を楽器本体に読み込むことができます。

注記

- この機能の実行には1～2分の時間がかかります。
- 実行中(「操作を実行しています」が表示されている間)は電源を切らないでください。データ損失の原因になります。
- 重要なデータが本体内部メモリーにある場合は、リストアを実行する前に、66ページの操作に従って必ずUSBフラッシュメモリーなど本体外部へ移してください。リストア実行により、これら重要なデータが消えてしまうので十分ご注意ください。

1. バックアップファイルが入っているUSBフラッシュメモリーを、USB [TO DEVICE]端子に接続します。
2. [FUNCTION]ボタンを何回か押して、システムメニュー画面を選びます(83ページ)。
3. [∧]/[∨]ボタンを押して「バックアップ」を選び、[>]ボタンで次の画面を呼び出したあと、[∧]/[∨]ボタンで「リストア」を選びます。
4. [>]ボタンで次の画面を呼び出したあと、[∧]/[∨]ボタンで「実行」を選びます。
5. [>]ボタンでリストアを実行します。

リストアが終わるとメッセージが表示され、数秒後に楽器が再起動されます。

■ ファクトリーリセット

(工場出荷時の状態を呼び出して再起動する)

この機能により、楽器本体を工場出荷時の状態に戻せます。以下の点にご注意ください。

- バックアップ設定(100ページ)は初期設定に戻ります。
- 「ユーザー」カテゴリーに保存されているソングは消去されません。
- (CLP-785, CLP-775, CLP-745) Bluetooth(75ページ)のペアリング情報は消去されません。

注記

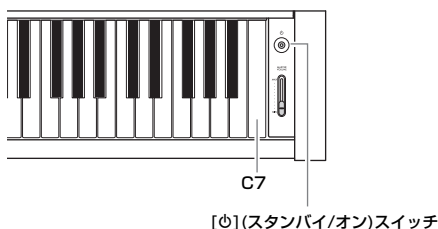
この機能の実行中(「楽器を初期化しています」が表示されている間)は電源を切らないでください。データ損失の原因になります。

1. [FUNCTION]ボタンを何回か押して、システムメニュー画面を選びます(83ページ)。
2. [∧]/[∨]ボタンを押して「バックアップ」を選び、[>]ボタンで次の画面を呼び出したあと[∧]/[∨]ボタンで「ファクトリーリセット」を選びます。
3. [>]ボタンで次の画面を呼び出したあと、[∧]/[∨]ボタンで「実行」を選びます。
4. [>]ボタンでファクトリーリセットを実行します。

ファクトリーリセットが終わるとメッセージが表示され、数秒後に楽器が再起動されます。

● 工場出荷時の状態に戻す他の方法

右端の白鍵(C7)を押したまま電源をオン([φ](スタンバイ/オン)スイッチを押す)にしても、初期設定に戻すことができます。ユーザーに保存した曲は消去されません。また、Bluetooth(CLP-735を除く)のペアリング情報も消去されません。



ボイス一覧

モデルにより内蔵されているボイスは異なります。モデル名の欄で該当ボイスの有無(○/ー)をご確認ください。

ボイス グループ	ボイス名	ステレオ サンプリング	タッチ 感度	キーオフ サンプリング	ボイス紹介	CLP -785	CLP -775 -745 -735
ピアノ	CFX グランド	○	○	○	ヤマハコンサートグランドピアノ/CFXの音色です。弱く弾いた音から強く弾いた音までのダイナミックレンジが広く、表情豊かな演奏ができます。あらゆるジャンルの演奏に最適な音色です。ヘッドホンを接続したときは、ヘッドホン専用にサンプリングされた音に自動で切り替わります。	○	○
	ベーゼンドルファー	○	○	○	ウィンナートーンで有名なベーゼンドルファー社のコンサートグランドピアノ、インペリアル音色です。ピアノの大きさを感じさせる広がりある音の特徴で、曲の優しさを表現するのに最適です。ヘッドホンを接続したときは、ヘッドホン専用にサンプリングされた音に自動で切り替わります。	○	○
	アップライトピアノ	○	○	ー	ヤマハアップライトピアノ/SU7の音です。アップライトピアノ特有の軽快な音色をお楽しみください。	○	○
	スタジオ グランド	○	○	○	レコーディングスタジオでよく使われているヤマハグランドピアノ/C7の音色です。すっきりとした明るい響きの特徴で、ポップスに合います。	○	ー
	ブライト グランド	○	○	○	明るめなピアノの音です。クリアに音を目立たせたい曲におすすめです。	○	○
	メロー グランド	○	○	○	落ち着いたピアノの音です。静かなゆったりとした音楽に合います。	○	○
	バラード グランド	○	○	○	温かみのあるソフトなピアノの音です。バラードを演奏するのに最適です。	○	ー
	ウォーム グランド	○	○	○	温かみのあるしっとりとしたピアノの音です。落ち着いた曲におすすめです。	○	○
	ポップ グランド	○	○	○	すこし明るめなグランドピアノの音です。ポップスに最適です。	○	○
	ジャズ グランド	○	○	○	個性的なキャラクターを持つピアノ音色です。ジャズに最適です。	○	○
	ロック グランド	○	○	○	切れのある明るいピアノの音です。ロックに最適です。	○	○
	ホンキートンク ピアノ	○	○	ー	調律がずれたアップライトピアノの音です。コミカルなキャラクターをお楽しみください。	○	○
フォルテ ピアノ	スカルラッチィ ピアノ	○	○	○	18世紀前半にフィレンツェの楽器製作家が作ったピアノです。この製作家はピアノを発明した人物として知られています。スカルラッチィはこの製作家のピアノを使っていたと考えられます。明るく輝かしい音の特徴です。	○	ー
	モーツァルト ピアノ	○	○	ー	18世紀後半にウィーンの楽器製作家が作ったピアノです。モーツァルトやベートーヴェンは、この製作家のピアノを高く評価し、演奏していました。輪郭のはっきりとした軽やかな音の特徴です。	○	○
	ベートーヴェン ピアノ	○	○	○	19世紀前半にロンドンのピアノメーカーが作ったピアノです。ハイドンやベートーヴェンは、このメーカーのピアノに触発され、数々の名曲を生み出しました。低音の豊かさや高音のきらびやかさ、エネルギーあふれるフォルティッシモが特徴です。	○	ー
	ショパン ピアノ	○	○	ー	19世紀にバリのピアノメーカーが作ったピアノです。ショパンは繊細なタッチを表現してくれるこのメーカーのピアノをとても愛しました。甘く時に切ない歌声のような音の特徴です。	○	○
エレビ	ステージ エレビ	ー	○	○	音叉をハンマーでたたいて発音させる仕組みの電気ピアノの音です。弱く弾いたときは柔らかく、強く弾くと芯のある音がします。	○	○
	DX エレビ	ー	○	ー	FMシンセサイザーによる電子ピアノの音です。タッチの強弱に応じて音色の変化も楽しめます。ポップスに最適です。	○	○
	ビンテージ エレビ	ー	○	○	薄い金属片をハンマーでたたいて発音させる仕組みの電気ピアノの音です。ロック、ポップスによく使われています。	○	○
	ソフト エレビ	ー	○	○	電気ピアノの独特なバンニング効果を持つ音です。静かなバラードの曲に合います。	○	○

ボイスグループ	ボイス名	ステレオサンプリング	タッチ感度	キーオフサンプリング	ボイス紹介	CLP-785	CLP-775-745-735
エレビ	フェイザー エレビ	—	○	○	個性的なフェイザー効果で、フュージョンにマッチする電気ピアノの音です。	○	○
	DX ブライト	—	○	—	DX エレビとはキャラクターの異なる電子ピアノの音です。ブライトでキラキラしたキャラクターは、音楽のアクセントを持たせます。	○	○
	トレモロ ピンテージ	—	○	○	ピンテージ エレビに適したトレモロ効果を付加した音です。ロック音楽によく使われます。	○	○
オルガン	オルガン グランジュ	○	—	—	フランスのオルガン曲で有名なレジストレーションの音です。曲の終りを締めくくるのに適した豪快な響きが特徴です。	○	—
	オルガン プリンシパル	○	—	—	パイプオルガンのプリンシパル系(金管楽器系)の混合音栓(8フィート+4フィート+2フィート)の音です。バロック時代の教会音楽の演奏に適しています。	○	○
	オルガン トゥッティ	○	—	—	バッハの「トッカータとフーガ」で有名なパイプオルガンのフルカブラーの音です。	○	○
	ジャズ オルガン スロー	—	—	—	電気オルガンのロータリースピーカーがゆっくり回転している時の音です。ジャズ、ロックなどの音楽でよく用いられます。	○	○
	ジャズ オルガン ファスト	—	—	—	電気オルガンのロータリースピーカーが速く回転している時の音です。ジャズ オルガン スローとファストを切り替えると、曲の変化を持たせることができます。	○	○
	メロー オルガン	—	—	—	落ち着いた曲にあう電気オルガンの音です。左のペダルで、ロータリースピーカーの回転の速い/遅いを切り替えることができます。	○	○
	オルガン フルート 1	○	—	—	フルート系パイプオルガンの混合音栓(8フィート+4フィート)の音です。讃美歌の伴奏などに適した柔らかな音です。	○	—
	オルガン フルート 2	○	—	—	フルート系パイプオルガンの混合音栓(8フィート+4フィート+1 (1/3)フィート)の音です。オルガンフルート1よりやや華やかな音色で、ソロ向きです。	○	—
ストリングス	ストリングス	○	○	—	立ち上がりか鋭い弦楽合奏の音です。ピアノとのデュアルでも楽しめます。	○	○
	スロー ストリングス	○	○	—	立ち上がりの緩やかな弦楽合奏の音です。ピアノやエレビとのデュアルに向いています。	○	○
	クワイア	CLP-785: ○ CLP-775/ 745/735: —	○	—	空間に広がる心む合唱の音です。スローな曲で和音の広がりが得られます。	○	○
	スロー クワイア	—	○	—	立ち上がりの緩やかな合唱の音です。ピアノやエレビとのデュアルに向いています。	○	○
	メロー ストリングス	○	○	—	落ち着いた響きの弦楽合奏の音です。ストリングスとのキャラクターの違いが楽しめます。	○	—
	ダーク パッド	—	○	—	温かく広がりのあるシンセ音色です。アンサンブルのバックの通奏音や、ピアノ、エレビなどとのデュアルに最適です。	○	—
	ライト パッド	—	○	—	明るく広がりのあるシンセ音色です。アンサンブルのバックの通奏音や、ピアノやエレビなどとのデュアルに最適です。	○	—
	ベル パッド	○	○	—	ベルの音特徴的なシンセ音色です。単体で弾いても、ピアノやエレビとのデュアルで弾いても、明るく、きらびやかな雰囲気が出せます。	○	—
	シンセ パッド	—	○	—	温かく広がりのあるシンセ音色です。アンサンブルのバックの通奏音や、ピアノやエレビなどとのデュアルに最適です。	—	○
ベース	アコースティックベース	—	○	—	アコースティックベースを指で弾く奏法の音です。ジャズやラテン音楽などによく用いられます。	○	○
	ベース & シンバル	—	○	—	アコースティックベースにシンバルの音を重ねてあります。ジャズのウォーキングベースに用いると効果的です。	○	○
	エレクトリック ベース	—	○	—	輪郭のはっきりとしたエレクトリックベースの音です。ジャズ、ロック、ポップスなどの音楽によく用いられます。	○	○
	フレットレス ベース	—	○	—	フレットのないエレクトリックベースの音です。ジャズ、フュージョンなどの音楽に向いています。	○	○
	ピンテージ ベース	—	○	—	丸く温かみのある音色が特徴のエレクトリックベースの音です。	○	—

ボイスグループ	ボイス名	ステレオサンプリング	タッチ感度	キーオフサンプリング	ボイス紹介	CLP-785	CLP-775-745-735
その他	ハーブシコード 8'	○	—	○	バロック音楽でよく使われるハーブシコードの音です。タッチによる音量変化はなく、鍵盤を離したときには独特の発音があります。	○	○
	ハーブシコード 8'+4'	○	—	○	オクターブ上の音がミックスされたハーブシコードの音です。より華やかさが感じられます。	○	○
	ハーブ	—	○	—	優雅で気品のある響きのグランドハーブの音です。明るいアタックを持ったこの音は、華やかなフレーズが合います。	○	—
	ビブラフォン	○	○	—	広がりがあり澄んだ音色の鉄琴の音です。左のペダルでビブラートのオン/オフを切り替えることができます。	○	○
	マリンバ	○	○	—	柔らかな音色と豊かな低音が特徴の木琴の音です。	○	—
	チェレスタ	○	○	—	チャイコフスキーの組曲「くるみ割り人形」の「こんべい」という踊り」で有名な鍵盤楽器の音です。	○	—
	ナイロン ギター	○	○	—	柔らかく優しい音色のアコースティックギターです。クラシックだけでなく、ポップスやロック、ボサノバにも合います。	○	○
	スチール ギター	—	○	—	明るく華やかな音色のアコースティックギターの音です。ポップスを中心に、様々な音楽ジャンルで使えます。	○	○
	スキャット	—	○	—	ジャズで使われる歌唱法です。鍵盤を弾く強さや音域により、いろいろな音が飛び出します。	○	—
XG	—	—	○	—	XGボイスについては、ウェブサイト(2ページ)上の「データリスト」をご覧ください。	○	—

キーオフサンプリングとは

鍵盤を離したときの微妙な発音をサンプリングしたものです。

NOTE

- ・ピアノグループのボイスはVRMに対応しています。VRMについて詳しくは27ページをご覧ください。
- ・「CFXグランド」と「ベーゼンドルファー」のボイスはグランド・エクスプレッション・モデリングに対応しています。グランド・エクスプレッション・モデリングについて詳しくは27ページをご覧ください。

ボイスデモ一覧

CLP -785	CLP -775 -745 -735	ボイス名	曲名	作曲者
○	○	CFX グランド	演奏会用アレグロ	E. グラナドス
○	○	ペーゼンドルフアー	献呈	F. リスト / R. シューマン
○	○	アップライト ピアノ	ソナチネ へ長調 Anh.5(2) 第1楽章	L. v. ベートーヴェン
○	—	スタジオ グランド	オリジナル	—
—	○	ブライト グランド	オリジナル	—
○	—	スカルラッティ ピアノ	ソナタ ト長調 K.14 L.387	G. D. スカルラッティ
○	○	モーツァルト ピアノ	ソナタ 第16(15)番 八長調 K.545 第1楽章	W. A. モーツァルト
○	—	ベートーヴェン ピアノ	エリーゼのために	L. v. ベートーヴェン
○	○	ショパン ピアノ	ノクターン 第8番 op.27-2	F. F. ショパン
○	○	ステージ エレピ	オリジナル	—
○	○	DX エレピ	オリジナル	—
○	○	ビンテージ エレピ	オリジナル	—
○	—	オルガン グランジュ	オリジナル	—
—	○	オルガン プリンシパル	神のひとり子なる主キリスト (オルガン小曲集)	J. S. バッハ
○	○	オルガン トウッティ	オリジナル	—
○	○	ジャズ オルガン スロー	オリジナル	—
○	○	ストリングス	オリジナル	—
○	○	クワイア	オリジナル	—
○	—	ダーク パッド	オリジナル	—
—	○	シンセ パッド	オリジナル	—
○	○	アコースティック ベース	オリジナル	—
○	○	エレクトリック ベース	オリジナル	—
○	○	フレットレス ベース	オリジナル	—
○	○	ハーブシコード 8'	チェンバロ協奏曲 第7番 ト短調 BWV 1058 第1楽章	J. S. バッハ
○	—	ハーブ	オリジナル	—
○	○	ビブラフォン	オリジナル	—
○	○	ナイロン ギター	オリジナル	—
○	—	XG	オリジナル	—

「オリジナル」は、ヤマハのオリジナル曲です。(© Yamaha Corporation)
「オリジナル」以外のデモ曲は、原曲から編集/抜粋されています。

ソング一覧

クラシック50選

No.	曲名	作曲者
アレンジ曲		
1	カノン	J. バッヘルベル
2	G線上のアリア	J. S. バッハ
3	主よ、人の望みの喜びよ	J. S. バッハ
4	きらきら星	トラディショナル
5	ピアノソナタ 第17番「テンペスト」第3楽章	L. v. ベートーヴェン
6	歓喜の歌	L. v. ベートーヴェン
7	子守唄	F. P. シューベルト
8	華麗なる大円舞曲	F. F. ショパン
9	英雄ポロネーズ	F. F. ショパン
10	ラ・カンパネラ	F. リスト
11	愛のあいさつ	E. エルガー
12	家路	A. ドヴォルザーク
13	シシリエンヌ	G. U. フォーレ
14	月の光	C. A. ドビュッシー
15	木星(組曲「惑星」)	G. ホルスト
連弾曲		
16	メヌエット (アイネ・クライネ・ナハトムジーク)	W. A. モーツァルト
17	メヌエット ト長調	L. v. ベートーヴェン
18	トルコ行進曲	L. v. ベートーヴェン
19	ピアノ協奏曲 第1番 第2楽章	F. F. ショパン
20	くるみ割り人形メドレー	P. I. チャイコフスキー
原曲		
21	前奏曲(平均律第1巻第1番)	J. S. バッハ
22	メヌエット ト長調	J. S. バッハ
23	ピアノソナタ 第15番 第1楽章	W. A. モーツァルト
24	トルコ行進曲	W. A. モーツァルト
25	ピアノソナタ 第8番「悲愴」第2楽章	L. v. ベートーヴェン
26	エリーゼのために	L. v. ベートーヴェン
27	ピアノソナタ 第14番「月光」第1楽章	L. v. ベートーヴェン
28	即興曲 作品90 第2番	F. P. シューベルト
29	春の歌	J. L. F. メンデルスゾーン
30	幻想即興曲	F. F. ショパン
31	別れの曲	F. F. ショパン
32	革命のエチュード	F. F. ショパン
33	小犬のワルツ	F. F. ショパン
34	ノクターン 第2番 変ホ長調	F. F. ショパン
35	ノクターン 第20番 嬰ハ短調 [遺作]	F. F. ショパン
36	トロイメライ	R. シューマン
37	舟歌	P. I. チャイコフスキー
38	乙女の祈り	T. パダジェフスカ
39	愛の夢 第3番	F. リスト
40	花の歌	G. ランゲ
41	ユーモレスク	A. ドヴォルザーク
42	アリエッタ	E. H. グリーグ
43	タンゴ(スペインより)	I. アルベニス
44	エンターテイナー	S. ジョプリン
45	メイプル・リーフ・ラグ	S. ジョプリン

No.	曲名	作曲者
46	亜麻色の髪の乙女	C. A. ドビュッシー
47	アラバスク 第1番	C. A. ドビュッシー
48	ケークウォーク	C. A. ドビュッシー
49	ジユトゥヴ	E. サティ
50	ジムノペディ 第1番	E. サティ

レッスン曲

曲集名	No./作品名	作曲者
バイエルピアノ 教則本	第1～106番	F. バイエル
ブルグミュラー 25の練習曲	1 素直な心	J. F. ブルグミュラー
	2 アラバスク	
	3 牧歌	
	4 子供の集會	
	5 無邪気	
	6 進歩	
	7 清い流れ	
	8 優美	
	9 狩猟	
	10 やさしい花	
	11 せきれい	
	12 さようなら	
	13 なぐさめ	
	14 スティリアの女	
	15 バラード	
	16 小さな嘆き	
	17 おしゃべり	
	18 心配	
	19 アベマリア	
	20 タランテラ	
	21 天使の声	
	22 舟歌	
	23 帰途(かえりみち)	
	24 つばめ	
	25 貴婦人の乗馬	
チェルニー 100番 練習曲	第1～100番	C. チェルニー
チェルニー 30番 練習曲	第1～30番	C. チェルニー
ハノンピアノ教本	第1部 第1～20番、 第1番の変奏 第1～22番	C-L. ハノン

連弾曲について

以下のソングは連弾曲です。

・クラシック50選 No.16～20

・バイエルピアノ教則本 第1～11、32～34、41～44、63～64、86～87

これらの曲では、右手パートが第1奏者右手用、左手パートが第1奏者左手用、その他パートが第2奏者用です。

リズム一覧

カテゴリー	No.	リズム名
ポップ&ロック	1	8ビート
	2	16ビート
	3	シャッフル1
	4	シャッフル2
	5	シャッフル3
	6	ゴスペル
	7	8ビートバラード
	8	6-8スローロック
ジャズ	9	ファストジャズ
	10	スロージャズ
	11	スイング
	12	ジャズワルツ
ラテン	13	サンバ
	14	ボサノバ
	15	ルンバ
	16	サルサ
キッズ&ホリデイ	17	キッズポップ
	18	6-8マーチ
	19	クリスマススイング
	20	クリスマス3-4

メッセージ一覧

メッセージ	内容
オーディオソングへの変換や、再生 / 録音に失敗しました	録音や削除を繰り返し行なったUSBフラッシュメモリーをお使いの場合に、表示されます。USBフラッシュメモリーに必要なデータが入っていないのを確認してからフォーマットし(96ページ)、操作をし直してください。
オーディオに変換します	オーディオ変換中表示されます。
オーディオへの変換を中止しました	オーディオ変換が中止されました。
お待ちください	データを処理していますので、このメッセージが表示されている間はほかの操作ができません。しばらくお待ちください。
書き込みできないUSBメモリーです	ライトプロテクト機能の付いたUSBフラッシュメモリーに、ファイル操作(63ページ)、録音、保存などをしようとしています。USBフラッシュメモリーを書き込み可にして操作し直してください。書き込みを可にしてもこのメッセージが表示される場合は、USBフラッシュメモリーに内部的なプロテクトがかかっている可能性があります。その場合は、書き込みできません。
楽器を初期化しています。「ユーザー」内のソングは消去されません	初期設定に戻していることをお知らせしています。楽器の「ユーザー」内のソングは消去されません。
楽器を初期化しました	この楽器の設定を、初期設定に戻しました。
現在のテンポに変更します	ソングのテンポを書き換えようとしています。
現在のボイスに変更します	ソングの音色を書き換えようとしています。
サポートされていないUSB機器が接続されています	動作確認済みのUSB機器をお使いください(71ページ)。
接続したUSB機器と通信できません	USB機器を接続し直してください(71ページ)。正しく接続してもこのメッセージが表示される場合は、USB機器が壊れている可能性があります。
接続したUSB機器の消費電力が規定値を超えました	通常はバスパワーのUSBハブの使用を推奨していますが、お使いのUSB機器の消費電力が規定値を超えました。電源付き(セルフパワー)のUSBハブをお使いになるか、動作確認済みのUSB機器をお使いください(71ページ)。
接続したUSB機器の数が、この楽器での制限を超えました	同時に使用できるUSB機器は、2台までです。詳しくは、71ページを参照してください。
選択したUSBメモリーへの、ファイル操作はできません	以下の原因が考えられます。 <ul style="list-style-type: none"> ・フォーマットされていないUSBフラッシュメモリーです。フォーマット(96ページ)してから操作してください。 ・ファイル数が保存できる数の制限を超えました。楽器の「ユーザー」内やUSBフラッシュメモリーに保存できるファイル数は、1フォルダーに、ファイルとフォルダーを併せて250までです。その制限を超えて保存しようとしたため、表示されました。不要なファイルを削除/移動してから、保存してください。
前回、不正に電源を切ったため、楽器の内部をチェックしています	ソングファイルの操作時(63ページ)や、データのバックアップ中(100ページ)に電源を切り、もう一度電源を入れた場合に表示されます。内部をチェックした結果、楽器の設定が破損している場合は、初期設定に戻ります。楽器の「ユーザー」内の曲(ソング)が破損している場合は、削除されます。
操作を完了しました	操作の完了を知らせています。「操作を実行しています」メッセージに続いて表示されます。このメッセージが表示されたあと、次の操作へ進めます。
操作を実行しています	操作を実行していますので、このメッセージが表示されている間はほかの操作ができません。しばらくお待ちください。
操作を実行できません	以下の原因が考えられます。原因を解決してから、操作し直してください。 <ul style="list-style-type: none"> ・オーディオソングでは、できない操作です。操作の制限は、63、88ページで確認してください。 ・内蔵曲ではできないファイル操作です。操作の制限は、63ページでご確認ください。 ・空のソング(53ページ)へはソングファイルの操作はできません。
操作/録音先の容量やファイル数がいっぱいです	楽器の「ユーザー」内やUSBフラッシュメモリー内の容量やファイル数がいっぱい、操作/録音ができません。「ユーザー」内やUSBフラッシュメモリー内の曲(ソング)を削除するか、別のUSBフラッシュメモリーに移動してから(65～66ページ)、改めて操作/録音してください。

メッセージ	内容
ソングデータに不具合が発見されました	ソングの選択時や再生中に、ソングデータに不具合が発見されたことを知らせています。もう一度ソングを選択し、再生してください。それでもこのメッセージが表示される場合は、ソングデータが壊れている可能性があります。
ソング(MIDI/オーディオ)データのサイズが制限を超えています	以下の原因が考えられます。 <ul style="list-style-type: none"> 再生しようと選択したソングのサイズが制限を超えています。 サイズの制限は、MIDI: 約500KB、オーディオ: 80分までです。 録音中に、ソングのサイズが制限を超えました。 サイズの制限は、MIDI: 約500KB、オーディオ: 80分までです。 そこで自動的に録音を終了されます。そこまでに録音したデータは保存されます。 MIDI → オーディオソングの変換中に、ソングのサイズが制限を超えました。
ソング名が不適切です	ソング名の変更(67ページ)の際、以下の原因で表示されます。名前を付け直してください。 <ul style="list-style-type: none"> 入力文字がありません。 ソング名の先頭/後尾にピリオドやスペースが入っています。
対応していないデータフォーマットです	読み込もうとしたソングが、この楽器では対応していないフォーマットです。41ページで対応のソングフォーマットを確認してください。
同名ファイルが存在します	ソングファイルの操作時(63ページ)、同名のファイルが存在することを知らせています。上書きする場合は「上書き」、キャンセルする場合は「中止」を[Λ]/[V]ボタンで選び、[>]ボタンを押します。
バックアップデータの復元が完了しました。楽器を再起動します	リストア(101ページ)が完了したことを知らせています。このメッセージのあと、楽器は再起動されます。
ファイルアクセスに失敗しました	以下の原因が考えられます。以下に該当しない場合は、操作しようとしているファイルが壊れていることが考えられます。 <ul style="list-style-type: none"> ファイルの操作方法が間違っています。「ソングファイル进行操作する」(63ページ)や「バックアップ(100ページ)」、「リストア(101ページ)」で操作方法をご確認ください。 接続中のUSBフラッシュメモリーは、この楽器では使用できません。使用できるUSBフラッシュメモリーについては、71ページをご確認ください。
ファイル数、またはファイルパス長が上限を超えています	楽器の「ユーザー」やUSBフラッシュメモリーに保存できるファイル数は、1フォルダーに、ファイルとフォルダーを併せて250までです。その制限を超えて保存しようとしたため、表示されました。不要なファイルを削除/移動して、保存し直してください。
ファイル名が重複しています	ソングファイルの操作時(63ページ)、同名のファイルが存在することを知らせています。ファイル名を変更してください(67ページ)。
フォーマットされていないUSBメモリーです	フォーマットされていないUSBフラッシュメモリーを使おうとしたため、表示されました。フォーマット(96ページ)してから操作してください。
読み取り専用のファイルです	読み取り専用のファイルは、コンピューターで読み取り専用を解除してからお使いください。
Bluetoothのペアリング中です	Bluetoothのペアリング待機状態です。75ページの説明をご覧ください。
USB機器に過電流が流れたため、USB機器との通信を停止しました	USB機器をUSB [TO DEVICE]端子から抜き、楽器の電源を入れ直してください。
USBハブが2階層以上になって接続されました	USBハブは1台のみ使用可能です。
USBメモリーが楽器本体から外されました	USBフラッシュメモリーが外されたことを知らせています。
USBメモリーが接続されていません	USBフラッシュメモリーを接続し、操作をし直してください。
USB/USER FILES/に移動しました	「ユーザー」内のソングファイルを、USBフラッシュメモリー内の「USER FILES」フォルダーへ移動したことを知らせています。
USB/USER FILES/にオーディオ変換しました	MIDIソングを、USBフラッシュメモリー内の「USER FILES」フォルダーへオーディオ変換したことを知らせています。
USB/USER FILES/にコピーしました	「ユーザー」内のソングファイルを、USBフラッシュメモリー内の「USER FILES」フォルダーへコピーしたことを知らせています。

メッセージ	内容
「ユーザー」内に移動しました	USBフラッシュメモリーのソングを、楽器の「ユーザー」へ移動したことを知らせています。
「ユーザー」内にコピーしました	USBフラッシュメモリーのソングを、楽器の「ユーザー」へコピーしたことを知らせています。
「ユーザー」内/USBメモリーの残り容量が少なくなりました	楽器の「ユーザー」内や USBフラッシュメモリー内の不要なファイルを削除(65ページ)してから、録音を始めてください。
この楽器に異常が発生しました	巻末のヤマハ修理ご相談センターに点検をご依頼ください。

困ったときは

画面にメッセージが表示された場合は、メッセージ一覧(108ページ)をご参照ください。

現象	原因と解決法
電源が入らない。	プラグが差し込まれていません。DCプラグを本体のDC IN端子に、電源プラグを家庭用(AC 100V)コンセントに、確実に差し込んでください(14ページ)。
電源スイッチを押して電源を入れたとき、または切ったとき、「カチッ」と音がする。	電気が流れたためです。異常ではありません。
電源が勝手に切れる。	故障ではありません。オートパワーオフ機能が働いたためです。オートパワーオフの設定を変更してください(96ページ)。
画面に「USB機器に過電流が流れたため、USB機器との通信を停止しました」と表示される。また、USB機器が動作しない。	USB機器に過電流が流れたため、USB機器との通信を停止しました。USB機器をUSB [TO DEVICE]端子から抜き、本体の電源を入れ直してください。
鍵盤を弾くと、機構音がカタカタ鳴る。	この楽器の鍵盤機構は、ピアノの鍵盤機構をシミュレートして設計されています。ピアノの場合でも機構音は実際に出ているものです。異常ではありません。
クラビノーバから雑音が出る。	クラビノーバの近くで携帯電話を使ったり、呼び出し音が鳴ったりすると、雑音が出る場合があります。クラビノーバの近くに携帯電話を置かないでください。
iPhone/iPadなどのスマートデバイスと楽器と一緒に使っているとき、本体スピーカーやヘッドホンから雑音(ノイズ)が出る。	スマートデバイスと一緒に使用する場合は、通信によるノイズを避けるため機内モードをオンにしてからWi-Fi/Bluetoothをオンにしてお使いいただくことをおすすめします。
全体的に音が小さい。または、まったく音が出ない。	音量(マスターボリューム)が下がっています。[MASTER VOLUME]スライダーで音量を上げてください(19ページ)。
	手弾き音の音量が下がっています。ソングメニュー画面の「音量」→「ソング - 鍵盤」で調節してください(50ページ)。
	スピーカーの設定が「標準」で(96ページ)、ヘッドホンを接続しているとスピーカーからは音が出ません。ヘッドホンのプラグを抜いてください。変換プラグを使っている場合は変換プラグも抜いてください。
	スピーカーの設定が「Off (オフ)」になっています。スピーカーの設定を「標準」または「On (オン)」にしてください。 システムメニュー画面の「ユーティリティ」→「スピーカー」(96ページ)。
	ローカルコントロールが「Off (オフ)」になっています。ローカルコントロールを「On (オン)」にしてください。 システムメニュー画面の「MIDI」→「ローカルコントロール」(95ページ)。
	(CLP-785) AUXペダルの機能が「エクスプレッション」に設定されています。ペダルの機能を「エクスプレッション」以外に設定してください。 システムメニュー画面の「ペダル」→「Auxペダル - 機能」(94ページ)。
ヘッドホンを[PHONES]端子に差ししてもスピーカーから音が出る。	スピーカーの設定が「On (オン)」になっています。スピーカーの設定を「標準」にしてください。 システムメニュー画面の「ユーティリティ」→「スピーカー」(96ページ)。
ペダルが効かない。	ペダルコードのプラグが[PEDAL]端子にしっかり差し込まれていません。本体の電源を切った状態で、ペダルコードのプラグを[PEDAL]端子に確実に差し込んでください。その際、プラグの金属部分が見えなくなるまで、しっかり差し込んでください(116、119、122ページ)。
(CLP-785) [AUX PEDAL]端子に接続したペダルのオン/オフ(強/弱)が逆になる	接続するペダルの種類によって、オン/オフや強/弱の動作が逆になる場合があります。システムメニュー画面の「ペダル」→「Auxペダル」(94ページ)で設定を切り替えてください。
鍵盤で弾く音がソングの再生音に比べて小さい。	手弾き音の音量が下がっています。ソングメニュー画面の「音量」→「ソング - 鍵盤」(88ページ)で調節してください。
ボタンを押しても動作しない。	ほかの機能の動作中にはできない操作がいくつかあります。ソングの再生中はソングの再生を止めて、その他の場合は[EXIT]ボタンを押してボイス画面やソング画面に戻ってから操作してください。

現象	原因と解決法
特定の音域でピアノ音色の音の高さ、音質がおかしい。	ピアノ音色では、ピアノ本来の音をできる限り忠実に再現しようとしています。その結果、音域により倍音が強調されて聞こえるなど、音の高さや音域が異質に感じる場合があります。異常ではありません。
トランスポーズやオクターブを設定したときに、高い方や低い方の音がおかしい。	トランスポーズやオクターブを設定したときに、発音できる音域はC -2～G8です。C -2より低くなる音は1オクターブ上の音で、G8より高くなる音は1オクターブ下の音で鳴ります。
デュアル/スプリット/デュオで録音したはずの音が録音されていない。または思わぬパートのデータが消えてしまった。	曲の途中でのデュアル/スプリット/デュオへの切り替えは録音されません。また、デュアルの第2ボイス、スプリット/デュオの左側のボイスの録音パートは自動的に決められます(55ページ)。したがって、それらのパートに既存のデータがあった場合は、上書きされて消えてしまいます。
デュオのとき、音が片方のスピーカーからしか聞こえない。	ボイスにより、パンの設定が違うためです。システムメニュー画面でデュオの「タイプ」(93ページ)を「セパレート」から「バランス」に変更するか、ボイスメニュー画面でボイスの「パン」(85ページ)を変更してください。
ソング名表示がおかしい。	名前を付けたときと異なる言語表示に設定されていたり、ほかの楽器で録音した曲の場合は、正しく表示されないことがあります。システムメニュー画面の「ユーティリティ」→「言語設定」→「ソング」(97ページ)で、設定を切り替えてください。ただし、ほかの楽器で録音した曲の場合は、言語表示を切り替えても正しく表示されないことがあります。
メニュー画面が表示されない。	ソング再生中は、ボイスメニュー、ソングメニュー以外のメニュー画面は表示されません。[PLAY/PAUSE]ボタンを押してソングをストップしてください。また録音モード時は、録音メニュー画面しか表示されません。
リズムがスタートしない。	シンクロ再生が「On (オン)」になっています。メトロノーム/リズムメニュー画面のシンクロ再生の設定を「Off (オフ)」にしてください(91ページ)。
鍵盤を弾くと、再生中のメトロノーム、MIDIソング、リズムのテンポがわずかに乱れる。	グランド・エクスプレッション・モデリングが「ダイナミック」の場合に、ごくまれに起きる現象です。このような場合には、「スタティック」に変更してください(27ページ)。
USB無線LANアダプターが接続されているにもかかわらず、画面に無線LANの項目が表示されない。	USB無線LANアダプターを接続し直してください。
Bluetooth対応のスマートデバイスとBluetoothで接続できない。	スマートデバイスのBluetooth機能が有効か確認してください。Bluetoothでペアリングまたは接続するには、この楽器とスマートデバイス両方のBluetooth機能を有効にする必要があります。
	Bluetoothで接続してスマートデバイスのオーディオ再生音を楽器のスピーカーで再生するには、はじめに機器同士をペアリングする必要があります(75ページ)。
	2.4GHz帯の電磁波を発するもの(電子レンジ、無線LAN機器など)が近くにある場合は、電磁波を発するものからこの楽器を離してください。

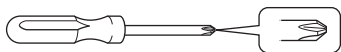
クラビノーバを組み立てる

組み立て時の注意

⚠ 注意

- 硬くて平らな場所で組み立ててください。
- 部品をまちがえたり、向きをまちがえないように注意して、手順どおりに組み立ててください。
- 組み立ては、必ず2人以上で行なってください。
- ネジは付属の指定サイズ以外のは使用しないでください。サイズの違うネジを使用すると、製品の破損や故障の原因になることがあります。
- ネジは各ユニット固定後、ゆるみがないようきつく締め直してください。
- 解体するときは、組み立てと逆の手順で行なってください。

ネジのサイズに合ったプラス(+)のドライバーを用意してください。



組み立て方

CLP-785	114ページ
CLP-775	118ページ
CLP-745	121ページ
CLP-735	121ページ

組み立て後、必ず以下の点をチェックしてください。

- 部品が余っていませんか？
→ 組み立て手順を再確認してください。
- 部屋のドアなどがクラビノーバにあたいませんか？
→ クラビノーバを移動してください。
- クラビノーバがぐらぐらしませんか？
→ ネジを確実に締めてください。
- ペダルを踏むと、ペダルボックスがガタガタしませんか？
→ アジャスターを回して床にぴったりつけてください。
- ペダルコード、電源アダプターのプラグが、確実に本体に差し込まれていますか？
→ 確認してください。

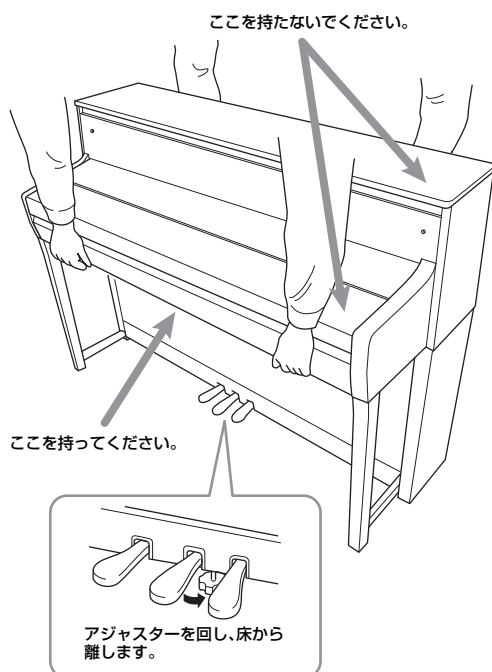
本体を移動するとき

⚠ 注意

- 組み立て後、本体を移動するときは、必ず本体の底面を持ってください。
- 本体上部の板やキーカバーを持たないでください。本体が破損したり、お客様がけがをしたりする原因になります。

注記

ペダル下のアジャスターを回し、床から離してから移動してください。床を傷つける原因になります。



引っ越し時の運搬方法

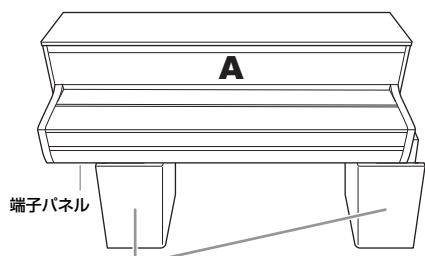
通常の荷物と一緒に運べます。組み立てた状態でも、組み立て前の部品に解体した状態でも問題ありませんが、本体は立てかけたりせず、必ず水平に置いてお運びください。また、大きな振動、衝撃を与えないでください。組み立てた状態でお運びいただいた場合は、設置の際、各部のネジのゆるみを確認し、ゆるんでいる場合は締め直してください。

⚠ 注意

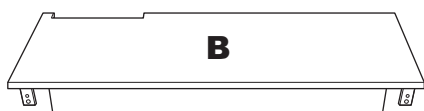
使用中に本体がきしむ、横ゆれする、ぐらぐらするなどの症状がでたら、組み立て図に従って各部のネジを締め直してください。

CLP-785の組み立て方

すべての部品を取り出し、部品がそろっているか確かめてください。

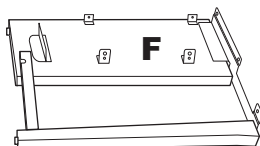
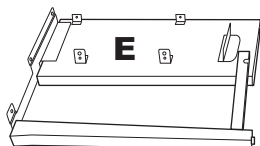


スチロールパッド
スチロールパッドを取り出し、その上にAを置きます。
スチロールパッドはA底面の端子パネルを避けて配置します。



裏側にペダルコードが束ねてあります。

ペダルには、工場出荷時にビニール袋をかぶせてあります。必ず組み立て前にビニール袋を外してください。



丸い頭のネジ(6×20mm)×4



コードホルダー×2



平らな頭のネジ(6×20mm)×6



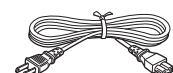
細いネジ(4×10mm)×2



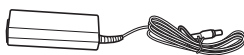
丸い頭のネジ(4×14mm)×10



ヘッドホンハンガー

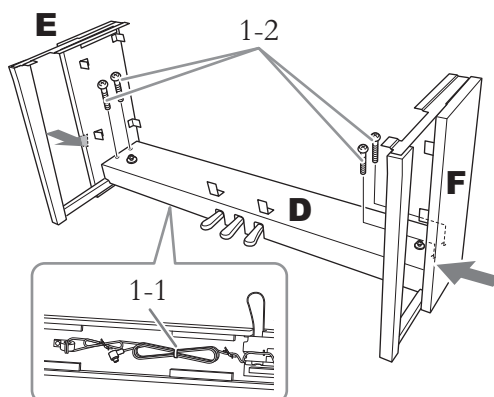


電源コード



電源アダプター

1. EとFをDに固定します。

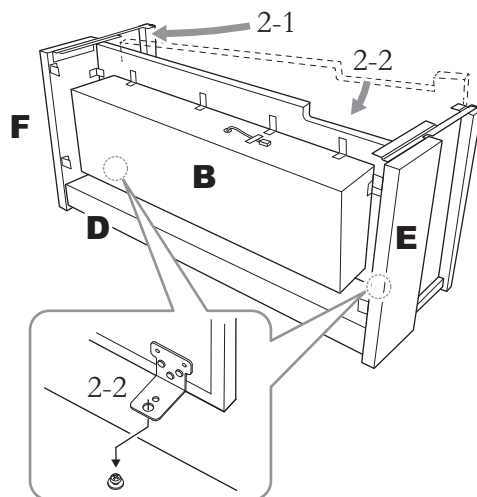
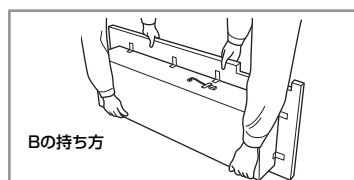


1-1. ペダルコードを束ねているビニールひもをほどきます。

外したビニールひもは、手順6で使用します。

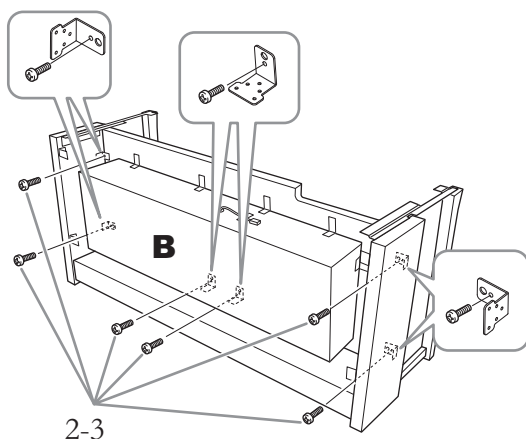
1-2. EとFの下部を左右から押しながら、丸い頭のネジ(6×20mm) 4本で固定します。

2. Bを固定します。



2-1. Bを図のようにEとFのあいだに入れます。

2-2. BをD/E/Fの前側に合わせてはめ込みます。このとき、Dのネジに、Bの金具の大きい方の穴をひっかけます。

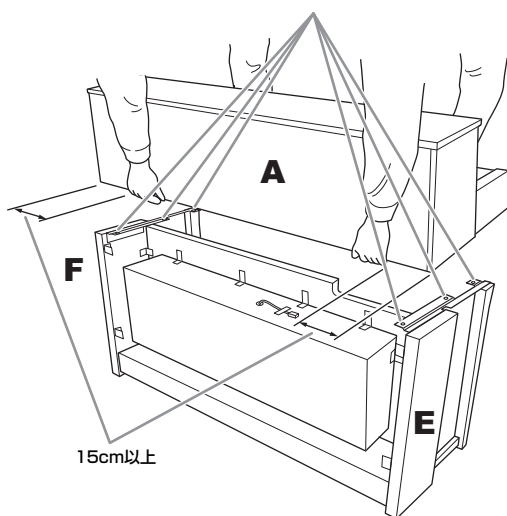


- 2-3. 丸い頭のネジ(4×14mm) 6本で仮留めします。**
金具の小さい方の穴にネジを差し込みます(6か所と
も)。

3. Aを載せます。

必ず本体底面の端から15cm以上内側を持って載せ
ます。

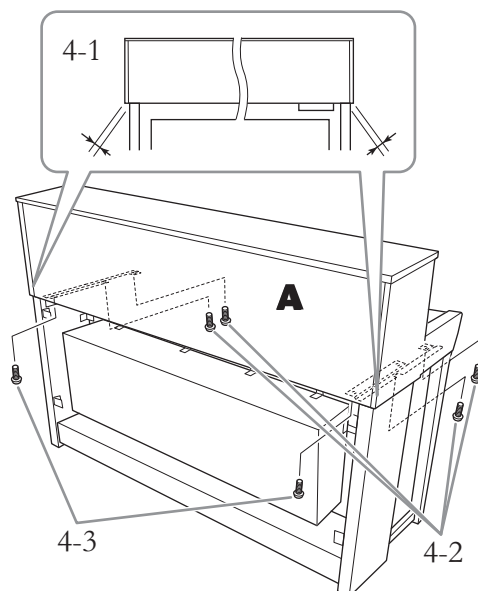
ネジ穴の位置を合わせます。



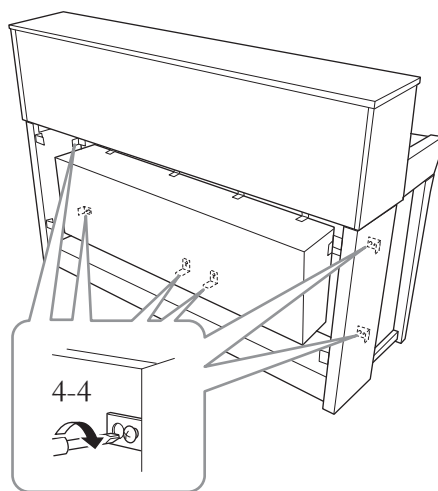
⚠ 注意

- 指をはさんだり、本体を落としたりしないよう、十分ご注意ください。
- 指定した位置以外を持たないでください。

4. Aを固定します。

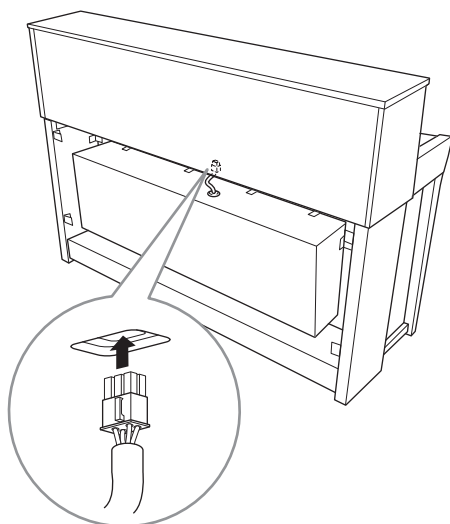


- 4-1. 背面から見て、Aの張り出し部分が左右均等になるよう調整します。
- 4-2. 前面から、平らな頭のネジ(6×20mm) 4本で固定します。
- 4-3. 背面から、平らな頭のネジ(6×20mm) 2本で固定します。



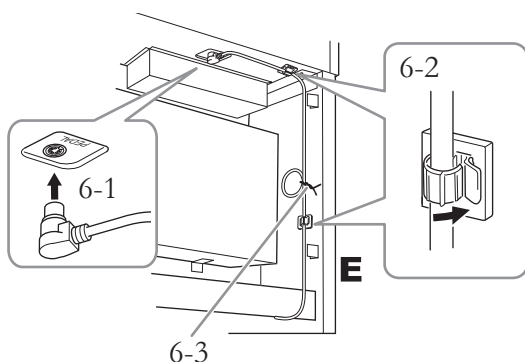
- 4-4. Bを仮留めしたネジ(手順2-3)を上側 → 下側の順にきつく締め直します。

5. スピーカーコードを接続します。



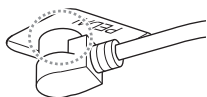
- 5-1. スピーカーコードをほどきます。
- 5-2. スピーカーコードのプラグを、つめが背面から見て手前になる向きで、端子に差し込みます。

6. ペダルコードと電源アダプターを接続します。



- 6-1. ペダルコードのプラグを[PEDAL]端子に差し込みます。

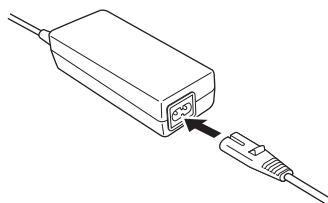
プラグの金具部分が見えなくなるまでしっかり差し込んでください。しっかり差し込まれていない場合、ペダルが機能しない原因になります。



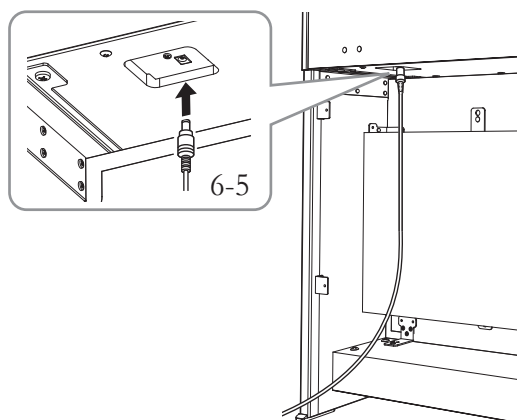
- 6-2. コードホルダーを貼り付け、ペダルコードを固定します。このとき、プラグとコードホルダーの間でペダルコードがたるまないようにご注意ください。

- 6-3. ペダルコードを、ビニールひもで束ねます。

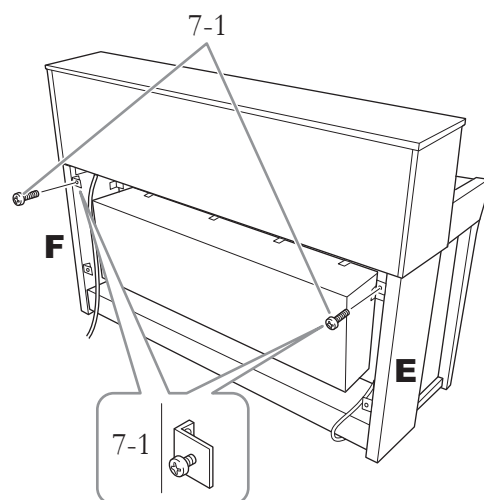
- 6-4. 電源コードの一方の端を電源アダプターに差し込みます。



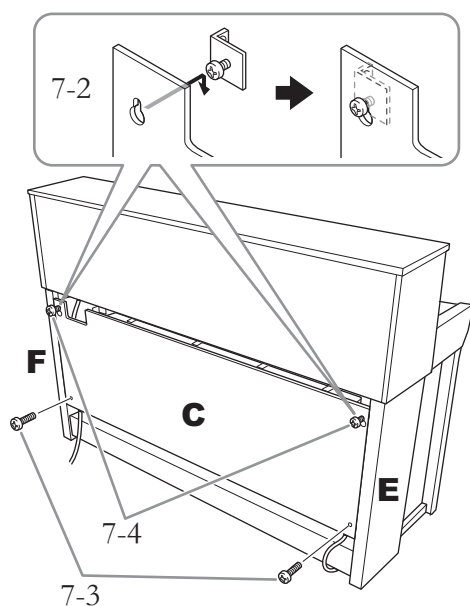
- 6-5. 電源アダプターのDCプラグをDC IN端子に差し込みます。



7. Cを固定します。



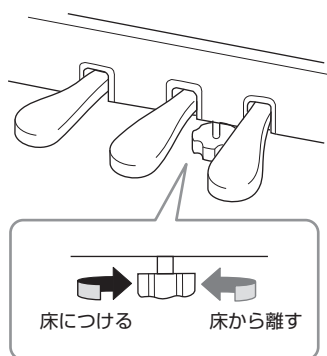
- 7-1. EとFの上側の金具に丸い頭のネジ(4×14mm) 2本を取り付けます。
ネジは完全に締めず、浮かせた状態にします。



- 7-2. Cの穴を手順7-1で取り付けしたネジに引っ掛けます。
- 7-3. Cの下側を丸い頭のネジ(4×14mm) 2本で固定します。
- 7-4. Cの上側のネジを固定します。

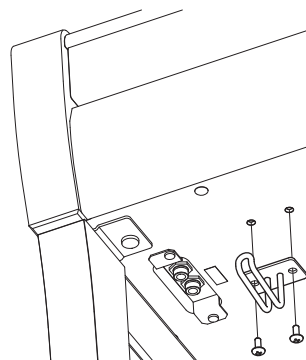
8. アジャスターを回して調節します。

アジャスターを回して、床にぴったりつけます。



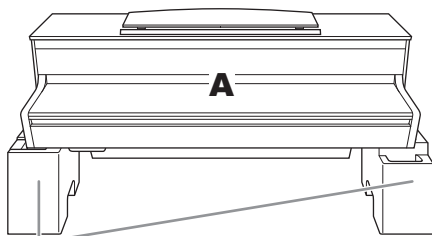
9. ヘッドホンハンガーを固定します。

細いネジ(4×10mm) 2本で、図のように取り付けます。



CLP-775の組み立て方

すべての部品を取り出し、部品がそろっているか確かめてください。



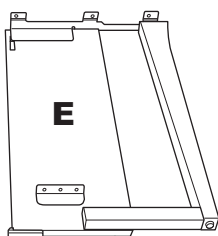
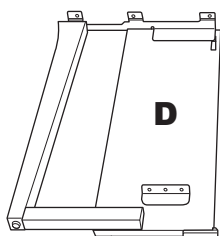
スチロールパッド

スチロールパッドを取り出し、その上にAを置きます。
スチロールパッドは、A底面のスピーカーボックスを避けて配置します。



裏側にペダルコードが束ねてあります。

ペダルには、工場出荷時にビニール袋をかぶせてあります。必ず組み立て前にビニール袋を外してください。



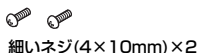
太いネジ(6×20mm)×10



コードホルダー×2



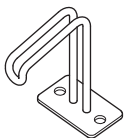
細いネジ(4×12mm)×2



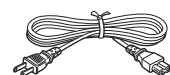
細いネジ(4×10mm)×2



先のとがったネジ(4×20mm)×4



ヘッドホンハンガー

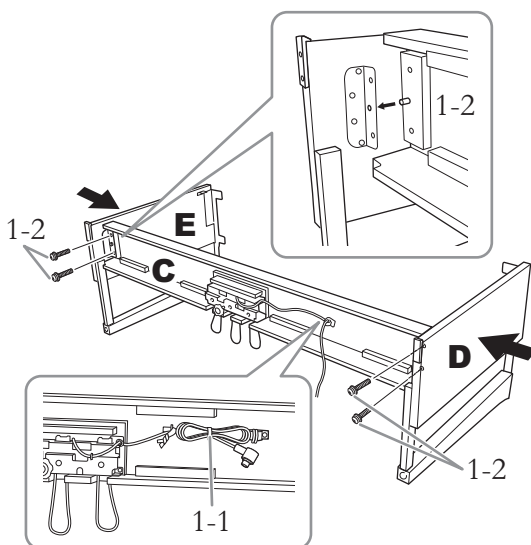


電源コード



電源アダプター

1. DとEをCに固定します。

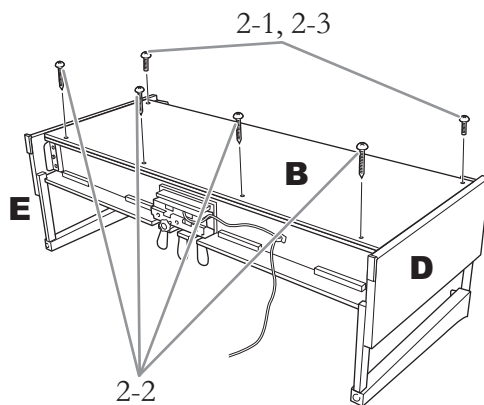


1-1. ペダルコードをほどきます。外したビニールひもは、手順5で使用します。

1-2. 突起を金具に挿入し、太いネジ(6×20mm) 4本できつく締め固定します。

2. Bを固定します。

モデルによっては、Bの裏表で色が違う場合があります。この場合は、演奏者側から見たときにBの色とD、Eの色が同じになる向きで、Bを取り付けます。



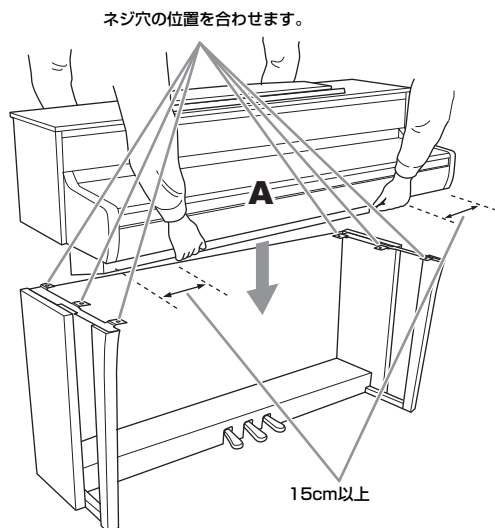
2-1. Bのネジ穴とD、Eのネジ穴の位置を合わせ、上側を細いネジ(4×12mm) 2本で仮留めします。

2-2. 下側を先のとがったネジ(4×20mm) 4本で締め固定します。

2-3. 仮留めした上側のネジ(手順2-1)をきつく締め直します。

3. Aを載せます。

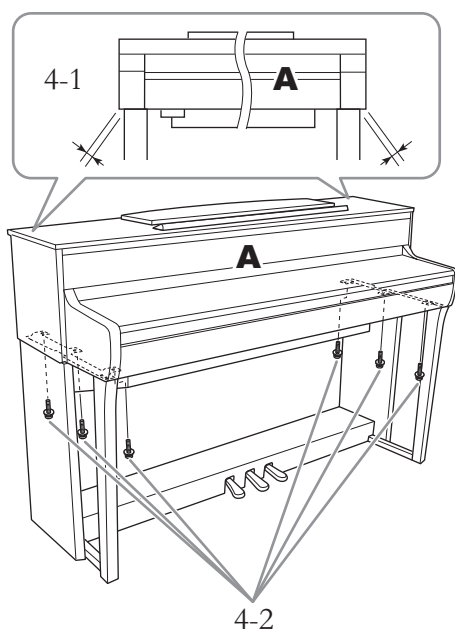
必ず本体底面の端から15cm以上内側を持って載せます。



注意

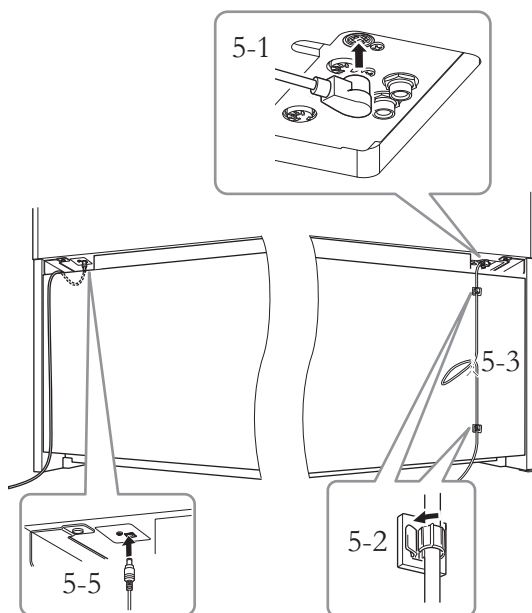
- 指をはさんだり、本体を落としたりしないよう十分ご注意ください。
- 指定した位置以外を持たないでください。

4. Aを固定します。



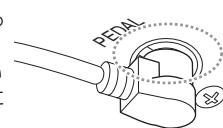
- 4-1. 前面から見て、Aの張り出し部分が左右均等になるように調整します。
- 4-2. 前面から、太いネジ(6×20mm) 6本で固定します。

5. ペダルコードと電源アダプターを接続します。

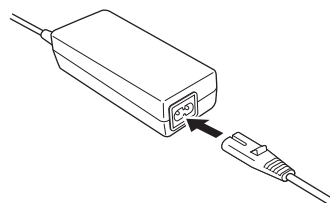


- 5-1. ペダルコードのプラグを[^{ペダル}PEDAL]端子に差し込みます。

プラグの金具部分が見えなくなるまでしっかり差し込んでください。しっかり差し込まれていない場合、ペダルが機能しない原因になります。



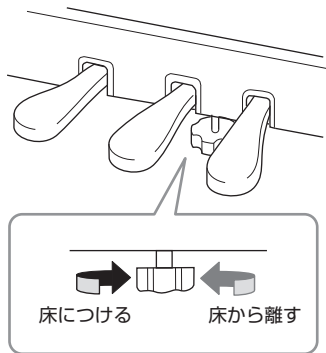
- 5-2. コードホルダーを貼り付け、ペダルコードを固定します。
- 5-3. ペダルコードを、ビニールひもで束ねます。
- 5-4. 電源コードの一方の端を電源アダプターに差し込みます。



- 5-5. 電源アダプターのDCプラグをDC IN端子に差し込みます。

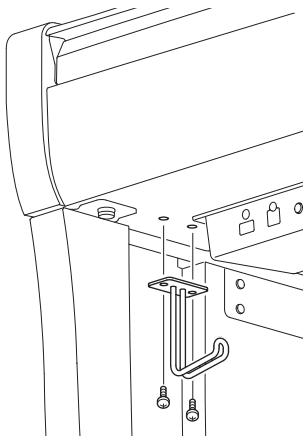
6. アジャスターを回して調節します。

アジャスターを回して、床にぴったりつけます。



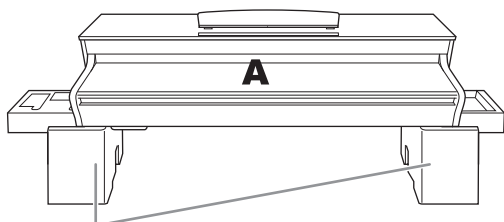
7. ヘッドホンハンガーを固定します。

細いネジ(4×10mm) 2本で、図のように取り付けます。



CLP-745, CLP-735の 組み立て方

すべての部品を取り出し、部品がそろっているか確かめてください。



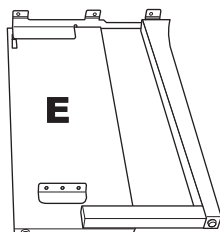
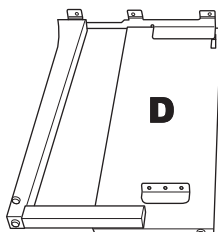
スチロールパッド

スチロールパッドを取り出し、その上にAを置きます。
スチロールパッドは、A底面の端子を避けて配置します。



裏側にペダルコードが束ねてあります。

ペダルには、工場出荷時にビニール袋をかぶせてあります。必ず組み立て前にビニール袋を外してください。



太いネジ(6×20mm)×10



細いネジ(4×12mm)×2



先のとがったネジ(4×20mm)×4



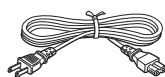
コードホルダー×2



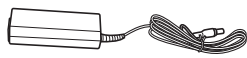
細いネジ(4×10mm)×2



ヘッドホンハンガー

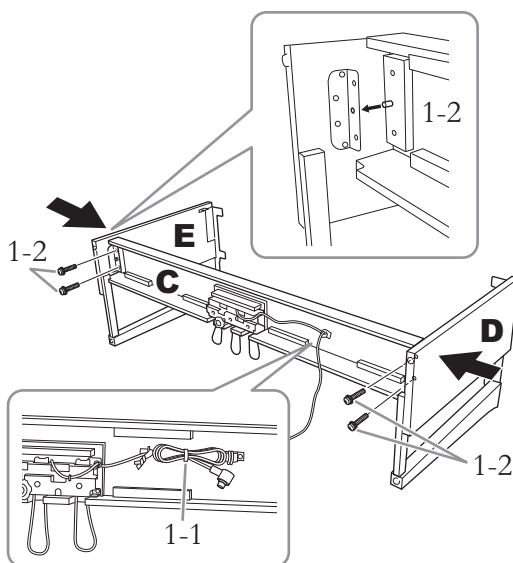


電源コード



電源アダプター

1. DとEをCに固定します。



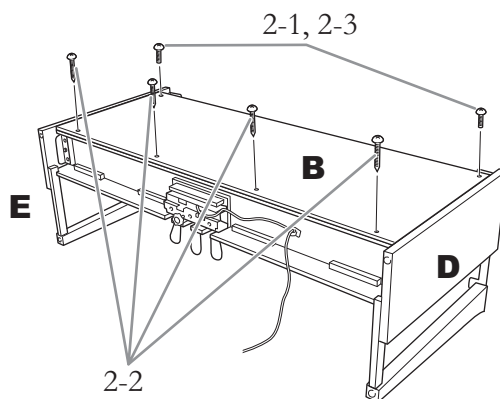
1-1. ペダルコードをほどきます。外したビニールひもは、手順5で使用します。

1-2. 突起を金具に挿入し、太いネジ(6×20mm) 4本できつく締め固定します。

2. Bを固定します。

モデルによっては、Bの裏表で色が違う場合があります。

この場合は、演奏者側から見たときにBの色とD、Eの色が同じになる向きで、Bを取り付けます。



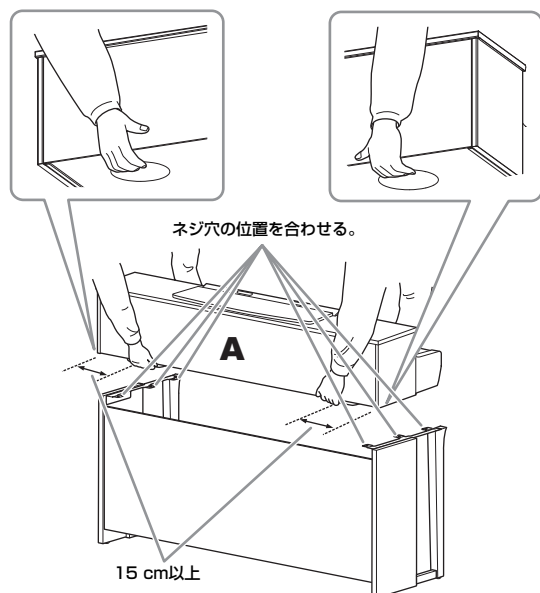
2-1. Bのネジ穴とD、Eのネジ穴の位置を合わせ、上側を細いネジ(4×12mm) 2本で仮留めします。

2-2. 下側を先のとがったネジ(4×20mm) 4本で締め固定します。

2-3. 仮留めした上側のネジ(手順2-1)をきつく締め直します。

3. Aを載せます。

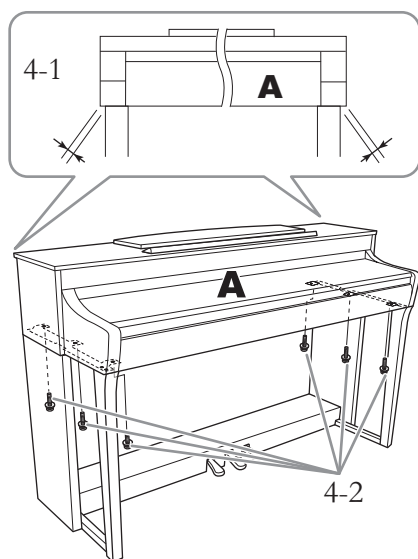
必ず本体底面の端から15cm以上内側を持って載せます。



⚠ 注意

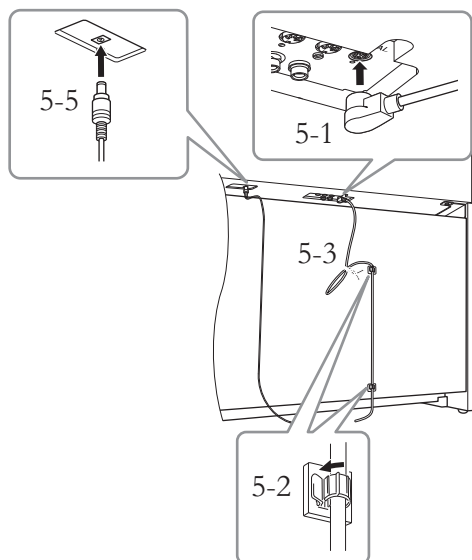
- 指をはさんだり、本体を落としたりしないよう十分ご注意ください。
- 指定した位置以外を持たないでください。

4. Aを固定します。



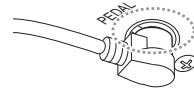
- 4-1. 前面から見て、Aの張り出し部分が左右均等になるように調整します。
- 4-2. 前面から、太いネジ(6×20mm) 6本で固定します。

5. ペダルコードと電源アダプターを接続します。

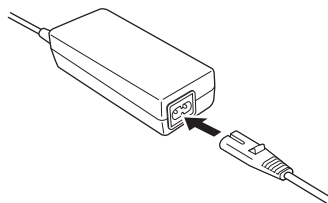


- 5-1. ペダルコードのプラグを[PEDAL]端子に差し込みます。

プラグの金具部分が見えなくなるまでしっかり差し込んでください。しっかり差し込まれていない場合、ペダルが機能しない原因になります。



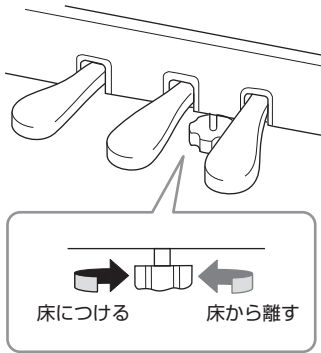
- 5-2. コードホルダーを貼り付け、ペダルコードを固定します。
- 5-3. ペダルコードを、ビニールひもで束ねます。
- 5-4. 電源コードの一方の端を電源アダプターに差し込みます。



- 5-5. 電源アダプターのDCプラグをDC IN端子に差し込みます。

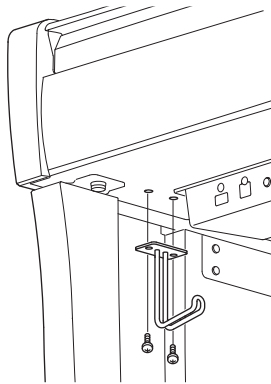
6. アジャスターを回して調節します。

アジャスターを回して、床にぴったりつけます。



7. ヘッドホンハンガーを固定します。

細いネジ(4×10mm) 2本で、図のように取り付けます。



仕様

項目			CLP-785	CLP-775	CLP-745	CLP-735	
品名			電子ピアノ				
サイズ/質量	幅 [つや出し仕上げのモデルの場合]		1461 mm [1467 mm]	1461 mm [1466 mm]			
	高さ [つや出し仕 上げのモデル の場合]	譜面立てを倒した場合	1027 mm [1029 mm]	967 mm [970 mm]	927 mm [930 mm]		
		譜面立てを立てた場合		1136 mm [1137 mm]	1096 mm [1097 mm]	1081 mm [1082 mm]	
	奥行き [つや出し仕上げのモデルの場合]		476 mm [477 mm]	465 mm [465 mm]	459 mm [459 mm]		
	質量 [つや出し仕上げのモデルの場合]		84 kg [87 kg]	71 kg [74 kg]	60 kg [63 kg]	57 kg [60 kg]	
操作子	鍵盤	鍵盤数	88				
		鍵盤種	グランドタッチ鍵盤 木製(白鍵)、象牙調・黒檀調仕上げ、 エスケープメント付き		グランドタッチ-エス 鍵盤 木製(白鍵)、象牙調・ 黒檀調仕上げ、エス ケープメント付き	グランドタッチ-エス 鍵盤 象牙調・黒檀調仕上 げ、エスケープメント 付き	
		88鍵リニアグレード ハンマー	○		—		
		カウンターウェイト	○	—			
		タッチ感度	ハード2、ハード1、ミディアム、ソフト1、ソフト2、固定				
	ペダル	ペダル数	3: ダンパー (ハーフペダル対応)、ソフト、ソステヌート				
		割当可能な機能	サステイン(スイッチ)、サステイン(連続)、ソステヌート、ソフト、 ピッチベンドアップ、ピッチベンドダウン、ロータリースピード、パイプローター、 ソングスタート/一時停止				
		GPレスポンス ダンパーペダル	○		—		
	ディスプレイ	タイプ	フルドットLCD				
		サイズ	128 x 64 ドット				
		言語	日本語、英語				
	パネル	タイプ	タッチセンサー		ボタン		
		言語	英語				
	本体	キーカバー (鍵盤蓋)		回転式	スライド式		
		譜面立て		○			
譜面止め		○					
音源/音色	音源	ピアノ音	ヤマハ CFXサンプリング、 ベーゼンドルファー インペリアルサンプリング				
		バイノーラル サンプリング	○ (「CFXグランド」「ベーゼンドルファー」のみ)				
	ピアノ音源の 効果	VRM	○				
		グランド・エクスプレッ ション・モデリング	○				
		キーオフサンプリング	○				
		スムーズリリース	○				
	最大同時発音数		256				
	プリセット	音色数	53ボイス + 480XGボイス + 14ドラム/SFXキット	38			
	対応フォーマット		XG (GM)、 GS (再生専用)、 GM2 (再生専用)	—			
効果	タイプ	リバーブ	6種類				
		コーラス	3種類				
		ブリリアンス	7種類+ユーザー				
		エフェクト	12種類				

項目			CLP-785	CLP-775	CLP-745	CLP-735
効果	タイプ	インテリジェント・アコースティック・コントロール(IAC)	○			
		ステレオフォニックオプティマイザー	○			
	ファンクション	デュアル	○			
		スプリット	○			
		デュオ	○			
録音/再生 (MIDIソング)	プリセット	内蔵曲数	ボイスデモ 25 + クラシック曲 50 + レッスン曲 303	ボイスデモ 21 + クラシック曲 50 + レッスン曲 303		
	録音	曲数	250			
		トラック数	16			
		データ容量	1曲 約500KB			
	再生	データ容量	1曲 約500KB			
	フォーマット	再生	SMF (フォーマット0、フォーマット1)			
録音		SMF (フォーマット0)				
録音/再生 (オーディオ)	録音時間(最大)		80分/曲			
	フォーマット	再生	WAV (44.1kHz、16bit、ステレオ)			
		録音	WAV (44.1kHz、16bit、ステレオ)			
ファンクション	リズム	プリセット	20			
	全体設定	メトロノーム	○			
		テンポ	5～500			
		トランスポーズ	-12～0～+12			
		チューニング	414.8～440.0～466.8 Hz (約0.2Hz単位)			
		スケール(音律)	7種類			
		USBオーディオインターフェース機能	44.1 kHz、24 bit、ステレオ			
	その他	ピアノルーム	○			
Bluetooth 接続	オーディオ	対応プロファイル	A2DP			—
		対応コーデック	SBC			—
		MIDI	Bluetooth Low Energy MIDI Specificationに準拠			—
	Bluetoothバージョン		4.2			—
	無線出力		Bluetooth Class 2			—
	最大通信距離		約10 m			—
	無線周波数(動作周波数)		2402～2480MHz			—
	最大出力電力		4dBm			—
	変調方式		FHSS			—
メモリー / 接続端子	メモリー	内蔵メモリー	約1.4MB			
		外付けメモリー	USBフラッシュメモリー			
	接続端子	DC IN	24V			16V
		ヘッドホン	ステレオ標準フォーン端子(×2)			
		MIDI	[IN] [OUT] [THRU]			
		AUX IN	ステレオミニ端子			
		AUX OUT	[L/L+R] [R]			
		AUX PEDAL	○	—		
		USB TO DEVICE	○			
USB TO HOST	○					

項目		CLP-785	CLP-775	CLP-745	CLP-735
音響	アンプ出力	(50 W + 50 W + 50 W) x 2	(50 W + 50 W + 42 W) x 2	(50 W + 50 W) x 2	30 W x 2
	スピーカー	(16 cm + 8 cm + 2.5 cm (ドーム型) + トランスデューサー) x 2、スプルスコーンスピーカー	(16 cm + 8 cm + 5 cm + トランスデューサー) x 2	(16 cm + 8 cm) x 2	16 cm x 2
電源部	電源アダプター	PA-500			PA-300C
	消費電力	60 W (電源アダプター PA-500使用時)	50 W (電源アダプター PA-500使用時)	40 W (電源アダプター PA-500使用時)	18 W (電源アダプター PA-300C使用時)
	オートパワーオフ	○			
付属品		<ul style="list-style-type: none"> 取扱説明書 保証書 ヘッドホン 楽譜集 製品登録のご案内 イス (CLP-785, CLP-775, CLP-745) 電源コード/電源アダプター PA-500 (CLP-735) 電源コード/電源アダプター PA-300C 			
別売品		<ul style="list-style-type: none"> ヘッドホン HPH-150, HPH-100, HPH-50 (CLP-785) フットスイッチ FC4A, FC5 (CLP-785) フットコントローラー FC7 (CLP-785, CLP-775, CLP-745) 電源アダプター PA-500 (CLP-735) 電源アダプター PA-300C USB無線LANアダプター UD-WL01 ワイヤレスMIDIアダプター MD-BT01, UD-BT01 			

本書は、発行時点での最新仕様で説明しています。最新版は、ヤマハウェブサイトからダウンロードできます。

別売ミュージックデータ紹介

ミュージックデータのご使用にあたって

ミュージックデータをご使用の際は、下記ウェブサイトで案内している動作確認済みのUSBフラッシュメモリーをお使いください。

サポート・お問い合わせ

<https://jp.yamaha.com/support/>

*「その他のドキュメント」からモデル名で検索してください。

ヤマハミュージックデータショップ

MIDI形式の曲データ、および楽譜データなどのミュージックデータを、インターネットで購入できるサービスです。J-POPからジャズ、クラシックまで幅広いラインナップをとりそろえており、試聴しながら1曲ずつ簡単に購入できます。

下記のURLからアクセスしてください。

<https://yamahamusicdata.jp/>

「ピアノ演奏用」データ

右手、左手パートなど個別再生して練習したり、お好みのテンポに調整して演奏したりすることができます。

また、CLP-785では、「ピアノ演奏用伴奏付」データもご利用頂けます。豪華な伴奏をバックに演奏を楽しむことができます。

「リスニングピアノソロ」データ

好きな曲の鑑賞やBGM再生を楽しめます。弾き方やアレンジの参考としても活用できます。

Mumaソフト

Muma (ミューマ)とは、ヤマハのお店にあるミュージックデータ販売システムです。好きなミュージックデータを選び、その場でUSBフラッシュメモリーに収録できます。

* USBフラッシュメモリーはご持参ください。購入前には試聴も可能です。

ミュージックデータの詳細やMuma設置店については、ヤマハミュージックメディアホームページにてご確認ください。

<https://www.ymm.co.jp/muma/>

ヤマハのミュージックデータのほかにも、41ページで説明したフォーマットに該当する、市販の多くのソフトがご利用いただけます。

NOTE

Mumaとヤマハミュージックデータショップで購入できるミュージックデータは、異なります。

索引

A

ABリピート	48
Auxペダル	94

B

Bluetooth	9, 75, 77
-----------------	-----------

E

EQ	32
----------	----

G

GPLレスポンスダンパーペダル	21
-----------------------	----

I

IAC	19
-----------	----

M

MASTER VOLUME	19
MIDI	94
MIDIソング	41
MIDIリファレンス	2
MIDI録音	52

U

USBオーディオインターフェース機能	73
USB機器	71
USB自動ロード	96
USBフラッシュメモリー	71
USBプロパティ	96
USB無線LANアダプター	78

V

VRM	26, 27
-----------	--------

W

WPS	79
-----------	----

X

XGボイス	28, 29
-------------	--------

ア

アクセスポイントモード	81, 99
アリコート	27
アリコートレゾナンス	26

イ

移動	66
インテリジェント・アコースティック・コントロール (IAC)	19
イントロ	40, 91
インフラストラクチャーモード	98

エ

エフェクト	32
エフェクトタイプリスト	87
エンディング	40, 91

オ

オーディオソング	41
オーディオ変換	67

オーディオループバック	73
オーディオ録音	52
オートバックライトオフ	97
オートパワーオフ	16
大屋根の開閉	26
オクターブ	85
音の高さ(マスターチューニング)	26, 93
音響	94
音律	93, 97
音量	19
音量(MIDIソング)	50
音量(オーディオソング)	50
音量(ボイス)	85
音量(メトロノーム)	91
音量バランス	50

キ

キーカバー	14, 16
-------------	--------

ク

組み立て	113
クラシック50選	42, 106
グランド・エクスプレッション・モデリング	27
グランドエクスプレッション	27
繰り返し再生	47

ケ

言語設定	97
------------	----

コ

コーラス	32
コーラストाइプリスト	87
コピー	66
困ったときは	111
コントラスト	96
コンピューター	73
コンピューターとつなぐ	2

サ

再生(ソング)	42
再生(パート)	46
再生(リズム)	40
削除	65

シ

システムメニュー	93
手動接続	80
詳細設定	83
初期化(USBフラッシュメモリー)	96
初期化(楽器)	101

ス

ステレオフォニックオプティマイザー	20
ストリングレゾナンス	26
スピーカー	96
スプリット	34
スプリットポイント	34
スマートデバイス	74

スマートデバイスアプリ	77
スマートデバイス接続マニュアル	2
スマートピアニスト	77

セ

接続	68
----------	----

ソ

操作パネル	22
ソステヌートペダル	21
ソフトペダル	21
ソング	41
ソング一覧	106
ソングファイル	63
ソング名変更	67
ソングメニュー	88
ソングリピート	49

タ

タッチ	26, 93
タッチパネル操作音	97
ダンパーノイズ	26, 27
ダンパーペダル	21
ダンパーレゾナンス	26

チ

チューニング	93
--------------	----

テ

データリスト	2
デモ曲	30
デュアル	33
デュオ	36
電源	14
電源アダプター	14
テンポ	38
テンポ(ソング)	45

ト

トラック録音	55
トランスポーズ(鍵盤)	84
トランスポーズ(ソング)	88

ネ

ネットワーク	78
--------------	----

ハ

バージョン	97
パート	46
ハーフペダル	21
ハーフペダルの位置	27, 94
バイノーラル	94
バイノーラルサンプリング	20
バックアップ	100
早送り	44
早戻し	44

ヒ

ピアノ設定	84
ピアノルーム	25

ピッチベンド	94
拍子	39

フ

ファイル操作	63
ファクトリーリセット	101
フォルデピアノ	11
譜面立て	17
譜面止め	17
ブライトネス	26
ブリリアンス	31

ヘ

ベース	91
ペアリング	75
ペダル	21, 94
ペダル機能リスト	87
ヘッドホン	19
ベル	91
編集(ソング)	89
編集(ボイス)	85

ホ

ボイス	28
ボイス一覧	102
ボイスデモ	30
ボイスデモ一覧	105
ボイスメニュー	84
保存(バックアップファイル)	100
ボディレゾナンス	26

メ

メッセージ一覧	108
メトロノーム	38
メトロノーム/リズムメニュー	91
メニュー画面	83

ユ

ユーザー	42
ユーティリティ	96

ラ

ランダム(再生)	49
----------------	----

リ

リストア	101
リズム	40
リズム一覧	107
リバーブ	26, 32
リバーブタイプリスト	87
リピート再生	47

レ

レッスン曲	106
連続再生	49

ロ

ローカルコントロール	95
録音	52
録音メニュー	92

Apache License 2.0

Copyright (c) 2009-2018 Arm Limited. All rights reserved.

SPDX-License-Identifier: Apache-2.0

Licensed under the Apache License, Version 2.0 (the License); you may not use this file except in compliance with the License. You may obtain a copy of the License at www.apache.org/licenses/LICENSE-2.0

Unless required by applicable law or agreed to in writing, software distributed under the License is distributed on an AS IS BASIS, WITHOUT WARRANTIES OR CONDITIONS OF ANY KIND, either express or implied.

See the License for the specific language governing permissions and limitations under the License.

Modified BSD license

COPYRIGHT(c) 2016 STMicroelectronics

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
3. Neither the name of STMicroelectronics nor the names of its contributors may be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE COPYRIGHT HOLDERS AND CONTRIBUTORS "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE COPYRIGHT HOLDER OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

保証とアフターサービス

サービスのご依頼、お問い合わせは、お買い上げ店、またはヤマハ修理ご相談センターにご連絡ください。

● 保証書

本製品には保証書が付いています。

「販売店印・お買い上げ日」が記入されている場合は、記載内容をお確かめのうえ、大切に保管してください。記入されていない場合は、購入を証明する書類(領収書、納品書など)とあわせて、大切に保管してください。

● 保証期間

保証書をご覧ください。

● 保証期間中の修理

保証書記載内容に基づいて修理いたします。詳しくは保証書をご覧ください。

● 保証期間経過後の修理

修理すれば使用できる場合は、ご希望により有料にて修理させていただきます。

有寿命部品については、使用時間や使用環境などにより劣化しやすいため、消耗劣化に応じて部品の交換が必要となります。有寿命部品の交換は、お買い上げ店またはヤマハ修理ご相談センターへご相談ください。

有寿命部品の例

ポリウムコントロール、スイッチ、ランプ、リレー類、接続端子、鍵盤機構部品、鍵盤接点、ドラムパッドなど

● 補修用性能部品の最低保有期間

製品の機能を維持するために必要な部品の最低保有期間は、製造打切後8年です。

● 修理のご依頼

まず本書の「困ったときは」をよくお読みのうえ、もう一度お調べください。

それでも異常があるときは、お買い上げの販売店、またはヤマハ修理ご相談センターへご連絡ください。

● 製品の状態は詳しく

修理をご依頼いただくときは、製品名、モデル名などとあわせて、故障の状態をできるだけ詳しくお知らせください。

● 修理に関するお問い合わせ

ヤマハ修理ご相談センター



ナビダイヤル(全国共通番号)

0570-012-808

ナビダイヤル®

※固定電話は、全国市内通話料金でご利用いただけます。
通話料金は音声案内で確認できます。

上記番号でつながらない場合は TEL 053-460-4830 へおかけください。

受付 月曜日～金曜日 10:00～17:00

(土曜、日曜、祝日およびセンター指定の休日を除く)

FAX 東日本(北海道/東北/関東/甲信越/東海)

03-5762-2125

西日本(北陸/近畿/中国/四国/九州/沖縄)

06-6649-9340

● 修理品お持込み窓口

受付 月曜日～金曜日 10:00～17:00

(土曜、日曜、祝日およびセンター指定の休日を除く)

* お電話は、ヤマハ修理ご相談センターでお受けします。

東日本サービスセンター

〒143-0006

東京都大田区平和島2丁目1-1

京浜トラックターミナル内14号棟A-5F

FAX 03-5762-2125

西日本サービスセンター

〒556-0011

大阪市浪速区難波中1丁目13-17

ナンバビル7F

FAX 06-6649-9340

*名称、住所、電話番号、営業時間などは変更になる場合があります。

◆クラビノーバの仕様や取り扱いに関するお問い合わせ
ご購入の特約店または下記ヤマハお客様コミュニケーションセンターへ
お問い合わせください。

お客様コミュニケーションセンター 電子ピアノ・キーボードご相談窓口



ナビダイヤル(全国共通番号)

0570-006-808

※固定電話は、全国市内通話料金でご利用いただけます。
通話料金は音声案内で確認できます。

上記番号でつながらない場合は TEL 053-460-5272 へおかけください。

受付 月曜日～金曜日 10:00 ～ 17:00

(土曜、日曜、祝日およびセンター指定の休日を除く)

<https://jp.yamaha.com/support/>

◆ウェブサイトのご案内

ヤマハ株式会社ホームページ
<https://jp.yamaha.com/>

ヤマハピアノ・電子ピアノサイト
<https://jp.yamaha.com/piano/>

ヤマハサポート・お問い合わせ
<https://jp.yamaha.com/support/>

ヤマハミュージックデータショップ
<https://yamahamusicdata.jp/>

ヤマハ株式会社

〒430-8650 静岡県浜松市中区中沢町 10-1

*都合により、住所、電話番号、名称、営業時間などに変更になる場合がございますので、あらかじめご了承ください。

Manual Development Group
© 2020 Yamaha Corporation

2021年4月 発行 MWMA*.*- **W-C0

VCS3310